

昭和三十六年通商産業省令第九十五号

割賦販売法施行規則

割賦販売法（昭和三十六年法律第五十九号）の規定に基づき、および同法を実施するため、割賦販売法施行規則を次のように制定する。

目次

- 第一章 総則（第一条）
- 第二章 割賦販売
- 第一章の二 割賦販売
 - 第一節 総則（第一条の二―第十一條）
 - 第二節 前払式割賦販売（第十二條―第二十六條）
- 第二章 ローン提携販売（第二十七條―第三十五條）
- 第三章 信用購入あつせん
 - 第一節 包括信用購入あつせん
 - 第一款 業務（第三十六條―第六十條）
 - 第二款 包括支払可能見込額の調査等の特例（第六十一條―第六十二條の六）
 - 第三款 包括信用購入あつせん業者の登録等（第六十三條―第六十八條）
 - 第四款 登録少額包括信用購入あつせん業者（第六十八條の三―第六十八條の十七）
- 第二節 個別信用購入あつせん
 - 第一款 業務（第六十九條―第九十八條）
 - 第二款 個別信用購入あつせん業者の登録等（第九十九條―第一百三三條）
- 第三節 指定信用情報機関
 - 第一款 通則（第一百三三條の二―第一百八八條）
 - 第二款 業務（第一百九條―第一百四四條）
 - 第三款 監督（第一百五五條―第一百七七條）
 - 第四款 加入包括信用購入あつせん業者及び加入個別信用購入あつせん業者（第一百八八條―第二百一十一條）
- 第四章 前払式特定取引（第二百二十二條―第二百五五條）
- 第五章 指定受託機関（第二百二十六條―第二百三十一條）
- 第六章 クレジットカード番号等の適切な管理
 - 第一節 クレジットカード番号等の適切な管理（第二百三十二條―第二百三十三條）
 - 第二節 クレジットカード番号等取扱契約（第二百三十三條の二―第二百三十三條の十四）

第七章 認定割賦販売協会（第三百三十四條―第三百三十五條）

第八章 雑則（第三百三十六條―第四百二十二條）

附則

- 第一章 総則
 - （用語の定義）
 - 第一条 この命令において使用する用語は、特段の定めがある場合を除くほか、割賦販売法（昭和三十六年法律第五十九号。以下「法」という。）において使用する用語の例による。
- 第二章 割賦販売
 - 第一節 総則
 - （割賦販売条件の表示の方法）
 - 第一条の二 法第三条第一項各号の事項は、次に定めるところにより示さなければならない。ただし、同項第四号の事項にあつては、賦払金の支払の方法が購入者又は役務の提供を受ける者（以下本節、第二章、第三章（第四十四條から第四十七條まで、第五十六條から第五十八條まで、第七十一條、第七十二条、第七十三條、第七十四條第一項第四号及び第二項、第三十八條から第九十一條まで並びに第三節を除く。）、第七章及び別表第一において「購入者等」という。）の要求により支払の間隔については第二項第一号に、額については同項第二号に該当する場合以外の場合になつたとき又は割賦手数料（金利、信用調査費、集金費、事務管理費、貸倒補てん費その他何らの名義をもつてするを問はず割賦販売に係る手数料として割賦販売業者が購入者等に対し支払わせるものの総額（抵当権の設定の登記若しくは登録若しくはこれらの抹消に要する手数料又は公正証書の作成に要する手数料（法令に規定する手数料に限る。以下「登記等手数料」という。）を割賦販売の手数料に含めない旨が明示されているときは、登記等手数料を控除した額。以下同じ。）が二千五百円未満のときは、示さないことができる。

三 日本産業規格Z八三〇五に規定する八ポイント以上の大きさの文字及び数字を用いること。

四 法第三条第一項第四号の事項は、次項に規定する方法により算定した割賦手数料の料率を年利建てで少なくとも〇・一パーセントの単位まで示し、かつ、当該料率以外の料率を示さないこと。

- 2 法第三条第一項第四号の経済産業省令・内閣府令で定める方法は、別表第一第一号に定める方法とする。ただし、賦払金の支払の方法が、支払の間隔については第一号に、額については第二号に該当する場合以外の場合にあつては、同表第二号に定める方法とすることができる。
- 一 賦払金の支払の間隔が次のいずれかに該当する場合
 - イ 支払期間における賦払金の支払が月一回であり、かつ、等間隔である場合
 - ロ イに掲げる場合を除き、契約の締結された日から第一回の賦払金の支払日の前日までの期間が二月未満であつて、第一回の賦払金の支払日から支払期間の終了の日までの支払が月一回であり、かつ、等間隔である場合
- 二 賦払金の額が次のいずれかに該当する場合
 - イ 賦払金の額が均等である場合
 - ロ 任意の一回の賦払金を除く他の賦払金の額が均等であり、当該均等な賦払金の額と異なる一回の賦払金の額が他の均等な賦払金の額の一・五倍に相当する額以下の額である場合
- ハ 支払期間のうち六月、七月、八月、十二月若しくは一月が含まれている場合（支払期間が一年未満の場合に限る。）であつて、支払期間において当該六月、七月、八月、十二月若しくは一月のうちの一月のみにあつて、賦払金の額が他の均等な賦払金の額を超えている場合又は支払期間のうち六月、七月若しくは八月と十二月若しくは一月が含まれている場合であつて、支払期間において当該六月、七月若しくは八月のうちの一月の月と十二月若しくは一月のうちの一月の月と十二（以下「特定の二月の賦払金」という。）以外の賦払金についてイ若しくはロに該当

しており、かつ、特定の二月の賦払金の額が同額で他の賦払金の額を超えている場合

第二条 法第三条第二項各号の事項を記載した書面を交付するときは、次の各号に定めるところによらなければならない。

- 一 利用者が読みやすく、理解しやすきような用語により、正確に記載すること。
- 二 日本産業規格Z八三〇五に規定する八ポイント以上の大きさの文字及び数字を用いること。
- 三 法第三条第二項第二号の事項は、次項に規定する方法により算定した割賦手数料の料率を年利建てで少なくとも〇・一パーセントの単位まで示し、かつ、当該料率以外の料率を示さないこと。
- 2 法第三条第二項第二号の経済産業省令・内閣府令で定める方法は、別表第一第一号に定める方法とする。ただし、賦払金の支払の方法が、支払の間隔については前条第二項第一号に、額については同項第二号に該当する場合以外の場合にあつては、同表第二号に定める方法とすることができる。
- 3 法第三条第二項第三号の経済産業省令・内閣府令で定める事項は、次のとおりとする。
 - 一 商品若しくは権利の割賦販売価格又は役務の割賦提供価格の具体的算定例
 - 二 極度額（割賦販売の方法により指定商品若しくは指定権利を購入し、又は指定役務を受領することができる額の上限であつて、あらかじめ定められたものをいう。次条第三項第二号において同じ。）について定めがあるときは、その金額
 - 三 前号に定めるもののほか、カード等の利用に関する特約があるときは、その内容
- 第三条 法第三条第三項各号の事項を記載した書面を交付するときは、次の各号に定めるところによらなければならない。
 - 一 利用者が読みやすく、理解しやすきような用語により、正確に記載すること。
 - 二 日本産業規格Z八三〇五に規定する八ポイント以上の大きさの文字及び数字を用いること。
 - 三 法第三条第三項第二号の事項は、次項に規定する方法により算定した割賦手数料の料率を年利建てで少なくとも〇・一パーセントの単位まで示し、かつ、当該料率以外の料率を示さないこと。

2 法第三条第三項第二号の経済産業省令・内閣府令で定める方法は、別表第一第三号に定める方法とする。

3 法第三条第三項第三号の経済産業省令・内閣府令で定める事項は、次のとおりとする。

- 一 弁済金の額の具体的算定例
- 二 極度額について定めがあるときは、その金額
- 三 前号に定めるもののほか、カード等の利用に関する特約があるときは、その内容

第四条 法第三条第四項の規定により、同条第一項、第二項又は第三項の割賦販売の方法により指定商品若しくは指定権利を販売する場合は、販売条件又は指定役務を提供する場合の提供条件について広告するときは、それぞれ同条第一項各号、第二項各号又は第三項各号の事項について次の各号に定めるところにより表示しなければならない。ただし、同条第一項第四号の事項にあつては、割賦手数料が二千五百円未満のときは、表示しないことができる。

- 一 法第三条第一項各号、第二項各号又は第三項各号の事項について、指定商品若しくは指定権利を販売しようとする相手方若しくは指定役務を提供しようとする相手方又は利用者が読みやすく、理解しやすいうような用語により、正確に表示すること。
- 二 書面により広告を行う場合にあつては、日本産業規格Z八三〇五に規定する八ポイント以上の大きさの文字及び数字を用いること。
- 三 法第三条第一項第四号、第二項第二号又は第三項第二号の事項は、それぞれ第一条の第二項、第二条第二項又は第三条第二項に規定する方法により算定した割賦手数料の料率を年利建てで少なくとも〇・一パーセントの単位まで示し、かつ、当該料率以外の料率を示さないこと。

第五条 法第四条第一項第七号の経済産業省令・内閣府令で定める事項は、次のとおりとする。ただし、法第三条第二項の割賦販売の方法により指定商品若しくは指定権利を販売する契約又は指定役務を提供する契約を締結した場合においては第五号に掲げる事項を、同項の割賦販売の方法により指定商品を販売する契約であつても当該契約に係る指定商品の種類が二以上あるものを締結した場合においては第三号及び第四号に掲げる事項（現金販売価格が三千円に満たない指定商品（当該契約に係る指定商品のうち現金販売価格が最も高額であるものを除く。）に係るものに限る。）をそれぞれ記載しないことができる。

- 一 割賦販売業者の名称及び住所又は電話番号
- 二 契約年月日
- 三 商品若しくは権利又は役務の種類
- 四 商品の数量（権利又は役務の場合にあつては、契約上権利を行使し得る回数若しくは期間又は役務の提供を受けることができる回数若しくは期間）
- 五 頭金又は初回金の額
- 六 割賦販売の支払回数
- 七 割賦販売の方法により指定商品若しくは指定権利を販売する契約又は指定役務を提供する契約（以下「割賦販売の契約」という。）について購入者等が問合わせ、相談等を行うことができる機関の名称及び住所又は電話番号
- 八 前払式割賦販売の場合を除き、支払時期の到来していない割賦金の支払を請求することについての定めがあるときは、その内容
- 九 割賦金の支払の義務が履行されない場合（契約が解除された場合を除く。）の損害賠償額の予定又は違約金の定めがあるときは、その内容
- 十 役務の提供が指定商品又は指定権利の販売の条件となつているときは、当該役務の内容、提供時期その他当該役務に関する事項
- 十一 商品の販売が指定権利の販売又は指定役務の提供の条件となつているときは、当該商品の内容、引渡し時期その他当該商品に関する事項
- 十二 権利の販売が指定商品の販売又は指定役務の提供の条件となつているときは、当該権利の内容、移転時期その他当該権利に関する事項
- 十三 商品が種類又は品質に関して契約の内容に適合しない場合の責任についての定めがあるときは、その内容
- 十四 前各号に掲げるもののほか特約があるときは、その内容
- 十五 割賦販売の契約が連鎖販売個人契約又は業務提供誘引販売個人契約であるときは、その旨

第六条 法第四条第一項の規定（法第三条第一項の割賦販売の場合に限る。）により法第四条第一項各号に掲げる事項を記載した書面を交付するときは、次の各号に定めるところによらなければならない。

- 一 購入者等が読みやすく、理解しやすいうような用語により、正確に記載すること。
- 二 法第四条第一項第五号に掲げる事項については、その内容が次の基準に合致していること。
 - イ 購入者等からの契約の解除ができない旨が定められていないこと。
 - ロ 割賦販売の契約の締結の前に割賦販売業者が見本、カタログ等により購入者等に対し提示した当該契約の内容と当該購入者等が受領した商品若しくは権利又は提供を受ける役務が相違している場合には、購入者等は、当該契約の解除をすることができる旨が定められていること。
 - ハ 購入者等の支払義務の不履行により契約を解除することができる場合は、割賦販売業者が定める一定期間にわたり義務の不履行があつた場合であつて、割賦販売業者が二十日以上相当な期間を定めてその支払を書面で催告し、その期間内にその義務が履行されない場合に限り旨が定められていること。
 - ニ 購入者等の責に帰すべき事由により契約が解除された場合の損害賠償等の額についての定めが法第六条第一項、第三項及び第四項の規定に合致していること。
 - ホ 割賦販売業者の責に帰すべき事由により契約が解除された場合における割賦販売業者の義務に関し、民法（明治二十九年法律第八十九号）第五百四十五条に規定するものより購入者等に不利な特約が定められていないこと。
- 三 法第四条第一項第六号並びに前条第八号、第九号、第十三号及び第十四号に掲げる事項のうち次の表の上欄に掲げる事項についての定めがあるときは、その内容がそれぞれ同表の下欄の基準に合致していること。

事項	内容の基準
一 所有権の移転に関する事項	イ 商品の所有権の移転の時期が明示されていること。 ロ 商品の所有権の移転前において、購入者は、

事項	内容
二 支払時期の到来しない割賦金の支払の請求に関する事項	イ 購入者等の支払義務の不履行により支払時期の到来していない割賦金の支払を請求することができる場合は、割賦販売業者が定める一定期間にわたり義務の不履行があつた場合であつて、割賦販売業者が二十日以上相当な期間を定めてその支払を書面で催告し、その期間内にその義務が履行されない場合に限り旨が定められていること。 ロ 購入者等の支払義務の不履行以外の事由により支払時期の到来していない割賦金の支払を請求することができる場合は、購入者等の信用が著しく悪化した場合又は重要な契約条項違反があつた場合以外の場合が定められていること。
三 割賦金の支払の義務が履行されない場合（契約が解除された場合を除く。）の損害賠償額の予定又は違約金の定めが法第六条第一項の規定に合致していること。	
四 商品が種類又は品質に関して契約の内容に適合しない場合に割賦販売業者がその不適合（道路運送車両法（昭和二十六年法律	

<p>適合しない場合の責任に関する事項</p> <p>第百八十五号)の規定による臨時運行以外の運行の用に供された旨が明示されている自動車に係るものであつて、当該運行の用に供されたことにより通常生ずるものを除く。)について責任を負わない旨が定められていないこと。</p>	<p>五 法第四十条第一項並びに前条第六号並びに第九号及び第十三号に掲げるもの以外の特約</p> <p>法令に違反する特約が定められていないこと。</p>
--	---

<p>七 弁済金の支払の義務が履行されない場合(契約が解除された場合を除く。)の損害賠償額の予定又は違約金の定めがあるときは、その内容</p> <p>八 役務の提供が指定商品又は指定権利の販売の条件となつているときは、当該役務の内容、提供時期その他当該役務に関する事項</p> <p>九 商品の販売が指定権利の販売又は指定役務の提供の条件となつているときは、当該商品の内容、引渡し時期その他当該商品に関する事項</p> <p>十 権利の販売が指定商品の販売又は指定役務の提供の条件となつているときは、当該権利の内容、移転時期その他当該権利に関する事項</p> <p>十一 商品が種類又は品質に関して契約の内容に適合しない場合の責任についての定めがあるときは、その内容</p> <p>十二 前各号に掲げるもののほか特約があるときは、その内容</p> <p>十三 割賦販売の契約が連鎖販売個人契約又は業務提供誘引販売個人契約であるときは、その旨</p>	<p>二 前項の規定は、法第三条第二項の割賦販売の場合に準用する。</p> <p>第七條 法第四條第二項第六號の經濟産業省令・内閣府令で定める事項は、次のとおりとする。ただし、割賦販売の契約であつて当該契約に係る指定商品の種類が二以上あるものを締結した場合においては、第三号及び第四号に掲げる事項(現金販売価格が三千円に満たない指定商品(当該契約に係る指定商品のうち現金販売価格が最も高額であるものを除く。)に係るものに限る。)を記載しないことができる。</p> <p>一 割賦販売業者の名称及び住所又は電話番号</p> <p>二 契約年月日</p> <p>三 商品若しくは権利又は役務の種類</p> <p>四 商品の数量(権利又は役務の場合にあつては、契約上権利を行使し得る回数若しくは期間又は役務の提供を受けることができる回数若しくは期間)</p> <p>五 割賦販売の契約について購入者等が問合わせ、相談等を行うことができる機関の名称及び住所又は電話番号</p> <p>六 支払時期の到来していない弁済金の支払を請求することについての定めがあるときは、その内容</p>
--	---

<p>履行されない場合に限る旨が定められていること。</p> <p>二 割賦販売業者の責に帰すべき事由により契約が解除された場合における割賦販売業者の義務に関し、民法第五百四十五条に規定するものより購入者等に不利な特約が定められていないこと。</p> <p>三 法第四條第二項第五号並びに前條第六号、第十一号及び第十二号に掲げる事項のうち次の表の上欄に掲げる事項についての定めがあるときは、その内容がそれぞれ同表の下欄の基準に合致していること。</p>	<p>一 所有権の移転に関する事項</p> <p>イ 商品の所有権の移転の時期が明示されていること。</p> <p>ロ 商品の所有権の移転前においては、購入者は、当該商品を担保に供し、譲渡し、又は転売することができない旨が定められていること。</p> <p>二 支払時期の到来していない弁済金の支払に関する事項</p> <p>イ 購入者等の支払義務の不履行により支払時期の到来していない弁済金の支払を請求することができる場合は、割賦販売業者が定める一定期間にわたり義務の不履行があつた場合であつて、割賦販売業者が二十日以上上の相当な期間を定めてその支払を書面で催告し、その期間内にその義務が履行されない場合に限る旨が定められていること。</p> <p>ロ 購入者等の支払義務の不履行以外の事由により支払時期の到来していない弁済金の支払を請求することができる場合は、購入者等の信用が著しく悪化した場合又は重要な契約条項違反があつた場合以外の場合が定められていないこと。</p>
--	---

<p>三 商品が種類又は品質に関する事項</p> <p>商品が種類又は品質に関して契約の内容に適合しない場合(道路運送車両法の規定による臨時運行以外の運行の用に供された旨が明示されている自動車に係るものであつて、当該運行の用に供されたことにより通常生ずるものを除く。)について責任を負わない旨が定められていないこと。</p>	<p>四 法第四條第二項並びに前条第六号及び第十一号に掲げるもの以外の特約</p> <p>法令に違反する特約が定められていないこと。</p> <p>第九條 法第四條第三項各号に掲げる事項を記載した書面を交付するときは、次の各号に定めるところによらなければならない。</p> <p>一 購入者等が読みやすく、理解しやすいうような用語により、正確に記載すること。</p> <p>二 弁済金の算定根拠については、遅延損害金及び割賦販売の手数料以外の債務のうち未払ととして残っている額、弁済金の内訳その他弁済金の額の算出に必要な事項を記載すること。</p> <p>三 日本産業規格Z八三〇五に規定する八ポイント以上の大きさの文字及び数字を用いること。</p> <p>(情報通信の技術を利用する方法)</p> <p>第十條 法第四條の二の經濟産業省令・内閣府令で定める方法は、次に掲げる方法とする。</p> <p>一 電子情報処理組織を使用する方法のうちイ又はロに掲げるもの</p> <p>イ 割賦販売業者の使用に係る電子計算機と利用者又は購入者等の使用に係る電子計算機とを接続する電気通信回線を通じて送信</p>
--	--

し、受信者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録する方法

ロ 割賦販売業者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録された書面に記載すべき事項を電気通信回線を通じて利用者又は購入者等の閲覧に供し、当該利用者又は購入者等の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに当該事項を記録する方法（法第四条の二前段に規定する方法による提供を受ける旨の承諾又は受けない旨の申出をする場合にあつては、割賦販売業者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルにその旨を記録する方法）

二 電磁的記録媒体（電磁的記録に係る記録媒体をいう。以下同じ。）をもつて調製するファイルに書面に記載すべき事項を記録したものを交付する方法

2 前項に掲げる方法は、利用者又は購入者等がファイルへの記録を出力することにより書面を作成することができるものでなければならぬ。

3 第一項第一号の「電子情報処理組織」とは、割賦販売業者の使用に係る電子計算機と、利用者又は購入者等の使用に係る電子計算機とを電気通信回線で接続した電子情報処理組織をいう。

第十一条 割賦販売法施行令（昭和三十六年政令第三百四十一号。以下「令」という。）第二条の規定により示すべき方法の種類及び内容は、次に掲げる事項とする。

一 前条第一項に規定する方法のうち割賦販売業者が使用するもの

二 ファイルへの記録の方式

（許可の申請）

第十二条 法第十二条第一項の申請書は、様式第一によるものとする。

2 法第十二条第二項の経済産業省令で定める書類は、次のとおりとする。

一 許可申請書提出日前一月以内の一定の日の現在において様式第二により作成した財産に関する調書及び様式第三により作成した許可申請書提出日の直前事業年度の収支に関する調書並びに許可申請書提出日の直前五事業年度（事業年度が六月の法人にあつては、直前十事業年度）の貸借対照表（関連する注記を含む。第二百二十二条第二項第一号において同

じ）、損益計算書（関連する注記を含む。同号において同じ。）及び株主資本等変動計算書（関連する注記を含む。同号において同じ。）又はこれらに代わる書面

二 次の事項を記載した許可後五事業年度（事業年度が六月の法人にあつては、許可後十事業年度）の業務計画書

イ 前払式割賦販売の方法により販売しようとする指定商品の販売計画

ロ 収支計画

ハ 資金計画

三 役員履歴書

四 法第十五条第一項第六号から第八号までの規定に該当しないことを誓約する書面

五 前払式割賦販売に関する代理店を有するときは、代理店契約書の写し

六 申請の日前一年間における指定商品の種類別の前払式割賦販売の方法による販売額

法第十二条第三項の経済産業省令で定める電磁的記録は、情報通信技術を活用した行政の推進等に関する法律（平成十四年法律第五十一号。第四百四十条において「情報通信技術活用法」という。）第六条第一項に定める行政機関等の使用に係る電子計算機から入手され記録されたものとする。

（前払式割賦販売契約約款の基準）

第十三条 法第十五条第一項第五号の経済産業省令・内閣府令で定める基準は、次のとおりとする。

一 次の事項が記載される欄があること。

イ 販売者の名称及び住所

ロ 購入者の氏名

ハ 契約番号

ニ 契約年月日

ホ 商品の種類

ヘ 商品の数量

ト 前払式割賦販売売価格

チ 賦払金の金額 回数 支払時期及び支払の方法

リ 前払式割賦販売契約約款の交付の時期及び交付の方法

二 購入者が読みやすく、理解しやすいような用語により、正確に記載すること。

三 次の表の上欄の事項（商品の引渡しを受け前代金の一部を支払う旨を定める前払式割賦販売契約約款にあつては、同欄の一から五までの項の事項）が記載されており、か

記載すべき事項	内容の基準
一 収書の発行に際しては、領収書を発行する旨が定められていること。	支払の方法が集金又は持参の場合には、領収書を発行する旨が定められていること。
二 商品の引渡し時、商品の引渡しを受け前代金を完済後三十日以内の一定期間が定められていること。	引渡し時期として商品の引渡しを受け前代金を完済後三十日以内の一定期間が定められていること。
三 契約解除の事由に、購入者の支払義務の不履行によるものがあること。	購入者の支払義務の不履行により契約を解除する場合は、販売者が定める一定期間にわたる義務の不履行があつた場合であつて、販売者が二十日以上前払式割賦販売法施行令で定める期間を定めてその支払を書面で催告し、その期間内にその義務が履行されない場合に限り、購入者の責に帰すべき事由により契約の目的を達することができなくなつた場合には、購入者は当該契約を解除することができる旨が定められていること。
四 契約解除の事由に、購入者の責に帰すべき事由によるものがあること。	購入者の責に帰すべき事由により契約を解除する場合には、契約解除の日から六十日以内の一定の期間内に購入者が既に支払つた金額から契約の締結及び履行のために通常要する費用の額を控除した額を払い戻す旨が定められており、かつ、その額が、購入者が容易に計算することができる方法により明確に表示されていること、並びに販売者の責に

記載すべき事項	内容の基準
五 代金の残額に、前払式割賦販売法施行令で定める一定の利率を乗じた額を払い戻す旨が定められていること。	購入者は、賦払金の支払の途中において、契約に係る商品の現金販売価格から支払済金額及び支払済金額に法定利率を乗じた額以上の一定額の合計額を控除した額を現金で支払つた場合には、当該商品の引渡しを受け、契約を結了することができる旨が定められていること。
六 前払式割賦販売法施行令で定める一定の利率を乗じた額を払い戻す旨が定められていること。	購入者は、販売者が定める一定の回数以上賦払金を支払つた場合であつて、販売者が定める条件に適合するときは、当該割賦販売契約の内容を変更して商品の引渡しを受けることができる旨及びこの場合において販売者は支払済金額及び支払済金額に法定利率を乗じた額以上の一定額の合計額を変更後の代金の一部に充当する旨が定められていること。
七 前払式割賦販売法施行令で定める一定の利率を乗じた額を払い戻す旨が定められていること。	前払式割賦販売契約約款を交付する場合には、その交付の時期及び交付の方法並びに購入者から当該約款の再交付を求められたときは、遅滞なく、当該約款を再交付する旨が定められていること。
八 前払式割賦販売法施行令で定める一定の利率を乗じた額を払い戻す旨が定められていること。	前払式割賦販売契約約款の再交付をする場合には、その再交付に通常要する費用を超えて手数料を徴収すること。

口 契約締結後に販売者が消費税及び地方消費税の増額以外の理由により価格の引上げを行うことができること。

ハ 契約締結後に販売者が契約に係る商品を変更することができること。

ニ 購入者からの契約の解除ができない旨の特約

ホ 法第二十七条第二項に規定する特約へ当該契約に係る訴の属する裁判所の管轄につき購入者に著しく不利となる特約

ト イからハまでに掲げるもののほか、法令に違反する特約又は購入者に著しく不利となる特約

五 日本産業規格Z八三〇五に規定する八ポイント以上の大きさの文字及び数字を用いること。

(営業保証金の供託の届出)

第十四条 法第十六条第二項(法第十八条第二項及び第二十二條第三項において準用する場合を含む。)の規定による届出は、様式第四による届出書を提出してしなければならない。

(営業保証金等に充てることができる有価証券)

第十五条 法第十七条第二項(法第十八条第三項及び第二十二條の二第三項において準用する場合を含む。)の経済産業省令で定める有価証券は、次の各号に掲げるものとする。

一 金融商品取引法(昭和二十三年法律第二十五号)第二条第一項第一号から第三号までに規定する債券

二 前号に掲げるもののほか、担保付社債信託法(明治三十八年法律第五十二号)による担保付社債券及び法令により優先弁済を受ける権利を保証されている社債券(自己の社債券及び会社法(平成十七年法律第八十六号)による特別清算開始の命令を受け、特別清算開始の決定の確定がない会社、破産法(平成十六年法律第七十五号)による破産手続開始の決定を受け、破産終結の決定若しくは破産廃止の決定の確定がない会社、民事再生法(平成十一年法律第二百二十五号)による再生手続開始の決定を受け、再生手続終結の決定若しくは再生手続廃止の決定の確定がない会社又は会社更生法(平成十四年法律第五十四号)による更生手続開始の決定を受け、更生手続終結の決定若しくは更生手続廃止の決定の確定がない会社が発行した社債券を除く。

三 社債、株式等の振替に関する法律(平成十三年法律第七十五号)第八十八条に規定する振替国債

(営業保証金等に充てることができる有価証券の価額)

第十六条 法第十七條第二項(法第十八條第二項、第十八條の三第五項、第二十二條第三項及び第二十二條の二第三項において準用する場合を含む。)の規定により前条の有価証券を営業保証金又は前受業務保証金に充てる場合における当該有価証券の価額は、次の各号に掲げる有価証券の区分に従い、それぞれ当該各号に掲げる額とする。

一 前条第一号又は第三号に掲げる有価証券については、その額面金額の百分の九十五

二 前条第二号に掲げる有価証券については、その額面金額の百分の九十

2 割引の方法により発行した債券については、前項の規定の適用については、その発行価額に別記算式により算出した額を加えた額を額面金額とみなす。

(前受金保全措置)

第十七条 法第十八條の四第一項及び第二十二條第二項の規定による届出は、様式第五による届出書を提出してしなければならない。

第十八條 法第十八條の五第三項の承認の申請は、様式第六による申請書を提出してしなければならない。

2 法第十八條の五第五項の承認の申請は、様式第七の申請書を提出してしなければならない。

3 前項の申請書には、供託委託契約を解除したことを証する書面を添付しなければならない。

(承継の届出)

第十九條 法第十八條の六第二項の規定による届出は、様式第八による届出書を提出してしなければならない。

2 法第十八條の六第二項の事実を証する書面は、次のとおりとする。

一 登記事項証明書並びに役員の履歴書及び第十二條第二項第四号に規定する書面

二 事業の全部を譲り受けたことによつて許可割賦販売業者の地位を承継した法人にあつては、事業譲渡契約書の写し

(変更の届出)

第二十條 法第十九條第一項の規定による届出は、様式第九による届出書を提出してしなければならない。

2 法第十九條第二項の規定による届出は、様式第十による届出書を提出してしなければならない。

3 法第十九條第四項において準用する法第十二條第二項の経済産業省令で定める書類は、次のとおりとする。

一 法第十九條第一項の規定による届出にあつては、次に掲げるもの

イ その変更に係る事項を証する書類

ロ その変更が新たに就任した役員に係るものであるときは、当該役員の履歴書及び第十二條第二項第四号に掲げる書面(法第十九條第一項第八号に係るものに限る。)

ハ その変更が新たに前払式割賦販売に関する代理店を設置したことに係るものであるときは、代理店契約書の写し

ニ 法第十九條第二項の規定による届出にあつては、変更前及び変更後の前払式割賦販売契約約款

4 第十二條第三項の規定は、法第十九條第四項において準用する法第十二條第三項の経済産業省令で定める電磁的記録に準用する。

(帳簿の備付け)

第二十一條 法第十九條の二の帳簿は、主たる営業所(主たる営業所に備える帳簿に第三項各号に掲げる事項をすべて記載することが困難な場合には、主たる営業所及び従たる営業所であつて経済産業大臣に様式第十一による届出書の提出があつたもの)に備えなければならない。

2 帳簿は、閉鎖の日から起算して二年間保存しなければならない。

3 法第十九條の二の経済産業省令で定める事項は、次のとおりとする。

一 前払式割賦販売の契約を締結した者の氏名及び住所

二 契約番号

三 商品名

四 前払式割賦販売の契約に係る商品の代金の全部又は一部として受領した前受金(以下「予約前受金」という。)の残高

五 営業所又は代理店ごとの月末における予約前受金の合計額及び契約件数

六 主たる営業所及び第一項に規定する従たる営業所に帳簿を備える場合においては、主たる営業所に備える帳簿には、帳簿を備える営業所ごとの月末における予約前受金の合計額及び契約件数を記載しなければならない。

(改善命令に係る収支率等)

第二十二條 法第二十條の二第一項第一号の経済産業省令で定める率は、百分の百とする。

2 法第二十條の二第二項第二号の経済産業省令で定める率は、百分の九十とする。

3 法第二十條の二第一項第三号の経済産業省令で定める場合は、次のとおりとする。

一 資産の合計額から負債の合計額を控除した額が資本金又は出資の額に満たないとき。

二 予約前受金の合計額又は負債の合計額が財産の状況に照らし著しく過大であるとき。

三 前払式割賦販売に係る繰延費用を過大に計上しているときその他経理処理が健全なとき。

四 基準日において前受金保全措置により前払式割賦販売の契約によつて生じた債務の弁済に充てることができる額が当該基準日に係る基準額を下回つたとき。

五 販売員その他従業員に対する指導監督が十分でないとき。

六 前払式割賦販売の業務の委託先(委託先が法人であるときは、その業務を執行する社員、取締役、執行役その他の法人の代表者)又は代理店(代理店が法人であるときは、その業務を執行する社員、取締役、執行役その他の法人の代表者)に対する指導が十分でないとき。

七 購入者に対して、前払式割賦販売の契約に関する事項であつてその判断に影響を及ぼすこととなる重要なものにつき、事実を告げないとき、又は不実のことを告げ、若しくは表示したとき。

八 購入者に対して、不利益となるべき事実を告げずに、既に成立している前払式割賦販売の契約を消滅させて新たな前払式割賦販売の契約の申込みをさせ、又は新たな前払式割賦販売の契約の申込みをさせて既に成立している前払式割賦販売の契約を消滅させる行為を行つたとき。

九 前払式割賦販売の契約を締結させ、又は前払式割賦販売の契約の解除を妨げるため、購入者を威迫したとき。

十 購入者からの前払式割賦販売の契約の解除の申出を受けることを拒否し、又は不当に遅延させたとき。

十一 前払式割賦販売の業務に関して取得した購入者に関する情報の適切な取扱い及び購入

者からの苦情の適切かつ迅速な処理のために必要な措置を講じていないとき。

十二 前払式割賦販売契約約款に記載されている義務を履行しないとき。

十三 前払式割賦販売契約約款の内容が第十三条の基準に適合しないとき。

4 前項第一号に規定する資産の合計額又は負債の合計額、同項第二号に規定する予約前受金の合計額又は負債の合計額及び同項第三号に規定する前払式割賦販売に係る繰延費用は、その計算しようとする日（以下「計算日」という。）における帳簿価額（資産のうち受取手形、売掛金、貸付金及び未収入金については貸倒引当金を、有形固定資産（土地及び建設仮勘定を除く。）については減価償却引当金を控除した額。以下この項及び第二百二十四条第四項において同じ。）により計算するものとする。ただし、資産にあつてはその帳簿価額が当該資産を計算日において評価した額を超えるとき、負債にあつてはその帳簿価額が当該負債を計算日において評価した額を下るときは、その評価した額により計算するものとする。

第二十三条 法第二十条の二第二項に規定する収益の額は、純売上高（役務収益を含む。）の額及び営業外収益の額を合計して計算するものとする。この場合において、割賦販売に係る未実現利益を貸借対照表の負債の部に計上している許可割賦販売業者については、その未実現利益の当該事業年度における増加額は、収益の額から控除し、減少額は、収益の額に算入するものとする。

2 法第二十条の二第二項に規定する費用の額は、売上原価（役務原価を含む。）の額、販売費及び一般管理費の額並びに営業外費用の額を合計して計算するものとする。

3 前二項の場合において、前期損益修正その他通常の営業活動以外の原因により発生した特別の利益又は損失の額は、収益又は費用の額に算入しないものとする。

4 法第二十条の二第二項に規定する流動資産の合計額は、次の各号に掲げる資産の額を合計して計算するものとする。

- 一 現金
- 二 預金
- 三 受取手形
- 四 売掛金

- 五 有価証券（投資有価証券を除く。）
- 六 商品
- 七 製品
- 八 半製品
- 九 原材料
- 十 仕掛品
- 十一 貯蔵品
- 十二 前渡金
- 十三 前払費用（一年以内に償却されて費用となるべきものに限り。）
- 十四 短期貸付金
- 十五 立替金
- 十六 未収入金
- 十七 未収収益
- 十八 前払式割賦販売に係る繰延費用（一年以内に償却されて費用となるべきものに限り。）
- 十九 前各号に掲げるもの以外の資産（一年以内に現金化できると認められるものに限り。）

5 法第二十条の二第二項に規定する流動負債の合計額は、次の各号に掲げる負債を合計して計算するものとする。

- 一 支払手形
- 二 買掛金
- 三 短期借入金
- 四 未払金
- 五 未払費用
- 六 前払式割賦販売に係る前受金（一年以内に取り崩されると見込まれるものに限り。）
- 七 預り金
- 八 前受収益
- 九 未払法人税等
- 十 前各号に掲げるもの以外の負債（一年以内に支払い又は返済されると認められるものに限り。）

6 第四項又は前項に規定する資産又は負債の額は、計算日における帳簿価額（第四項第三号、第四号、第十四号及び第十六号に掲げる資産において同じ。）により計算するものとする。ただし、資産にあつては、その帳簿価額が当該資産を計算日において評価した額を超えるとき、負債にあつては、その帳簿価額が当該負債を計算日において評価した額を下るときは、その評価した額により計算するものとする。

第二十四条 法第二十条の四第二項の承認の申請は、様式第十二による申請書を提出してしなければならない。

（処分の公示）

第二十五条 法第二十四条（法第二十六条において準用する場合を含む。）の規定による公示は、官報に掲載してするものとする。

（廃止の届出）

第二十六条 法第二十六条第一項の規定による届出は、様式第十三による届出書を提出してしなければならない。

第二章 ローン提携販売

第二十七条 法第二十九条の二第一項各号の事項を記載した書面を交付するときは、次の各号に定めるところによらなければならない。

- 一 利用者が読みやすく、理解しやすいような用語により、正確に記載すること。
- 二 日本産業規格Z八三〇五に規定する八ポイント以上の大きさの文字及び数字を用いること。

三 法第二十九条の二第一項第二号の事項は、次項に規定する方法により算定した融資手数料（借入金の利息、保証料、信用調査費、事務管理費その他何らの名義をもつてするを問わずローン提携販売に係る手数料としてローン提携販売業者（購入者等の債務の保証について、ローン提携販売業者から委託を受けて保証を行う者を含む。）又は融資を行う者（購入者等がローン提携販売の方法により指定商品若しくは指定権利を購入し、又は指定役務の提供を受ける場合において、支払総額の全部又は一部に充てるための借入金の借入れを行う相手方をいう。）が購入者等に対し支払わせるものの総額（登記等手数料をローン提携販売に係る手数料に含めない旨が明示されているときは、登記等手数料を控除した額。以下同じ。）の利率を年利建てで少なくとも〇・一パーセントの単位まで示し、かつ、当該利率以外の利率を示さないこと。

2 法第二十九条の二第一項第二号の経済産業省令・内閣府令で定める方法は、別表第一第一号に定める方法とする。ただし、分割返済金の返済の方法が、返済の間隔については第一号にあっては第二号に該当する場合以外の場合（供託委託契約の受託者が供託した前受業務保証金の取戻し）

- 一 分割返済金の返済の間隔が次のいずれかに該当する場合
 - イ 返済期間における分割返済金の返済が月一回であり、かつ、等間隔である場合

ロ イに掲げる場合を除き、契約の締結された日から第一回の分割返済金の返済日の前日までの期間が二月未満であつて、第一回の分割返済金の返済日から返済期間の終了の日までの返済が月一回であり、かつ、等間隔である場合

二 分割返済金の額が次のいずれかに該当する場合

- イ 分割返済金の額が均等である場合
- ロ 任意の一回の分割返済金を除く他の分割返済金の額が均等であり、当該均等な分割返済金の額と異なる一回の分割返済金の額が他の均等な分割返済金の額の一・五倍に相当する額以下の額である場合
- ハ 返済期間のうち六月、七月、八月、十二月若しくは一月が含まれている場合（返済期間が一年未満の場合に限る。）であつて、返済期間において当該六月、七月、八月、十二月若しくは一月のうちの一月のみのみにおける分割返済金（以下「特定月の分割返済金」という。）以外の分割返済金についてイ若しくはロに該当しており、かつ、特定月の分割返済金の額が他の分割返済金の額を超えている場合又は返済期間のうち六月、七月若しくは八月と十二月若しくは一月が含まれている場合であつて、返済期間において当該六月、七月若しくは八月のうちの一月の月と十二月若しくは一月のうちの一月の月と十二月若しくは一月の月の分割返済金（以下「特定月の分割返済金」という。）以外の分割返済金についてイ若しくはロに該当しており、かつ、特定月の分割返済金の額が他の分割返済金の額を超えている場合

3 法第二十九条の二第一項第三号の経済産業省令・内閣府令で定める事項は、次のとおりとする。

2 法第二十九条の二第一項第三号の経済産業省令・内閣府令で定める事項は、次のとおりとする。

一 支払総額の具体的算定例

二 極度額（ローン提携販売の方法により指定商品若しくは指定権利を購入し、又は指定役務を受領することができるとする額）の上限であつて、あらかじめ定められたものをいう。次条第三項第二号において同じ。）について定めがあるときは、その金額

三 前号に定めるもののほか、カード等の利用に関する特約があるときは、その内容

- 一 支払総額の具体的算定例
- 二 極度額（ローン提携販売の方法により指定商品若しくは指定権利を購入し、又は指定役務を受領することができるとする額）の上限であつて、あらかじめ定められたものをいう。次条第三項第二号において同じ。）について定めがあるときは、その金額
- 三 前号に定めるもののほか、カード等の利用に関する特約があるときは、その内容

第二十八条 法第二十九条の第二項各号の事項を記載した書面を交付するときは、次の各号に定めるところによらなければならない。

- 一 利用者が読みやすく、理解しやすいよう用語により、正確に記載すること。
- 二 日本産業規格Z八三〇五に規定する八ポイント以上の大きさの文字及び数字を用いること。

三 法第二十九条の第二項第二号の事項は、次に規定する方法により算定した融資手数料の料率を年利建てで少なくとも〇・一パーセントの単位まで示し、かつ、当該料率以外の料率を示さないこと。

2 法第二十九条の第二項第二号の経済産業省令・内閣府令で定める方法は、別表第一第三号に定める方法とする。

3 法第二十九条の第二項第三号の経済産業省令・内閣府令で定める事項は、次のとおりとする。

- 一 弁済金の額の具体的算定例
- 二 極度額について定めがあるときは、その金額

三 前号に定めるもののほか、カード等の利用に関する特約があるときは、その内容

第二十九条 法第二十九条の第三項の規定により、同条第一項又は第二項のローン提携販売の方法により指定商品若しくは指定権利を販売する場合の販売条件又は指定役務を提供する場合の提供条件については広告をするときは、それぞれ同条第一項各号又は第二項各号の事項について次の各号に定めるところにより表示しなければならない。

一 法第二十九条の第二項各号又は第二項各号の事項について、利用者が読みやすく、理解しやすいよう用語により、正確に表示すること。

二 書面により広告を行う場合にあつては、日本産業規格Z八三〇五に規定する八ポイント以上の大きさの文字及び数字を用いること。

三 法第二十九条の第二項第二号又は第二項第二号の事項は、それぞれ第二十七条第二項又は前条第二項に規定する方法により算定した融資手数料の料率を年利建てで少なくとも〇・一パーセントの単位まで示し、かつ、当該料率以外の料率を示さないこと。

第三十条 法第二十九条の第三項第七号の経済産業省令・内閣府令で定める事項は、次のとおり

りとする。ただし、法第二十九条の第二項一のローン提携販売の方法により指定商品を販売する契約であつて、当該契約に係る指定商品の種類が二以上あるものを締結した場合においては、第三号及び第四号に掲げる事項（現金販売価格が三千円に満たない指定商品（当該契約に係る指定商品のうち現金販売価格が最も高額であるものを除く。）に係るものに限る。）を記載しないことができる。

- 一 ローン提携販売業者の名称及び住所又は電話番号
- 二 契約年月日
- 三 商品若しくは権利又は役務の種類
- 四 商品の数量（権利又は役務の場合にあつては、契約上権利を行使し得る回数若しくは期間又は役務の提供を受けることができる回数若しくは期間）
- 五 返還回数
- 六 ローン提携販売の方法により指定商品若しくは指定権利を販売する契約又は指定役務を提供する契約（以下「ローン提携販売の契約」という。）について購入者等が問合わせ、相談等を行うことができる機関の名称及び住所又は電話番号

七 法第二十九条の第四項において準用する法第三十条の第四項の規定に関する事項

八 役務の提供が指定商品又は指定権利の販売の条件となつているときは、当該役務の内容、提供時期その他当該役務に関する事項

九 商品の販売が指定権利の販売又は指定役務の提供の条件となつているときは、当該商品の内容、引渡し時期その他当該商品に関する事項

十 権利の販売が指定商品の販売又は指定役務の提供の条件となつているときは、当該権利の内容、移転時期その他当該権利に関する事項

十一 商品が種類又は品質に関して契約の内容に適合しない場合の責任についての定めがあるときは、その内容

十二 前各号に掲げるもののほか特約があるときは、その内容

十三 ローン提携販売の契約が連鎖販売個人契約又は業務提供誘引販売個人契約であるときは、その旨

第三十一条 法第二十九条の第三項の規定により同項各号に掲げる事項を記載した書面を交付

するときは、次の各号に定めるところによらなければならない。

- 一 購入者等が読みやすく、理解しやすいよう用語により、正確に記載すること。
- 二 法第二十九条の第三項第五号に掲げる事項については、その内容が次の基準に合致していること。
- イ 購入者等からの契約の解除ができない旨が定められていないこと。
- ロ ローン提携販売の契約の締結の前にローン提携販売業者が見本、カタログ等により購入者等に対し提示した当該契約の内容と当該購入者等が受領した商品若しくは権利又は提供を受ける役務が相違している場合には、購入者等は、当該契約の解除をすることができない旨が定められていること。
- ハ ローン提携販売業者の責に帰すべき事由により契約が解除された場合におけるローン提携販売業者の義務に関し、民法第五百四十五条に規定するものより購入者等に不利な特約が定められていないこと。

三 前条第七号に掲げる事項については、その内容に、指定商品若しくは指定権利の販売につきそれを販売したローン提携販売業者又は指定役務の提供につきそれを提供するローン提携販売業者に対して生じている事由をもつて、分割返済金の返済の請求をするローン提携業者に対抗できる旨が定められていること。

四 法第二十九条の第三項第六号並びに前条第十一号及び第十二号に掲げる事項のうち次の表の上欄に掲げる事項についての定めがあるときは、その内容がそれぞれ同表の下欄の基準に合致していること。

五 日本産業規格Z八三〇五に規定する八ポイント以上の大きさの文字及び数字を用いること。

第三十二条 法第二十九条の第三項第六号の経済産業省令・内閣府令で定める事項は、次のとおりとする。ただし、ローン提携販売の契約であつて当該契約に係る指定商品の種類が二以上あるものを締結した場合においては、第三号及び第四号に掲げる事項（現金販売価格が三千円に満たない指定商品（当該契約に係る指定商品のうち現金販売価格が最も高額であるものを除く。）に係るものに限る。）を記載しないことができる。

事項	内容の基準
一 所有権の移転に関する事項	イ 商品の所有権の移転の時期が明示されていること。 ロ 商品の所有権の移転前においては、購入者は、当該商品を担保に供し、譲渡し、又は転売することができない旨が定められていること。
二 商品が種類又は品質に関して契約の内容に適合しない	品質に関する契約の内容に適合しない場合の責任に関する事項 い場合にローン提携販売業者がその不適合（道路運送車両法の規定による臨時運行以外の運行の用に供された旨が明示されている自動車に係るもの）であつて、当該運行の用に供されたことにより通常生ずるものを除く。）について責任を負わない旨が定められていないこと。

三 法第二十九条の第三項第六号及び前条第十一号に掲げるもの以外の特約	法令に違反する特約が定められていないこと。
------------------------------------	-----------------------

六 法第二十九条の五の規定に関する事項

七 役務の提供が指定商品又は指定権利の販売の条件となつているときは、当該役務の内容、提供時期その他当該役務に関する事項

八 商品の販売が指定権利の販売又は指定役務の提供の条件となつているときは、当該商品の内容、引渡し時期その他当該商品に関する事項

九 権利の販売が指定商品の販売又は指定役務の提供の条件となつているときは、当該権利の内容、移転時期その他当該権利に関する事項

十 商品が種類又は品質に関して契約の内容に適合しない場合の責任についての定めがあるときは、その内容

十一 前各号に掲げるもののほか特約があるときは、その内容

十二 ローン提携販売の契約が連鎖販売個人契約又は業務提供誘引販売個人契約であるときは、その旨

第三十三条 法第二十九条の第三項の規定により同項各号に掲げる事項を記載した書面を交付するときは、次の各号に定めるところによらなければならない。

- 一 購入者等が読みやすく、理解しやすいような用語により、正確に記載すること。
- 二 法第二十九条の第三項第四号に掲げる事項については、その内容が次の基準に合致していること。
 - イ 購入者等からの契約の解除ができない旨が定められていないこと。
 - ロ ローン提携販売の契約の締結の前にローン提携販売業者が見本、カタログ等により購入者等に対し提示した当該契約の内容と当該購入者等が受領した商品若しくは権利又は提供を受ける役務が相違している場合には、購入者等は、当該契約の解除をすることができ旨が定められていること。
 - ハ ローン提携販売業者の責に帰すべき事由により契約が解除された場合におけるローン提携販売業者の義務に関し、民法第五百四十五条に規定するものより購入者等に不利な特約が定められていないこと。
- 三 前条第六号に掲げる事項については、その内容に、指定商品若しくは指定権利の販売につきそれを販売したローン提携販売業者又は指定役務の提供につきそれを提供するローン提携販売業者に対して生じている事由をもつて、弁済金の返済の請求をするローン提供者者に対抗できる旨が定められていること。

四 法第二十九条の第三項第五号、前条第十号及び第十一号に掲げる事項のうち次の表の上欄に掲げる事項についての定めがあるときは、その内容がそれぞれ同表の下欄の基準に合致していること。

事項	内容の基準
一 所有権の移転に関する事項	イ 商品の所有権の移転の時期が明示されていること。 ロ 商品の所有権の移転前においては、購入者は、当該商品を担保に供し、譲渡し、又は転売することができない旨が定められていること。
二 商品が種類又は品質に関して契約の内容に適合しない場合の責任に関する事項	商品が種類又は品質に関して契約の内容に適合しない場合にローン提携販売業者がその不適合（道路運送車両法の規定による臨時運行以外の運行の用に供された旨が明示されている自動車に係るもの）であつて、当該運行の用に供されたことにより通常生ずるものを除く。）について責任を負わない旨が定められていないこと。
三 法第二十九条の第三項第五号及び前条第十号に掲げるもの以外の特約	法令に違反する特約が定められていないこと。

五 日本産業規格Z八三〇五に規定する八ポイント以上の大きさの文字及び数字を用いること。

第三十四条 法第二十九条の第四項において読み替へて準用する法第四条の二の経済産業省令・内閣府令で定める方法は、次に掲げる方法とす。

(情報通信の技術を利用する方法)

一 電子情報処理組織を使用する方法のうちイ又はロに掲げるもの

イ ローン提携販売業者の使用に係る電子計算機と利用者又は購入者等の使用に係る電子計算機とを接続する電気通信回線を通じて送信し、受信者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録する方法

ロ ローン提携販売業者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録された書面に記載すべき事項を電気通信回線を通じて利用者又は購入者等の閲覧に供し、当該利用者又は購入者等の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに当該事項を記録する方法（法第二十九条の四第一項において読み替へて準用する法第四条の二前段に規定する方法による提供を受ける旨の承諾又は受け入れの旨の申出をする場合にあつては、ローン提携販売業者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルにその旨を記録する方法）

二 電磁的記録媒体をもつて調製するファイルに書面に記載すべき事項を記録したものを交付する方法

2 前項に掲げる方法は、利用者又は購入者等がファイルへの記録を出力することにより書面を作成できるものでなければならない。

3 第一項第一号の「電子情報処理組織」とは、ローン提携販売業者の使用に係る電子計算機と、利用者又は購入者等の使用に係る電子計算機とを電気通信回線で接続した電子情報処理組織をいう。

第三十五条 令第十七条において読み替へて準用する令第二条の規定により示すべき方法の種類及び内容は、次に掲げる事項とする。

一 前条第一項に規定する方法のうちローン提携販売業者が使用するもの

二 ファイルへの記録の方法

第三節 信用購入あつせん

第一章 包括信用購入あつせん

第一款 業務

第一節 業務

（包括信用購入あつせんの取引条件に関する情報の提供等）

第三十六条 法第三十条第一項の規定により同項各号に掲げる事項に係る情報を提供するときには、次の各号に定めるところによらなければならない。

一 利用者が読みやすく、理解しやすいようない用語により、正確に表示すること。

二 書面の交付又は電子情報処理組織を使用する方法その他の情報通信の技術を利用する方法により提供すること。

三 日本産業規格Z八三〇五に規定する八ポイント以上の大きさの文字及び数字を用いること。

四 法第三十条第一項第二号の事項は、第五項に規定する方法により算定した包括信用購入あつせんの手数料（金利、信用調査費、集金費、事務管理費、貸倒補てん費その他何らの名義をもつてするを問わず包括信用購入あつせんに係る手数料として）を問わず包括信用購入あつせん業者が購入者等に対し支払わせるものの総額（登記等手数料を包括信用購入あつせんの手数料に含めない旨が明示されているときは、登記等手数料を控除した額。以下同じ。）の料率を年利建てで少なくとも〇・一パーセントの単位まで示し、かつ、当該料率以外の料率を示さないこと。

2 前項第二号の情報通信の技術を利用する方法は、次に掲げる方法とする。

一 電子情報処理組織を使用する方法のうちイ、ロ、ハ又はニに掲げるもの

イ 包括信用購入あつせん業者の使用に係る電子計算機と利用者又は購入者等の使用に係る電子計算機とを接続する電気通信回線を通じて送信し、受信者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録する方法

ロ 包括信用購入あつせん業者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録された情報を提供すべき事項（以下「提供事項」という。）を電気通信回線を通じて利用者等の閲覧に供し、当該利用者等の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに当該提供事項を記録する方法

ハ 包括信用購入あつせん業者の使用に係る電子計算機に備えられたファイル（専ら利用者又は購入者等の用に供するものに限る。次項、第五十条、第五十三条、第五十五条の四及び第六十八条の七において「顧客ファイル」という。）に記録された提供事項を電気通信回線を通じて利用者等の閲覧に供する方法

ニ 閲覧ファイル（包括信用購入あつせん業者の使用に係る電子計算機に備えられたファイル）であつて、同時に複数の利用者又は購入者等の閲覧に供するための提供事項を

二 閲覧ファイル（包括信用購入あつせん業者の使用に係る電子計算機に備えられたファイル）であつて、同時に複数の利用者又は購入者等の閲覧に供するための提供事項を

記録させるファイルをいう。以下次項、第五十条、第五十五条の四及び第六十八条の七において同じ。）に記録された提供事項を電気通信回線を通じて利用者の閲覧に供する方法

二 電磁的記録媒体をもつて調製するファイルに提供事項を記録したものを交付する方法
前項に掲げる方法は、次に掲げる基準に適合するものでなければならない。

三 利用者があるファイルへの記録を出力することにより書面を作成できるものであること

二 前項第一号ハ又は二に掲げる方法にあつては、カード等に係る取引が終了する日までの間、次に掲げる事項（利用者により適用される包括信用購入あつせんの手数料の利率を年利建てで少なくとも〇・一パーセントの単位まで示し、かつ、当該利率以外の利率を示さないこと）を消去し又は改変することができないものであること。ただし、閲覧に供している提供事項を書面により交付する場合、同号イ若しくはロ若しくは同項第二号に掲げる方法により提供する場合又は利用者による当該提供事項に係る消去の指図がある場合は、当該提供事項を消去することができる。

イ 前項第一号ハに掲げる方法については、顧客ファイルに記録された提供事項
ロ 前項第一号ニに掲げる方法については、閲覧ファイルに記録された提供事項

三 前項第一号ニに掲げる方法にあつては、次に掲げる基準に適合すること。
イ 利用者が閲覧ファイルを開覧するために必要な情報を顧客ファイルに記録すること。

ロ 前号に規定する期間において、イの規定により利用者が閲覧ファイルを開覧するために必要な情報を記録した顧客ファイルと当該閲覧ファイルとを電気通信回線を通じて接続可能な状態を維持させること。ただし、閲覧の提供を受けた利用者が接続可能な状態を維持させることについて不要である旨通知した場合は、この限りでない。

四 この条から第三十七条の二まで、第五十条、第五十二条から第五十三条の二まで、第五十五条の二から第五十五条の四まで、第六十八条の六及び第六十八条の七の「電子情報処理組織」とは、包括信用購入あつせん業者の使用に係る電子計算機と、利用者の使用に係る電子計算機とを電気通信回線で接続した電子情報処理組織をいう。

五 法第三十条第一項第二号の経済産業省令・内閣府令で定める方法は、別表第一第一号に定める方法とする。ただし、支払分の支払の方法が、支払の間隔については第一号に、額については第二号に該当する場合以外の場合にあつては、同表第二号に定める方法とすることができる。

一 支払分の支払の間隔が次のいずれかに該当する場合
イ 支払期間における支払分の支払が月一回であり、かつ、等間隔である場合
ロ イに掲げる場合を除き、包括信用購入あつせん関係受領契約の締結された日から第一回の支払分の支払日の前日までの期間が二月未満であつて、第一回の支払分の支払日から支払期間の終了の日までの支払が月一回であり、かつ、等間隔である場合
二 支払分の額が次のいずれかに該当する場合
イ 支払分の額が均等である場合
ロ 任意の一回の支払分を除く他の支払分の額が均等であり、当該均等な支払分の額と異なる一回の支払分の額が他の均等な支払分の額の一・五倍に相当する額以下の額である場合
ハ 支払期間のうち六月、七月、八月、十二月若しくは一月が含まれている場合（支払期間が一年未満の場合に限る。）であつて、支払期間において当該六月、七月、八月、十二月若しくは一月のうちの一月のみのみにおける支払分（以下「特定月の支払分」という。）以外の支払分についてイ若しくはロに該当しており、かつ、特定月の支払分の額が他の支払分の額を超えている場合又は支払期間のうち六月、七月若しくは八月と十二月若しくは一月が含まれている場合であつて、支払期間において当該六月、七月若しくは八月のうちの一月の月と十二月若しくは一月のうちの一月の月と十二月若しくは一月の月の支払分（以下「特定月の支払分」という。）以外の支払分についてイ若しくはロに該当しており、かつ、特定月の支払分の額が同額で他の支払分の額を超えている場合
法第三十条第一項第三号の経済産業省令・内閣府令で定める事項は、次のとおりとする。
一 支払総額の具体的算定例
二 極度額について定めがあるときは、その金額

三 前号に定めるもののほか、カード等の利用に関する特約があるときは、その内容
第三十七条 法第三十条第二項の規定により同項各号に掲げる事項に係る情報を提供するときには、次の各号に定めるところによらなければならない。
一 利用者が読みやすく、理解しやすいような用語により、正確に表示すること。
二 書面の交付又は電子情報処理組織を使用する方法により提供すること。
三 日本産業規格Z八三〇五に規定する八ポイント以上の大きさの文字及び数字を用いること。
四 法第三十条第二項第二号の事項は、第四項に規定する方法により算定した包括信用購入あつせんの手数料の利率を年利建てで少なくとも〇・一パーセントの単位まで示し、かつ、当該利率以外の利率を示さないこと。
五 前項第二号の情報通信の技術を利用する方法は、前条第二項に掲げる方法とする。
六 前項の方法は、前条第三項に掲げる基準に適合するものでなければならない。
七 法第三十条第二項第二号の経済産業省令・内閣府令で定める方法は、別表第一第三号に定める方法とする。
八 法第三十条第二項第三号の経済産業省令・内閣府令で定める事項は、次のとおりとする。
一 弁済金の額の具体的算定例
二 極度額について定めがあるときは、その金額
三 前号に定めるもののほか、カード等の利用に関する特約があるときは、その内容
第三十七条の二 法第三十条第三項の規定により同条第一項各号又は同条第二項各号の事項を記載した書面（利用者により適用される包括信用購入あつせんの取引条件に係るものに限る。）を交付するときは、第三十六条第一項、第五項及び第六項又は前条第一項、第四項及び第五項の規定を準用する。
法第三十条第三項ただし書の経済産業省令・内閣府令で定める場合は、次のいずれかに該当する場合とする。
一 包括信用購入あつせん業者が利用者又は購入者等に提供する役務が、次のいずれにも該当する場合
イ 包括信用購入あつせん業者が、カードその他の物を交付することなく、当該利用者

にカード等（法第二条第三項第一号の番号、記号その他の符号に限る。以下この号、第五十三条の二、第五十五条の二、第五十五条の三及び第六十八条の六において同じ。）を付与すること。
ロ 当該利用者が、当該利用者の使用に係る電子計算機を用いて、イのカード等を知り、法第三十条の二の第三項又は第二項に規定する契約及び同条第五項に規定する契約を締結すること。
ハ 包括信用購入あつせん業者が、法第三十条の二の第三項に規定する弁済金であつてロに規定する同条第二項に規定する契約に係るもの支払を請求する場合には、電子情報処理組織を使用する方法のうち第五十三条第二項第一号に掲げるものによること。
二 包括信用購入あつせん業者が法第三十条第一項各号又は第二項各号の事項を記載した書面の交付により同条第一項又は第二項の規定による情報の提供を行った場合
第三十八条 法第三十条第四項の規定により、包括信用購入あつせんをする場合の取引条件について広告するとき、同条第一項各号又は第二項各号の事項について次の各号に定めるところにより表示しなければならない。
一 法第三十条第一項各号又は第二項各号の事項について、利用者が読みやすく、理解しやすいような用語により、正確に表示すること。
二 書面により広告を行う場合にあつては、日本産業規格Z八三〇五に規定する八ポイント以上の大きさの文字及び数字を用いること。
三 法第三十条第一項第二号又は第二項第二号の事項は、それぞれ第三十六条第五項又は第三十七条第四項に規定する方法により算定した包括信用購入あつせんの手数料の利率を年利建てで少なくとも〇・一パーセントの単位まで示し、かつ、当該利率以外の利率を示さないこと。
第三十九条 法第三十条の二第二項本文の経済産業省令・内閣府令で定める事項は、次のとおりとする。
一 年取
二 預貯金（利用者（個人）である利用者に限る。次条から第四十八条まで、第五十六条か

ら第五十八條まで、第六十二條の三、第六十
二條の四、第六十八條の三、第六十八條の
四、第三節及び別表第二において同じ。）の
利益の保護を図るため包括支払可能見込額の
算定に必要な場合に限る。）

三 信用購入あつせんに係る債務の支払の状況
借入れの状況

四 前各号に掲げるもののほか、包括支払可能
見込額の算定に必要な事項であつて客観的に
判断することができるもの

第四十條 法第三十條の二第一項本文の規定によ
り前各号に掲げる事項を調査する場合であつ
て、包括信用購入あつせんとするためカード等
を利用者に交付し又は付与しようとするとき
は、次項から第六項までに定めるところによ
る。

2 前条第一号に掲げる事項の調査については、
利用者から受ける年収の申告その他の適切な方
法により行わなければならない。ただし、包括
信用購入あつせんとするためカード等を他の者
の収入又はその収入及び他の者の収入により生
計を維持している利用者に交付し又は付与しよ
うとする場合（主として配偶者（婚姻の届出を
していないが事実上婚姻関係と同様の事情にあ
る者を含む。以下同じ。）の収入により生計を
維持している者（以下「特定配偶者」という。）
以外の者に交付し又は付与しようとする場合に
あつては事前に書面その他の適切な方法により
当該他の者の同意を得たときに限る。）には、
当該他の者が受ける当該他の者の年収の申告
その他の適切な方法により、当該利用者及び当
該他の者の年収を合算して算定することができ
る。

3 前条第二号に掲げる事項の調査については、
利用者から受ける預貯金の申告その他の適切な
方法により行わなければならない。ただし、包
括信用購入あつせんとするためカード等を他の
者の収入又はその収入及び他の者の収入により
生計を維持している利用者に交付し又は付与し
ようとする場合（特定配偶者以外の者に交付し
又は付与しようとする場合にあつては事前に書
面その他の適切な方法により当該他の者の同意
を得たときに限る。）には、当該他の者から受
ける当該他の者の預貯金の申告その他の適切な
方法により、当該利用者及び当該他の者の預貯
金を合算して算定することができる。

4 前条第三号に掲げる事項の調査については、
利用者の当該包括信用購入あつせん業者に対す
る信用購入あつせんに係る債務の支払の状況を
確認して行わなければならない。ただし、包括
信用購入あつせんとするためカード等を他の者
の収入又はその収入及び他の者の収入により生
計を維持している利用者に交付し又は付与しよ
うとする場合であつて、前二項の規定により、
当該利用者及び当該他の者の年収又は預貯金を
合算して算定するときは、当該他の者から受け
る当該他の者の支払時期の到来していない又は
支払の義務が履行されていない信用購入あつせ
んに係る債務の申告その他の適切な方法によ
り、当該利用者及び当該他の者の支払時期の到
来していない又は支払の義務が履行されていな
い信用購入あつせんに係る債務を合算して算定
しなければならない。

5 前条第四号に掲げる事項の調査については、
利用者の当該包括信用購入あつせん業者からの
借入れの状況その他の当該利用者の借入れの状
況を勘案して行わなければならない。

6 前条第五号に掲げる事項の調査については、
利用者から受ける当該事項の申告その他の適切
な方法により行わなければならない。

第四十一條 法第三十條の二第一項本文の規定に
より第三十九條各号に掲げる事項を調査する場
合であつて、包括信用購入あつせんとするた
め、利用者に交付し又は付与しているカード等
についてそれに係る有効期間（包括信用購入あ
つせんに係る購入又は受領の方法により商品若
しくは権利を購入し、又は役務を受領すること
ができる期間であつて、あらかじめ定められた
ものをいう。以下同じ。）を更新するためにカ
ード等を当該利用者に交付し又は付与しよう
とするとき（当該利用者に交付し又は付与しよ
うとするカード等に付随するカード等（以下「付随カ
ード等」という。）についてそれに係る有効期
間を更新するために付随カード等を当該利用者
に交付し又は付与しようとするときを除く。）
は、前条第二項から第四項まで及び第六項の申
告を受けた事項等（変更があつたと認めるとき
は、その変更後のもの）及び当該利用者の当該
包括信用購入あつせん業者に対する信用購入あ
つせんに係る債務の支払の状況を確認して、並
びに当該利用者の借入れの状況を勘案して行わ
なければならない。

2 前項の調査は、当該有効期間を更新しようと
する日の六月前からその更新の日までの間に、
一回行えば足りるものとする。

第四十二條 法第三十條の二第一項本文の規定に
より第三十九條各号に掲げる事項を調査する場
合であつて、利用者に交付し又は付与したカ
ード等についてそれに係る極度額を増額しようと
するときは、第四十條第二項から第四項まで及
び第六項の申告を受けた事項等（変更があつた
と認めるときは、その変更後のもの）及び当該
利用者の当該包括信用購入あつせん業者に対す
る信用購入あつせんに係る債務の支払の状況を
確認して、並びに当該利用者の借入れの状況を
勘案して行わなければならない。

第四十三條 法第三十條の二第一項ただし書の経
済産業省令・内閣府令で定める場合は、次に掲
げる場合とする。

一 包括信用購入あつせんとするため極度額が
三十万円以下のカード等を利用者に交付し若
しくは付与しようとする場合又は利用者に交
付し若しくは付与したカード等についてそれ
に係る極度額を三十万円を上限として増額し
ようとする場合（これらのうち、第四十一條
又は第四十二條の場合に該当する場合を含
み、次のいずれかに該当する場合を除く。）
イ 指定信用情報機関が保有する特定信用情
報を使用することにより、当該利用者等
を当該利用者に交付し若しくは付与しようと
する時点又は当該カード等についてそれに
係る極度額を増額しようとする時点におい
て、当該利用者の支払の義務が履行されな
いと認めるとき。

ロ 指定信用情報機関が保有する特定信用情
報を使用することにより、当該利用者の当
該包括信用購入あつせん業者に対する包括
信用購入あつせんに係る債務の額が五十万
円を、又は支払時期の到来していない若し
くは支払の義務が履行されていない包括信
用購入あつせんに係る債務の額が百万円を
超えるとき。

二 利用者に交付し又は付与したカード等につ
いてそれに係る極度額を当該利用者の求めに
応じ一時的に増額しようとする場合であつ
て、当該利用者が当該カード等を提示し又は
通知して、包括信用購入あつせん関係販売業
者から商品若しくは権利を購入し、又は包括
信用購入あつせん関係役務提供事業者から役
務の提供を受ける目的及び当該包括信用購
入あつせん関係販売業者若しくは当該包括信用
購入あつせん関係役務提供事業者の名称又は

これに相当するものをあらかじめ確認した場
合において、次のいずれかに該当するとき。
イ 極度額を一時的に増額しようとする期間
が三月以内の場合であつて、当該増額され
た後の極度額が法第三十條の二第一項本文
の規定による調査により得られた事項を基
礎として算定した包括支払可能見込額に法
第三十條の二の二本文の経済産業大臣が定
める割合を乗じて得た額（正当な理由があ
つて法第三十條の二第一項本文の規定によ
る調査を行っていない場合は、当該カード
等に係る極度額（現に当該カード等につい
てそれに係る極度額を利用者の求めに応じ
一時的に増額している場合にあつては、一
時的に増額する前の極度額）の二倍に相
当する額を超えない場合において、当該増
額された後の極度額が当該目的に照らして
相当であると認めるとき。

ロ 当該利用者が臨時的かつ短期的な収入を
得る見込みがあると認められる場合であつ
て、当該増額された後の極度額が当該収入
に照らして相当であると認めるとき。

ハ 当該利用者が当該カード等を提示し又は
通知して、包括信用購入あつせん関係販売
業者から当該利用者若しくは当該利用者
と生計を一にする者の生命若しくは身体を保護
するために緊急に必要があると認められる
商品若しくは権利を購入し、又は包括信用
購入あつせん関係役務提供事業者から当該
利用者若しくは当該利用者とし計を一にする
者の生命若しくは身体を保護するため緊急
に必要があると認められる役務の提供を受
ける場合であつて、当該増額された後の
極度額が当該目的に照らして相当であると
認めるとき。

三 第四十一條の場合（同条の場合であつて、
第一号の規定により、包括信用購入あつせ
んをするため極度額が三十万円以下のカード等
を利用者に交付し又は付与しようとするとき
を含む。）であつて、利用者の当該包括信用
購入あつせん業者に対する包括信用購入あつ
せんに係る債務の額が五万円に満たないと
き。
四 包括信用購入あつせん業者が、法第三十
條の二第一項本文の規定による調査により得
られた事項を基礎として算定した包括支払可能
見込額に法第三十條の二の二本文の経済産業

の規定による調査をするに当たり、第四十条第二項の規定による年収の合算又は同条第三項の規定による預貯金の合算のいずれも行わないとき、前二項の規定による当該者に係る生活維持費を当該者の年収及び当該他の者の申告その他の適切な方法により把握した当該他の者の年収に応じて按分した額（当該他の者からその年収の申告を受けることができないう場合であつてその合理的な推定ができないときにあつては、前二項の規定による当該者に係る生活維持費の二分の一に相当する額。第五号において同じ。）とする。

三 個別信用購入あつせん業者が、主として配偶者の収入により生計を維持している者であつてその配偶者と同居している者を相手方とする個別信用購入あつせん関係受領契約を締結しようとする場合であつて、個別信用購入あつせんに係る販売の方法により商品若しくは指定権利（日常生活において必要とされるものを除く。）を販売する契約又は個別信用購入あつせんに係る提供の方法により役務（日常生活において必要とされるものを除く。）を提供する契約に該当するものに係る個別信用購入あつせん関係受領契約を締結しようとする場合において、当該者の個別支払可能見込額を算定するために法第三十五条の三の第三項本文の規定による調査をするに当たり、第七十二条第二項の規定による年収の合算又は同条第三項の規定による預貯金の合算のいずれも行わないとき、ないうものとする。

四 個別信用購入あつせん業者が、他の者の収入により生計を維持している者（主として配偶者の収入により生計を維持している者を除く。）であつて当該他の者と同居している者を相手方とする個別信用購入あつせん関係受領契約を締結しようとする場合において、当該者の個別支払可能見込額を算定するために法第三十五条の三の第三項本文の規定による調査をするに当たり、第七十二条第二項の規定による年収の合算又は同条第三項の規定による預貯金の合算のいずれも行わないとき、ないうものとする。

五 個別信用購入あつせん業者が、その収入及び他の者の収入により生計を維持している者を相手方とする個別信用購入あつせん関係受領契約を締結しようとする場合において、当

該者の個別支払可能見込額を算定するために法第三十五条の三の第三項本文の規定による調査をするに当たり、第七十二条第二項の規定による年収の合算又は同条第三項の規定による預貯金の合算のいずれも行わないとき、前二項の規定による当該者に係る生活維持費を当該者の年収及び当該他の者の申告その他の適切な方法により把握した当該他の者の年収に応じて按分した額とする。

四 前二項（第二項第四号を除く。）の規定にかかわらず、包括信用購入あつせん業者又は個別信用購入あつせん業者が、利用者又は購入者等の居住地域を確認する場合における当該利用者又は購入者等に係る生活維持費は、前三項（第二項第四号を除く。）の規定による当該利用者又は購入者等に係る生活維持費に、次の各号に掲げる当該利用者又は購入者等の居住地域の区分（別表第三に定める居住地域の区分をいう。次条において同じ。）に応じ、当該各号に定める割合を乗じて得た額とすることができる。

一 第一区分 百分の九十五
二 第二区分 百分の八十五
三 第三区分 百分の七十五
四 第四区分 百分の六十五

第四十六条 別表第三に掲げる市町村（特別区を含む。以下この条及び別表第三において同じ。）の廃置分合があつた場合には、次の各号に掲げる区域に居住する利用者又は購入者又は購入者等の居住地域の区分は、当該各号に定める市町村により定まる。

一 廃置分合により市町村の区域の全部又は一部が他の市町村に編入された場合における当該廃置分合後の当該市町村の区域 当該他の市町村
二 廃置分合により市町村を新たに置いた場合における当該廃置分合後の当該市町村の区域 当該区域が当該廃置分合前に属していた市町村（当該市町村が二以上あるときは、利用者又は購入者等に係る生活維持費が最も高額なもの）
別表第三に掲げる市町村の境界変更があつた場合には、当該境界変更に係る区域に居住する利用者又は購入者等の居住地域の区分は、当該境界変更により当該区域が属することとなつた市町村により定まる。
第四十七条 法第三十条の二第三項の経済産業省令・内閣府令で定めるものは、基礎特定信用情報（信用購入あつせんに係る債務の支払の状況を除き、認定包括信用購入あつせん業者が法第

三十条の五の五第二項の規定により特定信用情報を使用する場合及び登録少額包括信用購入あつせん業者が法第三十五条の二の四第二項の規定により特定信用情報を使用する場合には、第一百八条第二項第一号イに規定する事項を除く。）その他利用者又は購入者等の信用購入あつせんに係る支払能力に関する情報をいう。
第四十七条の二 法第三十条の二第四項の規定により、包括信用購入あつせん業者は、次の各号に掲げる場合の区分に応じ、利用者ごとに、次に定める事項の記録を、書面又は電磁的記録をもつて作成し、カード等についてそれに係る有効期間（第一号に掲げる場合には更新された後の有効期間を含む、第二号に掲げる場合には更新された後の有効期間を除く。）の満了の日又は当該有効期間内に締結した全ての包括信用購入あつせん関係受領契約（当該カード等に係るものに限り。）に定められた最終の支払期日のうち最後のもの（これらの契約に基づく包括信用購入あつせんに係る債務の全てが弁済その他の事由により消滅したときにあつては、その消滅した日）のうちいずれか遅い日までの間保存しなければならない。

一 第四十条又は第四十二条で定めるところにより調査を行う場合 次に掲げる事項
イ 契約年月日（カード等についてそれに係る極度額を増額しようとする場合は、増額した年月日）
ロ 利用者に交付し又は付与したカード等についてそれに係る極度額（カード等についてそれに係る極度額を増額しようとする場合は、増額した後の極度額）
ハ 法第三十条の二第一項本文の規定による調査の結果（同条第三項の規定により、指定信用情報機関が保有する特定信用情報を活用して行つた調査の結果を含む。）
ニ 第四十条第二項又は第三項の同意を得たときは、当該同意に関する事項
ホ その他法第三十条の二第一項本文の規定による調査に使用した書面又はその写し

二 第四十一条で定めるところにより調査を行う場合 次に掲げる事項
イ 利用者に交付し又は付与しているカード等についてそれに係る有効期間を更新しようとする年月日及び法第三十条の二第一項本文の規定による調査を行つた年月日
ロ 利用者に交付し又は付与したカード等についてそれに係る極度額

ハ 法第三十条の二第三項の経済産業省令・内閣府令で定める事項は、次のとおりとする。ただし、第六号から第九号までに掲げる事項については、法第三十条第一項に基づき、次条第一項第四号に定めるところにより情報を提供した場合には省略することができる。

一 包括信用購入あつせん業者の名称及び住所又は電話番号並びに包括信用購入あつせん関係販売業者又は包括信用購入あつせん関係業務提供事業者の名称その他のこれらの者を特定することができる事項
二 契約年月日
三 支払分の支払回数
四 包括信用購入あつせん関係受領契約について購入者等が問合わせ、相談等を行うことができる機関の名称及び住所又は電話番号
五 法第三十条の四の規定に関する事項
六 包括信用購入あつせん関係受領契約の解除に関する定めがあるときは、その内容
七 支払時期の到来していない支払分の支払を請求することについての定めがあるときは、その内容
八 支払分の支払の義務が履行されない場合（包括信用購入あつせん関係受領契約が解除された場合を除く。）の損害賠償額の予定又は違約金の定めがあるときは、その内容
九 前各号に掲げるもののほか特約があるときは、その内容

ハ 法第三十条の二第一項本文の規定による調査の結果（同条第三項の規定により、指定信用情報機関が保有する特定信用情報を活用して行つた調査の結果を含む。）
ニ 第四十条第二項又は第三項の同意を得たときは、当該同意に関する事項
ホ その他法第三十条の二第一項本文の規定による調査に使用した書面又はその写し
（包括支払可能見込額を超える場合のカード等の交付等の禁止に係る利用者の保護に支障を生ずることがない場合）

第四十八条 法第三十条の二の二ただし書の経済産業省令・内閣府令で定める場合は、第四十三条第一項各号に掲げる場合とする。
（包括信用購入あつせん関係受領契約に関する情報の提供等）

第四十九条 法第三十条の二の三第一項第三号の経済産業省令・内閣府令で定める事項は、次のとおりとする。ただし、第六号から第九号までに掲げる事項については、法第三十条第一項に基づき、次条第一項第四号に定めるところにより情報を提供した場合には省略することができる。

一 包括信用購入あつせん業者の名称及び住所又は電話番号並びに包括信用購入あつせん関係販売業者又は包括信用購入あつせん関係業務提供事業者の名称その他のこれらの者を特定することができる事項
二 契約年月日
三 支払分の支払回数
四 包括信用購入あつせん関係受領契約について購入者等が問合わせ、相談等を行うことができる機関の名称及び住所又は電話番号
五 法第三十条の四の規定に関する事項
六 包括信用購入あつせん関係受領契約の解除に関する定めがあるときは、その内容
七 支払時期の到来していない支払分の支払を請求することについての定めがあるときは、その内容
八 支払分の支払の義務が履行されない場合（包括信用購入あつせん関係受領契約が解除された場合を除く。）の損害賠償額の予定又は違約金の定めがあるときは、その内容
九 前各号に掲げるもののほか特約があるときは、その内容

<p>第五十条 法第三十条の二の三第一項各号に掲げる事項に係る情報を提供するときは、次の各号に定めるところによらなければならない。</p> <p>一 購入者等が読みやすく、理解しやすいような用語により、正確に表示すること。</p> <p>二 書面の交付又は電子情報処理組織を使用する方法その他の情報通信の技術を利用する方法により提供すること。</p> <p>三 前条第五号に掲げる事項については、その内容に、商品若しくは指定権利の販売につきそれを販売した包括信用購入あつせん関係販売業者又は役務の提供につきそれを提供する包括信用購入あつせん関係役務提供事業者に対して生じている事由をもって、支払分の支払の請求をする包括信用購入あつせん業者に對抗できる旨が定められていること。</p> <p>四 前条第六号から第九号までに掲げる事項のうち次の表の上欄に掲げる事項について定めがあるときは、その内容がそれぞれ同表の下欄の基準に合致していること。</p>	<p>事項</p> <p>一 包括信用購入あつせん関係の解除に関する事項</p> <p>内容の基準</p> <p>イ 購入者等からの契約の解除ができない旨が定められていないこと。</p> <p>ロ 購入者等の支払義務の不履行により契約を解除することができる場合は、包括信用購入あつせん業者が定める一定期間にわたり義務の不履行があつた場合であつて、包括信用購入あつせん業者が二十日（認定包括信用購入あつせん業者がその交付し又は付与したカード等に係る極度額が令第二十三条第一項で定める金額以下である利用者）及び包括信用購入あつせん関係受領契約を締結した場合にあつては同条第二項に定める日数、登録少額包括信用購入あつせん業者がその交付し又は付与したカード等に係る極度額が令第二十四条で定める金額以下である利用者）と包括信用購入あつせん関係受領契約を締結した場合に</p>	<p>二 支払の時期の到来していない支払の請求に関する事項</p> <p>イ 購入者等の支払義務の不履行により支払時期の到来していない支払分の支払を請求することができる場合は、包括信用購入あつせん業者が定める一定期間にわたり義務の不履行があつた場合であつて、包括信用購入あつせん業者が二十日（認定包括信用購入あつせん業者がその交付し又は付与したカード等に係る極度額が令第二十三条第一項で定める金額以下である利用者）及び包括信用購入あつせん関係受領契約を締結した場合にあつては同条第二項に定める日数、登録少額包括信用</p>
<p>三 支払の義務が履行されない場合（包括信用購入あつせん関係受領契約が解除された場合を除く。）の損害</p>	<p>三 支払の義務が履行されない場合（包括信用購入あつせん関係受領契約が解除された場合を除く。）の損害</p> <p>支払分の支払の義務が履行されない場合（包括信用購入あつせん関係受領契約が解除された場合を除く。）の損害が定められていないこと。</p> <p>ロ 購入者等の支払義務の不履行以外の事由により支払時期の到来していない支払分の支払を請求することができない場合は、包括信用購入あつせん業者が著しく悪化した場合又は重要な契約条項違反があつた場合以外の場合が定められていないこと。</p>	<p>二 賠償額又は違約金に関する事項</p> <p>四 前条第六号から第八号までに掲げるものの以外の特約</p> <p>五 日本産業規格Z八三〇五に規定する八ポイント以上の大きさの文字及び数字を用いること。</p> <p>六 前項第二号の情報通信の技術を利用する方法は、次に掲げる方法とする。</p> <p>一 電子情報処理組織を使用する方法のうちイ、ロ、ハ又はニに掲げるもの</p> <p>イ 包括信用購入あつせん業者の使用に係る電子計算機と購入者等の使用に係る電子計算機とを接続する電気通信回線を通じて送信し、受信者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録する方法</p> <p>ロ 包括信用購入あつせん業者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録された提供事項を電気通信回線を通じて購入者等の閲覧に供し、当該購入者等の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに当該提供事項を記録する方法</p> <p>ハ 顧客ファイルに記録された提供事項を電気通信回線を通じて購入者等の閲覧に供する方法</p> <p>ニ 閲覧ファイルに記録された提供事項を電気通信回線を通じて購入者等の閲覧に供する方法</p> <p>三 電磁的記録媒体をもつて調製するファイルに提供事項を記録したものを交付する方法</p> <p>前項に掲げる方法は、次に掲げる基準に適合するものでなければならない。</p> <p>一 購入者等がファイルへの記録を出力することにより書面を作成できるものであること。</p> <p>二 前項第一号ハ又はニに掲げる方法にあつては、包括信用購入あつせん関係受領契約に基づく包括信用購入あつせんに係る債務の全てが弁済その他の事由により消滅した日までの</p>

間、次に掲げる事項を消去し又は改変することができないものであること。ただし、閲覧に供している提供事項を画面により交付する場合、同号イ若しくはロ若しくは同項第二号に掲げる方法により提供する場合又は購入者等による当該提供事項に係る消去の指図がある場合は、当該提供事項を消去することができる。

イ 前項第一号ハに掲げる方法については、顧客ファイルに記録された提供事項

ロ 前項第一号ニに掲げる方法については、閲覧ファイルに記録された提供事項

三 前項第一号ニに掲げる方法にあつては、次に掲げる基準に適合すること。

イ 購入者等が閲覧ファイルを開覧するために必要な情報を顧客ファイルに記録すること。

ロ 前号に規定する期間において、イの規定により購入者等が閲覧ファイルを開覧するために必要な情報を記録した顧客ファイルと当該閲覧ファイルとを電気通信回線を通じて接続可能な状態を維持させること。ただし、閲覧の提供を受けた購入者等が接続可能な状態を維持させることについて不要である旨通知した場合は、この限りでない。

第五十一条 法第三十条の二の三第二項第三号の経済産業省令・内閣府令で定める事項は、次のとおりとする。ただし、第五号から第八号までに掲げる事項については、法第三十条第二項に基づき、次条第一項第四号に定めるところにより情報を提供した場合には省略することができる。

- 一 包括信用購入あつせん業者の名称及び住所又は電話番号並びに包括信用購入あつせん関係販売業者又は包括信用購入あつせん関係業務提供事業者の名称その他のこれらの者を特定することができる事項
- 二 契約年月日
- 三 包括信用購入あつせん関係受領契約について購入者等が問合わせ、相談等を行うことができる機関の名称及び住所又は電話番号
- 四 法第三十条の五の規定に関する事項
- 五 包括信用購入あつせん関係受領契約の解除に関する定めがあるときは、その内容
- 六 支払時期の到来していない弁済金の支払を請求することについての定めがあるときは、その内容

七 弁済金の支払の義務が履行されない場合（包括信用購入あつせん関係受領契約が解除された場合を除く。）の損害賠償額の予定又は違約金の定めがあるときは、その内容

八 前各号に掲げるもののほか特約があるときは、その内容

第五十二条 法第三十条の二の三第二項各号に掲げる事項に係る情報を提供するとき、次の各号に定めるところによらなければならない。

一 購入者等が読みやすく、理解しやすいうような用語により、正確に表示すること。

二 書面の交付又は電子情報処理組織を使用する方法その他の情報通信の技術を利用する方法により提供すること。

三 前条第四号に掲げる事項については、その内容に、商品若しくは指定権利の販売につきそれを販売した包括信用購入あつせん関係販売業者又は役務の提供につきそれを提供する包括信用購入あつせん関係業務提供事業者に対して生じている事由をもつて、弁済金の支払の請求をする包括信用購入あつせん業者に對抗できる旨が定められていること。

四 前条第五号、第六号及び第八号に掲げる事項のうち次の表の上欄に掲げる事項について定めがあるときは、その内容がそれぞれ同表の下欄の基準に合致していること。

事項	内容の基準
一 包括信用購入あつせん業者等の支払義務の不履行が認められること。	イ 購入者等からの契約の解除ができない旨が定められていないこと。
ロ 購入者等の支払義務の不履行により契約を解除することができる場合は、包括信用購入あつせん業者が定める一定期間にわたり義務の不履行があつた場合であつて、包括信用購入あつせん業者が二十日（認定包括信用購入あつせん業者がその交付し又は付与したカード等に係る極度額が令第二十三条第一項で定める金額以下である利用者）と包括信用購入あつせん関係受領契約を締結した場合にあつては同条第二項に定める日数、登録少額包括信用購入あつせん業者がその交付し又は付与した力	イ 購入者等からの契約の解除ができない旨が定められていないこと。

二 支払時期の到来していない弁済金の支払の請求に関する事項	イ 購入者等の支払義務の不履行により支払時期の到来していない弁済金の支払を請求することができる場合は、包括信用購入あつせん業者が定める一定期間にわたり義務の不履行があつた場合であつて、包括信用購入あつせん業者が二十日（認定包括信用購入あつせん業者がその交付し又は付与したカード等に係る極度額が令第二十三条第一項で定める金額以下である利用者）と包括信用購入あつせん関係受領契約を締結した場合にあつては同条第二項に定める日数、登録少額包括信用購入あつせん業者がその交付し又は付与したカード等に係る極度額が令第二十四条で定める金額以下である利用者）と包括信用購入あつせん関係受領契約を締結した場合にあつては同条第二項に定める日数、登録少額包括信用購入あつせん業者がその交付し又は付与した力
イ 購入者等からの契約の解除ができない旨が定められていないこと。	イ 購入者等からの契約の解除ができない旨が定められていないこと。

三 前条第五号から第七号までに掲げるもの以外のの特約	イ 購入者等の支払義務の不履行により支払時期の到来していない弁済金の支払を請求することができる場合は、包括信用購入あつせん業者が定める一定期間にわたり義務の不履行があつた場合であつて、包括信用購入あつせん業者が二十日（認定包括信用購入あつせん業者がその交付し又は付与したカード等に係る極度額が令第二十三条第一項で定める金額以下である利用者）と包括信用購入あつせん関係受領契約を締結した場合にあつては同条第二項に定める日数、登録少額包括信用購入あつせん業者がその交付し又は付与した力
イ 購入者等からの契約の解除ができない旨が定められていないこと。	イ 購入者等からの契約の解除ができない旨が定められていないこと。

結した場合には、令第二十五条に定める日数）以上の相当な期間を定めてその支払を第一号及び第六十八条の六第一項第一号に定める場合にあつては書面又は電磁的方法、第五十五条の三第一項第二号及び第六十八条の六第一項第二号に定める場合にあつては電磁的方法）で催告し、その期間内にその義務が履行されない場合に限り旨が定められていること。

ロ 購入者等の支払義務の不履行以外の事由により支払時期の到来していない弁済金の支払を請求することができる場合として、購入者等の信用が著しく悪化した場合又は重要な契約条項違反があつた場合以外の場合が定められていないこと。

<p>五 日本産業規格Z八三〇五に規定する八ポイント以上の大きさの文字及び数字を用いること。</p>	<p>二 前条第九号に掲げるもの以外の特約</p>	<p>二 前条第九号に掲げるもの以外の特約 法令に違反する特約が定められていないこと。</p>	<p>イ 購入者等からの包括信用購入あつせん関係販売等契約の解除ができない旨が定められていないこと。 ロ 包括信用購入あつせん関係販売等契約の締結の前に包括信用購入あつせん関係販売業者又は包括信用購入あつせん関係提供事業者が見本、カタログ等により購入者等に対し提示した当該契約の内容と当該購入者等が受領した商品若しくは権利又は提供を受ける役務が相違している場合には、購入者等は、当該契約の解除をすることができる旨が定められていること。 ハ 包括信用購入あつせん関係販売業者又は包括信用購入あつせん関係提供事業者の責に帰すべき事由により包括信用購入あつせん関係販売等契約が解除された場合における包括信用購入あつせん関係販売業者又は包括信用購入あつせん関係提供事業者の義務に関し、民法第五百四十五条に規定するものより購入者等に不利な特約が定められていないこと。 四 前条第一項第九号及び第十号に掲げる事項のうち次の表の上欄に掲げる事項についての定めがあるときは、その内容がそれぞれ同表の下欄の基準に合致していること。</p> <table border="1"> <tr> <th data-bbox="790 172 869 629">事項</th> <th data-bbox="869 172 1489 629">内容の基準</th> </tr> <tr> <td data-bbox="790 172 869 629">一 商品が種類又は品質に關して契約の内容に適合しない場合</td> <td data-bbox="869 172 1489 629">商品が種類又は品質に關して契約の内容に適合しない場合に包括信用購入あつせん関係販売業者がその不適合（道路運送車両法の規定による臨時運行以外の運行の用に供された旨が明示されておらず、当該運行の用に供されたことを除く。）について責任を負わない旨が定められていないこと。</td> </tr> </table>	事項	内容の基準	一 商品が種類又は品質に關して契約の内容に適合しない場合	商品が種類又は品質に關して契約の内容に適合しない場合に包括信用購入あつせん関係販売業者がその不適合（道路運送車両法の規定による臨時運行以外の運行の用に供された旨が明示されておらず、当該運行の用に供されたことを除く。）について責任を負わない旨が定められていないこと。
事項	内容の基準						
一 商品が種類又は品質に關して契約の内容に適合しない場合	商品が種類又は品質に關して契約の内容に適合しない場合に包括信用購入あつせん関係販売業者がその不適合（道路運送車両法の規定による臨時運行以外の運行の用に供された旨が明示されておらず、当該運行の用に供されたことを除く。）について責任を負わない旨が定められていないこと。						

2 前項第二号の情報通信の技術を利用する方法は、次に掲げる方法とする。

一 電子情報処理組織を使用する方法のうちイ、ロ、ハ又はニに掲げるもの

イ 包括信用購入あつせん関係販売業者又は包括信用購入あつせん関係提供事業者の使用に係る電子計算機と購入者等の使用に係る電子計算機とを接続する電気通信回線を通じて送信し、受信者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録する方法

ロ 包括信用購入あつせん関係販売業者又は包括信用購入あつせん関係提供事業者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録された提供事項を電気通信回線を通じて購入者等の閲覧に供し、当該購入者等の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに当該提供事項を記録する方法

ハ 包括信用購入あつせん関係販売業者又は包括信用購入あつせん関係提供事業者の使用に係る電子計算機に備えられたファイル（専ら利用者又は購入者等の用に供するものに限る。次項において「顧客ファイル」という。）に記録された提供事項を電気通信回線を通じて購入者等の閲覧に供する方法

ニ 閲覧ファイル（包括信用購入あつせん関係販売業者又は包括信用購入あつせん関係提供事業者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルであつて、同時に複数の購入者等の閲覧に供するための提供事項を記録させるファイルを用い、次項において同じ。）に記録された提供事項を電気通信回線を通じて購入者等の閲覧に供する方法

3 二 電磁的記録媒体をもつて調製するファイルに提供事項を記録したものを交付する方法前項に掲げる方法は、次に掲げる基準に適合するものでなければならない。

一 購入者等がファイルへの記録を出力することにより書面を作成できるものであること。

二 前項第一号ハ又はニに掲げる方法にあつては、商品の引渡し若しくは権利の移転若しくは役務の提供を完了する日又は法第三十条の二の第三項に規定する契約を締結した時から一年を経過する日のうちいずれか遅い日までの間、次に掲げる事項を消去し又は改変することができないものであること。ただし、閲覧に供している提供事項を書面により交付する場合、前項第一号イ若しくはロ若しくは第二号に掲げる方法により提供する場合又は購入者等による当該提供事項に係る消去の指図がある場合は、当該提供事項を消去することができる。

イ 前項第一号ハに掲げる方法については、顧客ファイルに記録された提供事項

ロ 前項第一号ニに掲げる方法については、閲覧ファイルに記録された提供事項

三 前項第一号ニに掲げる方法にあつては、次に掲げる基準に適合すること。

イ 購入者等が閲覧ファイルに記録するために必要な情報を顧客ファイルに記録すること。

ロ 前号に規定する期間において、イの規定により購入者等が閲覧ファイルを開覧するために必要な情報を記録した顧客ファイルと当該閲覧ファイルとを電気通信回線を通じて接続可能な状態を維持すること。ただし、閲覧の提供を受けた購入者等が接続可能な状態を維持させることについて不要である旨通知した場合は、この限りでない。

4 第一項第二号及び第二項第一号の「電子情報処理組織」とは、包括信用購入あつせん関係販売業者又は包括信用購入あつせん関係提供事業者の使用に係る電子計算機と、購入者等の使用に係る電子計算機とを電気通信回線で接続した電子情報処理組織をいう。

第五十五条の二 法第三十条の二の三第六項本文の規定により同条第五項各号に掲げる事項を記載した書面を交付するときは、第五十四条及び前条第一項の規定を準用する。

2 法第三十条の二の三第六項ただし書の経済産業省令・内閣府令で定める場合は、次のいずれかに該当する場合とする。

一 包括信用購入あつせん業者が利用者又は購入者等に提供する役務が、次のいずれにも該当する場合

イ 包括信用購入あつせん業者が、カードその他の物を交付することなく、当該利用者（カード等を付与すること。）

ロ 当該利用者が、当該利用者使用に係る電子計算機を用いて、イのカード等を通じて、法第三十条の二の三第一項又は第二項に規定する契約及び同条第五項に規定する事項を締結すること。

ハ 包括信用購入あつせん業者が、法第三十条の二の三第三項に規定する弁済金であつてロに規定する同条第二項に規定する契約に係るものの支払を請求する場合には、電子情報処理組織を使用する方法のうち第五十三条第二項第一号に掲げるものによること。

ロ 当該利用者が、当該利用者使用に係る電子計算機を用いて、イのカード等を通じて、法第三十条の二の三第一項又は第二項に規定する契約及び同条第五項に規定する事項を締結すること。

イ 包括信用購入あつせん業者が、カードその他の物を交付することなく、当該利用者（カード等を付与すること。）

ロ 当該利用者が、当該利用者使用に係る電子計算機を用いて、イのカード等を通じて、法第三十条の二の三第一項又は第二項に規定する契約及び同条第五項に規定する事項を締結すること。

第五十五条の三 法第三十条の二の四第一項の経済産業省令・内閣府令で定める場合は、次のいずれかに該当する場合とする。

一 包括信用購入あつせん業者が利用者又は購入者等に提供する役務が、次のいずれにも該当する場合

イ 包括信用購入あつせん業者が、カードその他の物を交付することなく、当該利用者（カード等を付与すること。）

ロ 当該利用者が、当該利用者使用に係る電子計算機を用いて、イのカード等を通じて、法第三十条の二の三第一項又は第二項に規定する契約及び同条第五項に規定する事項を記載した書面の交付により同項の規定による情報の提供を行った場合

二 包括信用購入あつせん関係販売業者又は包括信用購入あつせん関係提供事業者が法第三十条の二の三第五項各号の事項を記載した書面の交付により同項の規定による情報の提供を行った場合

（契約の解除等の制限）

第五十五条の三 法第三十条の二の四第一項の経済産業省令・内閣府令で定める場合は、次のいずれかに該当する場合とする。

一 包括信用購入あつせん業者が利用者又は購入者等に提供する役務が、次のいずれにも該当する場合

イ 包括信用購入あつせん業者が、カードその他の物を交付することなく、当該利用者（カード等を付与すること。）

ロ 当該利用者が、当該利用者使用に係る電子計算機を用いて、イのカード等を通じて、法第三十条の二の三第一項又は第二項に規定する契約及び同条第五項に規定する事項を記載した書面の交付により同項の規定による情報の提供を行った場合

二 包括信用購入あつせん関係販売業者又は包括信用購入あつせん関係提供事業者が法第三十条の二の三第五項各号の事項を記載した書面の交付により同項の規定による情報の提供を行った場合

3 第一項第二号に規定する場合には、包括信用購入あつせん業者は、法第三十条の二の四第一項に規定する催告を行うときは、あらかじめ、当該利用者又は購入者等に対し、その用いる電

磁的方法の種類及び内容を示し、書面又は電磁的方法による承諾を得なければならない。

4 前項の規定による承諾を得た包括信用購入あつせん業者は、当該利用者又は購入者等から書面又は電磁的方法により電磁的方法による提供を受けたい旨の申出があつたときは、当該利用者又は購入者等に対し、法第三十条の二の四第一項に規定する催告を同項の電磁的方法によつてしてはならない。ただし、当該利用者又は購入者等が再び前項の規定による承諾をした場合は、この限りでない。

5 第三項の規定により示すべき方法の種類及び内容は、次に掲げる事項とする。

一 次条第一項に規定する方法のうち包括信用購入あつせん業者が使用するもの

二 ファイルへの記録の方式

(情報通信の技術を利用する方法)

第五十五条の四 法第三十条の二の四第一項の電磁的方法は、次に掲げる方法とする。

一 電子情報処理組織を使用する方法のうちイ又はロに掲げるもの

イ 包括信用購入あつせん業者の使用に係る電子計算機と購入者等の使用に係る電子計算機とを接続する電気通信回線を通じて送信し、受信者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録する方法

ロ 包括信用購入あつせん業者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録された催告に係る事項を電気通信回線を通じて購入者等の閲覧に供し、当該購入者等の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに当該事項を記録する方法

二 電磁的記録媒体をもつて調製するファイルに催告に係る事項を記録したものを交付する方法

2 前項に掲げる方法は、次に掲げる基準に適合するものでなければならない。

一 購入者等がファイルへの記録を出力することにより書面を作成できるものであること。

二 前項第一号ロに掲げる方法にあつては、催告に係る事項を顧客ファイル又は閲覧ファイルに記録した旨を購入者等に対し通知すること。ただし、購入者等が当該催告に係る事項を閲覧したことを確認したときは、この限りでない。

(業務の運営に関する措置)

第五十六条 包括信用購入あつせん業者は、法第三十条の五の二の規定によりその取り扱う利用

者又は購入者等に関する情報の安全管理、従業員の監督及び当該情報の取扱いを委託する場合には、その委託先の監督について、当該情報の漏えい、滅失又は毀損の防止を図るために必要かつ適切な措置を講じなければならない。

第五十七条 包括信用購入あつせん業者は、法第三十条の五の二の規定により特定信用情報提供等業務を行う者から提供を受けた情報であつて利用者又は購入者等の支払能力に関するものを、支払能力調査以外の目的に使用しないことを確保するための措置を講じなければならない。

第五十八条 包括信用購入あつせん業者は、法第三十条の五の二の規定によりその取り扱う利用者又は購入者等に関する人種、信条、門地、本籍地、保健医療又は犯罪経歴についての情報その他の特別の非公開情報(その業務上知り得た公表されていない情報をいう。第九十一条において同じ。)を、適切な業務の運営の確保その他必要と認められる目的以外に使用しないことを確保するための措置を講じなければならない。

第五十九条 包括信用購入あつせん業者は、法第三十条の五の二の規定により包括信用購入あつせん業務を第三者に委託する場合には、当該業務の内容に応じ、次に掲げる措置を講じなければならない。

一 当該業務を適確に遂行することができる能力を有する者に委託するための措置

二 当該業務の委託を受けた者(以下この条及び第九十二条において「受託者」という。)における当該業務の実施状況を、定期的に又は必要に応じて確認すること等により、受託者が当該業務を適確に遂行しているかを検証し、必要に応じて改善させる等、受託者に対する必要かつ適切な監督等を行うための措置

三 受託者が行う当該業務に係る利用者又は購入者等からの苦情の適切かつ迅速な処理のために必要な措置

四 受託者が当該業務を適切に行うことができなない事態が生じた場合に他の適切な第三者に当該業務を速やかに委託する等、当該業務に係る利用者又は購入者等の利益の保護に支障が生じること等を防止するための措置

五 受託者が当該業務を適確に遂行していない場合であつて当該業務に係る利用者又は購入者等の利益の保護を図るため必要がある場合

には、当該業務の委託に係る契約の変更又は解除をする等の必要な措置を講ずるための措置

第六十条 包括信用購入あつせん業者は、法第三十条の五の二の規定により利用者又は購入者等からの苦情(法第三十条の四第一項の規定による対抗を含む。以下この条において同じ。)の適切かつ迅速な処理のために必要な措置を講じるときは、次の各号に定めるところによらなければならない。

一 利用者又は購入者等からの苦情を受け付けるときは、遅滞なく、当該苦情の内容が包括信用購入あつせん業者又は包括信用購入あつせん関係販売業者若しくは包括信用購入あつせん関係提供事業者による包括信用購入あつせんに係る業務に関する利用者又は購入者等の利益の保護に欠ける行為に起因するものであるかを判別すること。

二 前号の規定により判別した結果その他の事項からみて、次のいずれかに該当するとき、当該苦情の内容を当該包括信用購入あつせん関係販売業者又は当該包括信用購入あつせん関係提供事業者とクレジットカード番号等取扱契約を締結したクレジットカード番号等取扱契約締結事業者に通知すること。

イ 包括信用購入あつせん関係販売業者又は包括信用購入あつせん関係提供事業者が包括信用購入あつせん関係販売等契約に關し、法第三十五条の三の七各号のいずれかに該当する行為をしたと認められるとき。

ロ 包括信用購入あつせん関係販売業者又は包括信用購入あつせん関係提供事業者による包括信用購入あつせんに係る業務に関する利用者又は購入者等の利益の保護に欠ける行為に係る苦情(苦情の内容がイの行為に起因するものである苦情を除く。)の発生状況からみて、当該包括信用購入あつせん関係販売業者又は当該包括信用購入あつせん関係提供事業者が包括信用購入あつせんに係る業務に關し利用者又は購入者等の利益の保護に欠けると認められるとき。

三 第一号の規定により判別した結果その他の事情からみて、包括信用購入あつせん業者が包括信用購入あつせんに係る業務に關し利用者又は購入者等の利益の保護に欠ける行為を

したと認めるときは、当該苦情の処理のために必要な事項を調査すること。

四 利用者又は購入者等から申出を受けた苦情の内容又は前号の規定による調査その他の方法により知つた事項からみて、必要があると認めるときは、包括信用購入あつせんに係る業務の改善その他の必要の措置を講じること。

第二款 包括支払可能見込額の調査等の特例

第六十一条 法第三十条の五の四第一項の規定による認定の申請は、次に掲げる事項を記載した申請書を経済産業大臣に提出してしなければならない。

一 法第三十条の五の四第一項第一号の方法
二 延滞率(一定の時点における包括信用購入あつせんに係る債務が残存するカード等の件数に対する当該件数のうち延滞している包括信用購入あつせんに係る債務を含むもの割合をいう。以下同じ。)に関する事項

三 法第三十条の五の四第一項第二号の体制とする。

2 前項の申請書は、様式第十三の二によるものとする。

3 第一項の申請書には、次に掲げる書類を添付しなければならない。

一 法第三十条の五の四第一項第一号の方法及び同項第二号の体制に関する社内規則等(認定包括信用購入あつせん業者又はその役員(業務を執行する社員、取締役若しくは執行役員又はこれらに準ずる者をいう。第六十三条第二項第七号、第六十四条第一項第四号、第六十五条第三号、第六十八条の十一第三号、第九十九条第二項第七号、第百条第三号及び第百三十三条の二第二項第三号において同じ。)、使用人その他の従業者が遵守すべき規則その他これに準ずるものであつて認定包括信用購入あつせん業者が作成するものをいう。第六十二条の二第二項において同じ。)

二 法第三十条の五の四第一項第二号の体制に関する組織図

(認定の基準)

第六十二条 法第三十条の五の四第一項第一号の経済産業省令で定める基準は、次のとおりとする。

- 一 法第三十条の五の四第一項第一号の方法を定めるに当たり、不適正又は不十分な技術及び情報を利用していないこと。
- 二 利用者の支払能力に関する情報を当該利用者に対する不当な差別、偏見その他の著しい不利益が生じるおそれがあると認められる方法により利用していないこと。
- 三 この命令に基づいて指定信用情報機関が算定する延滞率を超えないよう延滞率を管理すること。
- 2 法第三十条の五の四第一項第二号の経済産業省令で定める基準は、法第三十条の五の五第一項本文に規定する算定の円滑な実施を確保するために必要な体制が定められていることとする。

第六十二条の二

法第三十条の五の四第三項の規定による認定の申請は、様式第十三の三による申請書を提出してしなければならない。

2

- 一 法第三十条の五の四第一項の認定に係る同項第一号の方法を変更しようとするときは、変更後の当該方法に関する社内規則等
- 二 法第三十条の五の四第一項の認定に係る同項第二号の体制を変更しようとするときは、変更後の当該体制に関する社内規則等及び組織図

第六十二条の三

法第三十条の五の五第一項ただし書の経済産業省令・内閣府令で定める場合は、次に掲げる場合とする。

- 一 包括信用購入あつせんをするため極度額が三十万円以下のカード等を利用者に交付し若しくは付与しようとする場合（包括信用購入あつせんをするため利用者に交付し又は付与しているカード等についてそれに係る有効期間を更新するためにカード等を当該利用者に交付し又は付与しようとする場合を含む。）
- 二 又は利用者に交付し若しくは付与したカード等についてそれに係る極度額を三十万円を上限として増額しようとする場合（これらのうち、次のいずれかに該当する場合を除く。）
- イ 指定信用情報機関が保有する特定信用情報を使用することにより、当該カード等を当該利用者に交付し若しくは付与しようとする時点又は当該カード等についてそれに

係る極度額を増額しようとする時点において、当該利用者の支払の義務が履行されないとき。

- ロ 指定信用情報機関が保有する特定信用情報を使用することにより、当該利用者の当該認定包括信用購入あつせん業者に対する包括信用購入あつせんに係る債務の額が五十万円を、又は支払時期の到来していない若しくは支払の義務が履行されていない包括信用購入あつせんに係る債務の額が百万円を超えるとき。

利用者に交付し又は付与したカード等についてそれに係る極度額を当該利用者の求めに応じて一時的に増額しようとする場合であつて、当該利用者が当該カード等を提示し又は通知して、包括信用購入あつせん関係販売業者から商品若しくは権利を購入し、又は包括信用購入あつせん関係債務提供事業者から債務の提供を受ける目的及び当該包括信用購入あつせん関係販売業者若しくは当該包括信用購入あつせん関係債務提供事業者の名称又はこれに相当するものをあらかじめ確認した場合において、次のいずれかに該当するとき。

- イ 極度額を一時的に増額しようとする期間が三月以内の場合であつて、当該増額された後の極度額が法第三十条の五の五第一項本文の規定により算定した利用者支払可能見込額（正当な理由があつて同項本文の規定による算定を行っていない場合は、当該カード等に係る極度額（現に当該カード等についてそれに係る極度額を利用者の求めに応じ一時的に増額している場合にあつては、一時的に増額する前の極度額）の二倍に相当する額を超えない場合）において、当該増額された後の極度額が当該目的に照らして相当であると認めるとき。
- ロ 当該利用者が臨時的かつ短期的な収入を得る見込みがあると認められる場合であつて、当該増額された後の極度額が当該収入に照らして相当であると認めるとき。
- ハ 当該利用者が当該カード等を提示し又は通知して、包括信用購入あつせん関係販売業者から当該利用者若しくは当該利用者として生計を一にする者の生命若しくは身体を保護するため緊急に必要があると認められる商品若しくは権利を購入し、又は包括信用購入あつせん関係債務提供事業者から当該

利用者若しくは当該利用者と生計を一にする者の生命若しくは身体を保護するため緊急に必要があると認められる商品の提供を受ける場合であつて、当該増額された後の極度額が当該目的に照らして相当であると認めるとき。

- 三 包括信用購入あつせんをするため、利用者に交付し又は付与しているカード等についてそれに係る有効期間を更新するためにカード等を当該利用者に交付し又は付与しようとする場合（付随カード等についてそれに係る有効期間を更新するために付随カード等を当該利用者に交付し又は付与しようとする場合を除く。）において、当該利用者の当該認定包括信用購入あつせん業者に対する包括信用購入あつせんに係る債務の額が五万円に満たないとき。

認定包括信用購入あつせん業者が、法第三十条の五の五第一項本文の規定により算定した利用者支払可能見込額（正当な理由があつて同項本文の規定による算定を行っていない場合は、利用者に交付し又は付与したカード等に係る極度額）の範囲内では付与したカード等を利用者に交付し若しくは付与しようとする場合又は当該付随カード等についてそれに係る極度額を増額しようとする場合

- 五 第一号 第三号又は前号に掲げるもののほか、認定包括信用購入あつせん業者が、カード等を利用者に交付し又は付与した時から当該カード等についてそれに係る有効期間の満了の日までに、当該カード等に代えてカード等を利用者に交付し又は付与しようとする場合（カード等についてそれに係る有効期間を更新しようとする場合を除く。）

更新包括信用購入あつせん業者は、前項各号に掲げる場合には、次の各号に掲げる場合に区分に応じ、利用者ごとに、当該各号に定める事項の記録を、書面又は電磁的記録をもつて作成し、カード等（付随カード等を含む。）についてそれに係る有効期間（更新された後の有効期間を除く。）の満了の日又は当該有効期間内に締結した全ての包括信用購入あつせん関係受領契約（当該カード等（付随カード等を含む。）に係るものに限る。）に定められた最終の支払期日のうち最後のもの（これらに契約に基づく包括信用購入あつせんに係る債務の全てが弁済その他の事由により消滅したときにあつては、

その消滅した日）のうちいずれか遅い日までの間保存しなければならない。

- 一 前項第一号に掲げる場合 次に掲げる事項の極度額を増額しようとする場合にあつては増額した年月日、カード等についてそれに係る有効期間を更新しようとする場合にあつてはその更新しようとする年月日及び指定信用情報機関が保有する特定信用情報を使用して調査を行った年月日
- ロ 利用者に交付し又は付与したカード等についてそれに係る極度額（カード等についてそれに係る極度額を増額しようとする場合にあつては、増額した後の極度額）
- ハ 指定信用情報機関が保有する特定信用情報を使用して行つた調査の結果
- ニ 当該認定包括信用購入あつせん業者に対する包括信用購入あつせんに係る債務の額
- イ 前項第二号に掲げる場合 次に掲げる事項についてそれに係る極度額を増額した年月日
- ロ 増額した期間
- ハ 増額した後の極度額
- ニ 利用者がカード等を提示し又は通知して、包括信用購入あつせん関係販売業者から商品若しくは権利を購入し、又は包括信用購入あつせん関係債務提供事業者から債務の提供を受ける目的
- ホ あらかじめ確認した包括信用購入あつせん関係販売業者若しくは包括信用購入あつせん関係債務提供事業者の名称又はこれに相当するもの
- ヘ 増額した期間において、利用者がカード等を提示し又は通知して、商品若しくは権利を購入した包括信用購入あつせん関係販売業者、又は債務の提供を受ける包括信用購入あつせん関係債務提供事業者の名称又はこれに相当するもの
- ト 利用者が得る見込みがあると認められる臨時的かつ短期的な収入（前項第二号ロに該当するときに限る。）
- 三 前項第三号に掲げる場合 次に掲げる事項
- イ 利用者に交付し又は付与しているカード等についてそれに係る有効期間を更新しようとする年月日及び当該利用者の当該認定包括信用購入あつせん業者に対する包括信

用購入あつせんに係る債務の額を調査した年月日

ロ 利用者に交付し又は付与したカード等についてそれに係る極度額

ハ 当該認定包括信用購入あつせん業者に対する包括信用購入あつせんに係る債務の額

四 前項第四号に掲げる場合 次に掲げる事項

イ 付随カード等についてそれに係る契約年月日(付随カード等についてそれに係る極度額を増額しようとする場合にあっては、増額した年月日)

ロ 利用者に交付し又は付与した付随カード等についてそれに係る極度額(付随カード等についてそれに係る極度額を増額しようとする場合にあっては、増額した後の極度額)

五 前項第五号に掲げる場合 カード等を利用者に交付し又は付与しようとする年月日

(利用者支払可能見込額の算定に関する記録)

第六十二条の四 法第三十条の五の五第三項の規定により、認定包括信用購入あつせん業者は、次の各号に掲げる場合の区分に応じ、利用者ごとに、次に定める事項の記録を、書面又は電磁的記録をもつて作成し、カード等についてそれに係る有効期間(第一号に掲げる場合には更新された後の有効期間を含み、第二号に掲げる場合には更新された後の有効期間を除く。)の満了の日又は当該有効期間内に締結した全ての包括信用購入あつせん関係受領契約(当該カード等に係るものに限る。)に定められた最終の支払期日のうち最後のもの(これらの契約に基づく包括信用購入あつせんに係る債務の全てが弁済その他の事由により消滅したときにあつては、その消滅した日)のうちいずれか遅い日までの間消滅しなければならぬ。

一 法第三十条の五の五第一項本文の規定により利用者支払可能見込額を算定した場合であつて、包括信用購入あつせんをするためカード等を利用者に交付し若しくは付与したとき又は利用者に交付し若しくは付与したカード等についてそれに係る極度額を増額したとき次に掲げる事項

イ 契約年月日(カード等についてそれに係る極度額を増額しようとする場合にあっては、増額した年月日)

ロ 利用者に交付し又は付与したカード等についてそれに係る極度額(カード等につい

てそれに係る極度額を増額しようとする場合にあっては、増額した後の極度額)

ハ 法第三十条の五の五第一項本文の規定により算定した利用者支払可能見込額(ロの極度額と異なる場合に限り)

二 法第三十条の五の五第二項の規定により、指定信用情報機関が保有する特定信用情報を使用して行つた調査の結果

法第三十条の五の五第一項本文の規定により利用者支払可能見込額を算定した場合であつて、包括信用購入あつせんをするため、利用者に交付し又は付与しているカード等についてそれに係る有効期間を更新するためにカード等を当該利用者に交付し又は付与したとき次に掲げる事項

イ 利用者に交付し又は付与しているカード等についてそれに係る有効期間を更新しようとする年月日及び法第三十条の五の五第一項本文の規定による算定を行つた年月日

ロ 利用者に交付し又は付与したカード等についてそれに係る極度額

ハ 法第三十条の五の五第一項本文の規定により算定した利用者支払可能見込額(ロの極度額と異なる場合に限り)

二 法第三十条の五の五第二項の規定により、指定信用情報機関が保有する特定信用情報を使用して行つた調査の結果

第六十二条の五 法第三十条の五の五第四項の報告は、様式第十三の四による報告書を提出しなければならない。

2 法第三十条の五の五第四項の経済産業省令で定める事項は、報告の対象となる事業年度の延滞率の実績その他利用者支払可能見込額の算定に関する事項とする。

(利用者支払可能見込額を超える場合のカード等の交付等の禁止に係る利用者の保護に支障を生ずることがない場合)

第六十二条の六 法第三十条の五の六ただし書の経済産業省令・内閣府令で定める場合は、第六十二条の三第一項各号に掲げる場合とする。

第三款 包括信用購入あつせん業者の登録等

(登録の申請)

第六十三条 法第三十二条第一項の申請書は、様式第十四によるものとする。

2 法第三十二条第二項の経済産業省令で定める書類は、次のとおりとする。

一 登録申請書提出日前一月以内の一定の日の現在において様式第二により作成した財産に関する調査並びに登録申請書提出日の直前事業年度の貸借対照表(関連する注記を含む。第六十八条の九第二項第一号本文及び第九十九条第二項第一号本文において同じ。)、及び株主資本等変動計算書(関連する注記を含む。第六十八条の九第二項第一号本文及び第九十九条第二項第一号本文において同じ。)、又はこれらに代わる書面。ただし、登録の申請の日を含む事業年度に設立された法人にあつては、会社法第四百三十五条第一項又は第六百七十七条第一項の規定により成立のときに作成する貸借対照表(関連する注記を含む。第六十八条の九第二項第一号ただし書及び第九十九条第二項第一号ただし書において同じ。)、又はこれに代わる書面

二 兼営事業がある場合には、その種類及び概要を記載した書面

三 役員(法第三十二条第一項第四号に規定する役員をいう。第六十七条第二項第二号、第六十八条の九第二項第二号、第六十八条の十五第二項第二号、第九十九条第二項第三号、第二百二条第二項第二号、第二百三十三條の二第二項第一号及び第二百三十三條の四第二項第二号において同じ。)の履歴書(役員が法人であるときは、当該役員の前職を記載した書面。第六十七條第二項第二号、第六十八條の九第二項第三号、第六十八條の十五第二項第二号、第九十九条第二項第三号、第二百二条第二項第二号、第二百三十三條の二第二項第一号及び第二百三十三條の四第二項第二号において同じ。)

四 株主若しくは社員の名簿及び親会社(会社法第二条第四号に規定する親会社をいう。以下同じ。)の株主若しくは社員の名簿又はこれらに代わる書面

五 加入指定信用情報機関の商号又は名称を記載した書面

六 特定信用情報提供契約を締結している特定信用情報提供等業務を行う者(加入指定信用情報機関を除く。第六十八條の九第二項第六号及び第九十九条第二項第六号において同じ。)の商号又は名称を記載した書面

七 包括信用購入あつせんに係る業務に関する社内規則等(包括信用購入あつせん業者又はその役員、使用人その他の従業者が遵守すべき規則その他これに準ずるものであつて包括信用購入あつせん業者が作成するものをいう。第六十六条、第六十八條の九第二項第七号、第六十八條の十二及び第六十八條の十四第二項において同じ。)

八 包括信用購入あつせんに係る業務に関する組織図

九 法第三十三条の二第一項第五号から第十一号までの規定に該当しないことを誓約する書面

3 第十二条第三項の規定は、法第三十二条第三項の経済産業省令で定める電磁的記録に準用する。

(取締役等と同等以上の支配力を有する者)

第六十四条 法第三十二条第一項第四号に規定する経済産業省令で定めるものは、次の各号のいずれかに該当するものとする。

一 当該法人の総株主等の議決権(総株主、総社員又は総出資者の議決権(株式会社にあつては、株主総会において決議を行使することができる事項の全部につき議決権を行使することができない株式についての議決権を除き、会社法第八百七十九條第三項の規定により議決権を有するものとみなされる株式についての議決権を含む。)をいう。以下この条において同じ。)の百分の二十五を超える議決権に係る株式又は出資(以下この条において「株式等」という。)を自己又は他人(仮設人を含む。次号において同じ。)の名称をもつて所有している個人

二 当該法人の親会社の総株主等の議決権の百分の五十を超える議決権に係る株式等を自己又は他人の名称をもつて所有している個人

三 当該法人の業務を執行する社員又はこれに準ずる者が法人である場合におけるその職務を行うべき者

四 当該法人の役員又は前三号に掲げる者が未成年者である場合におけるその法定代理人(法定代理人が法人である場合においては、その役員を含む。)

2 前項第一号又は第二号の場合において、これらの規定に掲げる者が保有する議決権には、社債、株式等の振替に関する法律第四百七条第一項又は第四百八条第一項(これらの規定を

イ 利用者に交付し又は付与しているカード等についてそれに係る有効期間を更新しようとする年月日及び当該利用者の当該登録少額包括信用購入あつせん業者に対する包括信用購入あつせんに係る債務の額を調査した年月日

ロ 利用者に交付し又は付与したカード等についてそれに係る極度額

ハ 当該認定包括信用購入あつせん業者に対する包括信用購入あつせんに係る債務の額

ニ 前項第三号に掲げる場合 次に掲げる事項

イ 付随カード等についてそれに係る契約年月日(付随カード等についてそれに係る極度額を増額しようとする場合にあっては、増額した年月日)

ロ 利用者に交付し又は付与した付随カード等についてそれに係る極度額(付随カード等についてそれに係る極度額を増額しようとする場合にあっては、増額した年月日)

四 前項第四号に掲げる場合 カード等を利用者に交付し又は付与しようとする年月日

(利用支払可能見込額の算定に関する記録)

第六十八條の四 法第三十五条の二の四第三項の規定により、登録少額包括信用購入あつせん業者は、次の各号に掲げる場合の区分に応じ、利用者ごとに、次に定める事項の記録を、書面又は電磁的記録をもつて作成し、カード等についてそれに係る有効期間(第一号に掲げる場合には更新された後の有効期間を含む、第二号に掲げる場合には更新された後の有効期間を除く)の満了の日又は当該有効期間に締結した全ての包括信用購入あつせん関係受領契約(当該カード等に係るものに限る。)に定められた最終の支払期日のうち最後のもの(これらの契約に基づく包括信用購入あつせんに係る債務の全てが弁済その他の事由により消滅したときにあつては、その消滅した日)のうちいずれか遅い日までの間保存しなければならない。

一 法第三十五条の二の四第一項本文の規定により利用支払可能見込額を算定した場合であつて、包括信用購入あつせんをするためカード等を利用者に交付し若しくは付与したとき又は利用者に交付し若しくは付与したカード等についてそれに係る極度額を増額したとき 次に掲げる事項

イ 契約年月日(カード等についてそれに係る極度額を増額しようとする場合にあっては、増額した年月日)

ロ 利用者に交付し又は付与したカード等についてそれに係る極度額(カード等についてそれに係る極度額を増額しようとする場合にあっては、増額した後の極度額)

ハ 法第三十五条の二の四第一項本文の規定により算定した利用者支払可能見込額(ロの極度額と異なる場合に限り)

ニ 法第三十五条の二の四第二項の規定により、指定信用情報機関が保有する特定信用情報を使用した行つた調査の結果

二 法第三十五条の二の四第一項本文の規定により利用者支払可能見込額を算定した場合であつて、包括信用購入あつせんをするため、利用者に交付し又は付与しているカード等についてそれに係る有効期間を更新するためにカード等を当該利用者に交付し又は付与したとき 次に掲げる事項

イ 利用者に交付し又は付与しているカード等についてそれに係る有効期間を更新しようとする年月日及び法第三十五条の二の四第一項本文の規定による算定を行つた年月日

ロ 利用者に交付し又は付与したカード等についてそれに係る極度額

ハ 法第三十五条の二の四第一項本文の規定により算定した利用者支払可能見込額(ロの極度額と異なる場合に限り)

ニ 法第三十五条の二の四第二項の規定により、指定信用情報機関が保有する特定信用情報を使用した行つた調査の結果

二 法第三十五条の二の四第一項本文の規定により利用者支払可能見込額を算定した場合であつて、包括信用購入あつせんをするため、利用者に交付し又は付与しているカード等についてそれに係る有効期間を更新するためにカード等を当該利用者に交付し又は付与したとき 次に掲げる事項

イ 利用者に交付し又は付与しているカード等についてそれに係る有効期間を更新しようとする年月日及び法第三十五条の二の四第一項本文の規定による算定を行つた年月日

ロ 利用者に交付し又は付与したカード等についてそれに係る極度額

ハ 法第三十五条の二の四第一項本文の規定により算定した利用者支払可能見込額(ロの極度額と異なる場合に限り)

ニ 法第三十五条の二の四第二項の規定により、指定信用情報機関が保有する特定信用情報を使用した行つた調査の結果

一 法第三十五条の二の四第一項本文の規定により利用支払可能見込額を算定した場合であつて、包括信用購入あつせんをするためカード等を利用者に交付し若しくは付与したとき又は利用者に交付し若しくは付与したカード等についてそれに係る極度額を増額したとき 次に掲げる事項

イ 契約年月日(カード等についてそれに係る極度額を増額しようとする場合にあっては、増額した年月日)

して、法第三十条の二の三第一項又は第二項に規定する契約及び同条第五項に規定する契約を締結すること。

ハ 登録少額包括信用購入あつせん業者が、法第三十条の二の三第三項に規定する弁済金であつてロに規定する同条第二項に規定する契約に係るものの支払を請求する場合には、電子情報処理組織を使用する方法のうち第五十三条第二項第一号に掲げるものによること。

二 登録少額包括信用購入あつせん業者が電磁的方法による催告について利用者又は購入者等の承諾を得た場合

2 前項第一号に規定する場合には、登録少額包括信用購入あつせん業者は、書面により、法第三十五条の二の六第一項に規定する催告を行うことができる。

3 第一項第二号に規定する場合には、登録少額包括信用購入あつせん業者は、法第三十五条の二の六第一項に規定する催告を行うときは、あらかじめ、当該利用者又は購入者等に対し、その用いる電磁的方法の種類及び内容を示し、書面又は電磁的方法による承諾を得なければならぬ。

4 前項の規定による承諾を得た登録少額包括信用購入あつせん業者は、当該利用者又は購入者等から書面又は電磁的方法により電磁的方法による提供を受けない旨の申出があつたときは、当該利用者又は購入者等に対し、法第三十五条の二の六第一項に規定する催告を電磁的方法によつてしてはならない。ただし、当該利用者又は購入者等が再び前項の規定による承諾をした場合は、この限りでない。

5 第三項の規定により示すべき方法の種類及び内容は、次に掲げる事項とする。

一 次条第一項に規定する方法のうち登録少額包括信用購入あつせん業者が使用するもの

二 ファイルへの記録の方法

(情報通信の技術を利用する方法)

第六十八條の七 法第三十五条の二の六第一項の電磁的方法は、次に掲げる方法とする。

一 電子情報処理組織を使用する方法のうちイ又はロに掲げるもの

イ 登録少額包括信用購入あつせん業者の使用に係る電子計算機と購入者等の使用に係る電子計算機とを接続する電気通信回線を通じて送信し、受信者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録する方法

ロ 登録少額包括信用購入あつせん業者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録された催告に係る事項を電気通信回線を通じて購入者等の閲覧に供し、当該購入者等の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに当該事項を記録する方法

二 電磁的記録媒体をもつて調製するファイルに催告に係る事項を記録したものを交付する方法

2 前項に掲げる方法は、次に掲げる基準に適合するものでなければならない。

一 購入者等がファイルへの記録を出力することにより書面を作成できるものであること。

二 前項第一号ロに掲げる方法にあつては、催告に係る事項を顧客ファイル又は閲覧ファイルに記録した旨を購入者等に対し通知すること。ただし、購入者等が当該催告に係る事項を閲覧したことを確認したときは、この限りでない。

(経済産業大臣への定期報告)

第六十八條の八 法第三十五条の二の七の報告は、様式第十五の二による報告書を提出してしなければならない。

2 法第三十五条の二の七の経済産業省令で定める事項は、報告の対象となる事業年度の延滞率の実績その他利用者支払可能見込額の算定に関する事項とする。

(登録申請)

第六十八條の九 法第三十五条の二の九第一項の申請書は、様式第十五の三によるものとする。

2 法第三十五条の二の九第二項の経済産業省令で定める書類は、次のとおりとする。

一 登録申請書提出日前一月以内の一定の日の現在において様式第二により作成した財産に関する調査並びに登録申請書提出日の直前事業年度の貸借対照表、損益計算書及び株主資本等変動計算書又はこれらに代わる書面(次条第一号に規定する要件を満たすものとして法第三十五条の二の三第一項の登録を受ける場合にあっては、当該登録を受けようとする者及びその親会社に係るもの)。ただし、登録の申請の日を含む事業年度に設立された法人にあつては、会社法第四百三十五条第一項又は第六百七十七条第一項の規定により成立のときに作成する貸借対照表又はこれに代わる書面

して、法第三十条の二の三第一項又は第二項に規定する契約及び同条第五項に規定する契約を締結すること。

ハ 登録少額包括信用購入あつせん業者が、法第三十条の二の三第三項に規定する弁済金であつてロに規定する同条第二項に規定する契約に係るものの支払を請求する場合には、電子情報処理組織を使用する方法のうち第五十三条第二項第一号に掲げるものによること。

二 登録少額包括信用購入あつせん業者が電磁的方法による催告について利用者又は購入者等の承諾を得た場合

2 前項第一号に規定する場合には、登録少額包括信用購入あつせん業者は、法第三十五条の二の六第一項に規定する催告を行うことができる。

3 第一項第二号に規定する場合には、登録少額包括信用購入あつせん業者は、法第三十五条の二の六第一項に規定する催告を行うときは、あらかじめ、当該利用者又は購入者等に対し、その用いる電磁的方法の種類及び内容を示し、書面又は電磁的方法による承諾を得なければならぬ。

4 前項の規定による承諾を得た登録少額包括信用購入あつせん業者は、当該利用者又は購入者等から書面又は電磁的方法により電磁的方法による提供を受けない旨の申出があつたときは、当該利用者又は購入者等に対し、法第三十五条の二の六第一項に規定する催告を電磁的方法によつてしてはならない。ただし、当該利用者又は購入者等が再び前項の規定による承諾をした場合は、この限りでない。

5 第三項の規定により示すべき方法の種類及び内容は、次に掲げる事項とする。

一 次条第一項に規定する方法のうち登録少額包括信用購入あつせん業者が使用するもの

二 ファイルへの記録の方法

(情報通信の技術を利用する方法)

第六十八條の七 法第三十五条の二の六第一項の電磁的方法は、次に掲げる方法とする。

一 電子情報処理組織を使用する方法のうちイ又はロに掲げるもの

イ 登録少額包括信用購入あつせん業者の使用に係る電子計算機と購入者等の使用に係る電子計算機とを接続する電気通信回線を通じて送信し、受信者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録する方法

ロ 登録少額包括信用購入あつせん業者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録された催告に係る事項を電気通信回線を通じて購入者等の閲覧に供し、当該購入者等の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに当該事項を記録する方法

二 電磁的記録媒体をもつて調製するファイルに催告に係る事項を記録したものを交付する方法

2 前項に掲げる方法は、次に掲げる基準に適合するものでなければならない。

一 購入者等がファイルへの記録を出力することにより書面を作成できるものであること。

二 前項第一号ロに掲げる方法にあつては、催告に係る事項を顧客ファイル又は閲覧ファイルに記録した旨を購入者等に対し通知すること。ただし、購入者等が当該催告に係る事項を閲覧したことを確認したときは、この限りでない。

(経済産業大臣への定期報告)

第六十八條の八 法第三十五条の二の七の報告は、様式第十五の二による報告書を提出してなければならない。

2 法第三十五条の二の七の経済産業省令で定める事項は、報告の対象となる事業年度の延滞率の実績その他利用者支払可能見込額の算定に関する事項とする。

(登録申請)

第六十八條の九 法第三十五条の二の九第一項の申請書は、様式第十五の三によるものとする。

2 法第三十五条の二の九第二項の経済産業省令で定める書類は、次のとおりとする。

一 登録申請書提出日前一月以内の一定の日の現在において様式第二により作成した財産に関する調査並びに登録申請書提出日の直前事業年度の貸借対照表、損益計算書及び株主資本等変動計算書又はこれらに代わる書面(次条第一号に規定する要件を満たすものとして法第三十五条の二の三第一項の登録を受ける場合にあっては、当該登録を受けようとする者及びその親会社に係るもの)。ただし、登録の申請の日を含む事業年度に設立された法人にあつては、会社法第四百三十五条第一項又は第六百七十七条第一項の規定により成立のときに作成する貸借対照表又はこれに代わる書面

して、法第三十条の二の三第一項又は第二項に規定する契約及び同条第五項に規定する契約を締結すること。

ハ 登録少額包括信用購入あつせん業者が、法第三十条の二の三第三項に規定する弁済金であつてロに規定する同条第二項に規定する契約に係るものの支払を請求する場合には、電子情報処理組織を使用する方法のうち第五十三条第二項第一号に掲げるものによること。

二 登録少額包括信用購入あつせん業者が電磁的方法による催告について利用者又は購入者等の承諾を得た場合

2 前項第一号に規定する場合には、登録少額包括信用購入あつせん業者は、法第三十五条の二の六第一項に規定する催告を行うことができる。

3 第一項第二号に規定する場合には、登録少額包括信用購入あつせん業者は、法第三十五条の二の六第一項に規定する催告を行うときは、あらかじめ、当該利用者又は購入者等に対し、その用いる電磁的方法の種類及び内容を示し、書面又は電磁的方法による承諾を得なければならぬ。

4 前項の規定による承諾を得た登録少額包括信用購入あつせん業者は、当該利用者又は購入者等から書面又は電磁的方法により電磁的方法による提供を受けない旨の申出があつたときは、当該利用者又は購入者等に対し、法第三十五条の二の六第一項に規定する催告を電磁的方法によつてしてはならない。ただし、当該利用者又は購入者等が再び前項の規定による承諾をした場合は、この限りでない。

5 第三項の規定により示すべき方法の種類及び内容は、次に掲げる事項とする。

一 次条第一項に規定する方法のうち登録少額包括信用購入あつせん業者が使用するもの

二 ファイルへの記録の方法

(情報通信の技術を利用する方法)

第六十八條の七 法第三十五条の二の六第一項の電磁的方法は、次に掲げる方法とする。

一 電子情報処理組織を使用する方法のうちイ又はロに掲げるもの

イ 登録少額包括信用購入あつせん業者の使用に係る電子計算機と購入者等の使用に係る電子計算機とを接続する電気通信回線を通じて送信し、受信者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録する方法

して、法第三十条の二の三第一項又は第二項に規定する契約及び同条第五項に規定する契約を締結すること。

ハ 登録少額包括信用購入あつせん業者が、法第三十条の二の三第三項に規定する弁済金であつてロに規定する同条第二項に規定する契約に係るものの支払を請求する場合には、電子情報処理組織を使用する方法のうち第五十三条第二項第一号に掲げるものによること。

二 登録少額包括信用購入あつせん業者が電磁的方法による催告について利用者又は購入者等の承諾を得た場合

2 前項第一号に規定する場合には、登録少額包括信用購入あつせん業者は、法第三十五条の二の六第一項に規定する催告を行うことができる。

3 第一項第二号に規定する場合には、登録少額包括信用購入あつせん業者は、法第三十五条の二の六第一項に規定する催告を行うときは、あらかじめ、当該利用者又は購入者等に対し、その用いる電磁的方法の種類及び内容を示し、書面又は電磁的方法による承諾を得なければならぬ。

4 前項の規定による承諾を得た登録少額包括信用購入あつせん業者は、当該利用者又は購入者等から書面又は電磁的方法により電磁的方法による提供を受けない旨の申出があつたときは、当該利用者又は購入者等に対し、法第三十五条の二の六第一項に規定する催告を電磁的方法によつてしてはならない。ただし、当該利用者又は購入者等が再び前項の規定による承諾をした場合は、この限りでない。

5 第三項の規定により示すべき方法の種類及び内容は、次に掲げる事項とする。

一 次条第一項に規定する方法のうち登録少額包括信用購入あつせん業者が使用するもの

二 ファイルへの記録の方法

(情報通信の技術を利用する方法)

第六十八條の七 法第三十五条の二の六第一項の電磁的方法は、次に掲げる方法とする。

一 電子情報処理組織を使用する方法のうちイ又はロに掲げるもの

イ 登録少額包括信用購入あつせん業者の使用に係る電子計算機と購入者等の使用に係る電子計算機とを接続する電気通信回線を通じて送信し、受信者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録する方法

二 兼営事業がある場合には、その種類及び概要を記載した書面

三 役員履歴書

四 株主若しくは社員の名簿及び親会社株主若しくは社員の名簿又はこれらに代わる書面

五 加入指定信用情報機関の商号又は名称を記載した書面

六 特定信用情報提供契約を締結している特定信用情報提供等業務を行う者の商号又は名称を記載した書面

七 包括信用購入あつせんに係る業務に関する社内規則等（法第三十五条の二の九第一項第四号の方法及び同項第五号の体制に関する社内規則等を含む。）

八 包括信用購入あつせんに係る業務に関する組織図（法第三十五条の二の九第一項第五号の体制に関する組織図を含む。）

九 次条第二号又は第三号に規定する要件を満たすものとして法第三十五条の二の三第一項の登録を受ける場合は、これらの号のうちいずれかを満たすことを明らかにする事業計画書

十 法第三十五条の二の十一第四号から第十一号までの規定に該当しないことを誓約する書面

3 第十二条第三項の規定は、法第三十五条の二の九第三項の経済産業省令で定める電磁的記録に準用する。

（資産の合計額から負債の合計額を控除した額）

第六十八條の十 法第三十五条の二の十一第一項第三号に規定する経済産業省令で定める要件は、資産の合計額から負債の合計額を控除した額（以下この条において「純資産額」という。）が負の値でないことであつて、次の各号のいずれかに該当するものとする。

一 法第三十五条の二の三第一項の登録を受けようとする者及びその親会社の純資産額の合計額が、これらの者の資本金又は出資の額の合計額の百分の九十に相当する額以上であるもの

二 事業開始の日から五年以内に純資産額が資本金又は出資の額の百分の九十に相当する額以上であることが見込まれるもの

三 事業開始の日から五年以内に純資産額が千万円以上であることが見込まれるもの

（不正な行為等をするおそれがあると認められる法人）

第六十八條の十一 法第三十五条の二の十一第一項第九号に規定する経済産業省令で定めるもの

は、次の各号のいずれかに該当する法人とする。

一 法第三十五条の二の十四第一項各号又は第二項各号のいずれかに該当するとして登録の取消しの処分に係る行政手続法第十五条の規定による通知があつた日から当該処分をする日又は処分をしないことの決定をする日までの期間内に法第三十五条の三において準用する法第三十五条の規定による届出をした法人（包括信用購入あつせんの営業の廃止について相当の理由のある法人を除く。以下この条において同じ。）で、当該届出の日から五年を経過しない法人

二 前号の期間内に法第三十五条の三において準用する法第三十五条の規定による届出をした法人の業務を執行する社員又はこれに準ずる者であつた者であつて、同号に規定する通知があつた日前三十日に当たる日から当該法人の廃止の日までの間にその地位にあつたもの（法人に限る。）で、当該届出の日から五年を経過しない法人

三 役員のうち、第一号の期間内に法第三十五条の三において準用する法第三十五条の規定による届出をした法人の役員であつた者であつて同号に規定する通知があつた日前三十日に当たる日から当該法人の廃止の日までの間にその地位にあつたもので当該届出の日から五年を経過しない者のある法人

（少額の包括信用購入あつせんの公正かつ適確な実施を確保するために必要な体制）

第六十八條の十二 法第三十五条の二の十一第一項第十号に規定する経済産業省令で定める体制は、次のとおりとする。

一 法第三十五条の十六第一項及び第三項に規定する措置その他法に定める措置の円滑な実施を確保するために必要な体制

二 利用者又は購入者等の苦情を適切かつ迅速に処理するために必要な体制

三 法第三十五条の二の三第一項に規定する包括信用購入あつせんの公正かつ適確な実施を確保するため十分な社内規則等を定めていること。

四 法若しくは法の規定に基づく命令又は社内規則等を遵守するために必要な体制

前項第三号の社内規則等は包括信用購入あつせんに係る業務に関する責任体制を明確化する規定を含むものでなければならない。

2

（利用者支払可能見込額の算定の方法等の基準）

第六十八條の十三 法第三十五条の二の十一第一項第十一号の経済産業省令で定める基準は、次のとおりとする。

一 法第三十五条の二の十一第一項第十一号の方法を定めるに当たり、不適正又は不十分な技術及び情報を利用していないこと。

二 利用者の支払能力に関する情報を当該利用者に対する不当な差別、偏見その他の著しい不利益が生じるおそれがあると認められる方法により利用していないこと。

三 この命令に基づいて指定信用情報機関が算定する延滞率に照らし、延滞率を適切に管理すること。

（変更の登録）

第六十八條の十四 法第三十五条の二の十二第一項の規定による変更の登録の申請は、様式第十五の四による申請書を提出してしなければならない。

2 前項の申請書には、次に掲げる書類を添付しなければならない。

一 法第三十五条の二の九第一項第四号の方法を変更しようとするときは、変更後の当該方法に関する社内規則等

二 法第三十五条の二の九第一項第五号の体制を変更しようとするときは、変更後の当該体制に関する社内規則等及び組織図

3 前条第一項の規定は法第三十五条の二の十二第二項において準用する法第三十五条の二の十一第一項第十一号の経済産業省令で定める基準に、前条第二項の規定は法第三十五条の二の十二第二項において準用する法第三十五条の二の十一第一項第十一号の経済産業省令で定める基準に準用する。

（変更の届出）

第六十八條の十五 法第三十五条の二の十三第一項の届出は、様式第十五の五による届出書を提出してしなければならない。

2 法第三十五条の二の十三第三項において準用する法第三十五条の二の九第二項本文の経済産業省令で定める書類は、次のとおりとする。

一 その変更に係る事項を証する書類

二 その変更が新たに就任した役員に係るものであるときは、当該役員履歴書及び第六十八條の九第二項第十号に掲げる書面（法第三十五条の二の十一第一項第六号に係るものに限る。）

3 第十二条第三項の規定は、法第三十五条の二の十三第三項において準用する法第三十五条の二の九第三項の経済産業省令で定める電磁的記録に準用する。

第六十八條の十六 第六十八條の規定は、法第三十五条の三において準用する法第三十四条の四の規定による公示に準用する。

（廃止の届出）

第六十八條の十七 第六十八條の二の規定は、法第三十五条の三において準用する法第三十五条の規定による届出に準用する。

第二節 個別信用購入あつせん

第一款 業務

（個別信用購入あつせんの取引条件の表示）

第六十九條 法第三十五条の三の二第一項各号の事項を示すときは、次の各号に定めるところによらなければならない。ただし、同項第四号の事項にあつては、支払分の支払の方法が購入者等の要求により支払の間隔については第三十六条第五項第一号に、額については同項第二号に該当する場合以外の場合になつたとき又は個別信用購入あつせんの手数料（金利、信用調査費、集金費、事務管理費、貸倒補てん費その他何らの名義をもつてするを問わず個別信用購入あつせんに係る手数料として個別信用購入あつせん業者が購入者等に対し支払わせるものの総額（登記等手数料を個別信用購入あつせんの手数料に含めない旨が明示されているときは、登記等手数料を控除した額。以下同じ。）が二千五百円未満のときは、示さないことができる。この場合において、同項中「包括信用購入あつせん関係受領契約」とあるのは、「個別信用購入あつせん関係受領契約」と読み替えるものとする。

一 営業所等において見やすい方法により揭示し、又は書面により提示すること。

二 購入者等が読みやすく、理解しやすいような用語により、正確に示すこと。

三 日本産業規格Z八三〇五に規定する八ポイント以上の大きさの文字及び数字を用いること。

四 法第三十五条の三の第二項第四号の事項は、次項に規定する方法により算定した個別信用購入あつせんの手数料の利率を年利建てで少なくとも〇・一パーセントの単位まで示し、かつ、当該利率以外の利率を示さないこと。

2 法第三十五条の三の第二項第四号の経済産業省令・内閣府令で定める方法は、別表第一第一号に定める方法とする。ただし、支払分の支払の方法が、支払の間隔については第三十六条第五項第一号に、額については同項第二号に該当する場合以外の場合にあつては、同表第二号に定める方法とすることができる。この場合において、同項「包括信用購入あつせん関係受領契約」とあるのは、「個別信用購入あつせん関係受領契約」と読み替えるものとする。

第七十条 法第三十五条の三の第二項の規定により、個別信用購入あつせんに係る販売又は提供の方法により商品若しくは指定権利を販売する場合の販売条件又は役務を提供する場合の提供条件について広告するときは、同条第一項各号の事項について次の各号に定めるところにより表示しなければならない。ただし、同条第一項第四号の事項にあつては、個別信用購入あつせんの手数料が二千五百円未満のときは、表示しないことができる。

- 一 購入者等が読みやすく、理解しやすいような用語により、正確に表示すること。
- 二 書面により広告を行う場合にあつては、日本産業規格Z八三〇五に規定する八ポイント以上の大きさの文字及び数字を用いること。
- 三 法第三十五条の三の第二項第四号の事項は、前条第二項に規定する方法により算定した個別信用購入あつせんの手数料の利率を年利建てで少なくとも〇・一パーセントの単位まで示し、かつ、当該利率以外の利率を示さないこと。

(個別支払可能見込額の調査等)

第七十一条 法第三十五条の三の第三項本文の経済産業省令・内閣府令で定める事項は、次のとおりとする。

- 一 年収
- 二 預貯金（購入者等の利益の保護を図るため個別支払可能見込額の算定に必要な場合に限り。）
- 三 信用購入あつせんに係る債務の支払の状況
- 四 借入れの状況

五 個別信用購入あつせんに係る購入の方法により購入される商品の価額

六 前各号に掲げるもののほか、個別支払可能見込額の算定に必要な事項であつて客観的に判断することができるもの

第七十二条 法第三十五条の三の第三項本文の規定により前条各号に掲げる事項を調査するときは、次項から第七項までに定めるところによる。

- 2 前条第一号に掲げる事項の調査については、購入者等から受ける年収の申告その他の適切な方法により行わなければならない。ただし、他の者の収入又はその収入及び他の者の収入より生計を維持している購入者等を相手方とする個別信用購入あつせん関係受領契約を締結しようとする場合（特定配偶者を相手方とする個別信用購入あつせん関係受領契約を締結しようとする場合であつて個別信用購入あつせんに係る販売の方法により日常生活において必要とされる役務を提供する契約に該当するものに係る個別信用購入あつせん関係受領契約を締結しようとする場合以外の場合）にあつては、事前に書面その他の適切な方法により当該他の者の同意を得たときに限る。）には、当該他の者から受ける当該他の者の年収の申告その他の適切な方法により、当該購入者等及び当該他の者の年収を合算して算定することができる。
- 3 前条第二号に掲げる事項の調査については、当該購入者等から受ける預貯金の申告その他の適切な方法により行わなければならない。ただし、他の者の収入又はその収入及び他の者の収入より生計を維持している購入者等を相手方とする個別信用購入あつせん関係受領契約を締結しようとする場合（特定配偶者を相手方とする個別信用購入あつせん関係受領契約を締結しようとする場合であつて個別信用購入あつせんに係る販売の方法により日常生活において必要とされる商品若しくは指定権利を販売する契約又は個別信用購入あつせんに係る提供の方法により日常生活において必要とされる役務を提供する契約に該当するものに係る個別信用購入あつせん関係受領契約を締結しようとする場合以外の場合）にあつては、事前に書面その他の適切な方法により当該他の者の同意を得たときに限る。）には、当該他の者から受ける当該他の者の年収の申告その他の適切な方法により、当該購入者等及び当該他の者の年収を合算して算定することができる。

（。）には、当該他の者から受ける当該他の者の預貯金の申告その他の適切な方法により、当該購入者等及び当該他の者の預貯金を合算して算定することができる。

4 前条第三号に掲げる事項の調査については、購入者等の当該個別信用購入あつせん業者に対する信用購入あつせんに係る債務の支払の状況を確認して行わなければならない。ただし、他の者の収入又はその収入及び他の者の収入より生計を維持している購入者等を相手方とする個別信用購入あつせん関係受領契約を締結しようとする場合であつて、第二項ただし書又は第三項ただし書の規定により、当該購入者等及び当該他の者の年収又は預貯金を合算して算定するときは、当該他の者から受ける当該他の者の支払時期の到来していない又は支払の義務が履行されていない信用購入あつせんに係る債務の申告その他の適切な方法により、当該購入者等及び当該他の者の支払時期の到来していない又は支払の義務が履行されていない信用購入あつせんに係る債務を合算して算定しなければならない。

- 5 前条第四号に掲げる事項の調査については、購入者等の当該個別信用購入あつせん業者からの借入れの状況その他の当該購入者等の借入れの状況を勘案して行わなければならない。
- 6 前条第五号に掲げる事項の調査については、当該商品と同種の商品を換価して得ることが見込まれる額等を勘案して合理的に算定（算定を適切に行うことができないと認める場合を除く。）しなければならない。
- 7 前条第六号に掲げる事項の調査については、購入者等から受ける当該事項の申告その他の適切な方法により行わなければならない。

第七十三条 法第三十五条の三の第三項ただし書の経済産業省令・内閣府令で定める場合は、特定契約以外の契約であつて、個別信用購入あつせんに係る販売の方法により耐久性を有し、かつ、典型的な条件で販売するのに適する商品で生活に必要なとされるもの（購入者（個人）である購入者に限る。以下この項及び第七十四条第一項第二号において同じ。）を支払総額が十万円以下である商品に限る。）を販売する契約に該当するものに係る個別信用購入あつせん関係受領契約を締結しようとする場合（指定信用情報機関が保有する特定信用情報を使用することにより、当該契約を締結しようとする時点において当該購入者の支払の義務が履行されないことを認めるとき又は個別信用購入あつせんに係る販売の方法により生活に必要なとされない分量の商品を販売する契約に該当するものに係る個別信用購入あつせん関係受領契約を締結しようとするときを除く。）とする。

- 2 個別信用購入あつせん業者は、前項に定める場合には、購入者ごとに、次の各号に掲げる事項の記録を、書面又は電磁的記録をもつて作成し、個別信用購入あつせん関係受領契約に定められた最終の支払期日（当該契約に基づく個別信用購入あつせんに係る債務が弁済その他の事由により消滅したとき）まで間保存しなければならない。
- 一 契約年月日
- 二 当該契約が特定契約以外の契約であること。
- 三 個別信用購入あつせんに係る販売の方法により販売する商品名及びその数量
- 四 購入者の支払総額
- 五 指定信用情報機関が保有する特定信用情報を使用して行つた調査の結果

第七十三条の二 法第三十五条の三の第三項の規定により、個別信用購入あつせん業者は、購入者等ごとに、次に掲げる事項の記録を、書面又は電磁的記録をもつて作成し、個別信用購入あつせん関係受領契約に定められた最終の支払期日（当該契約に基づく個別信用購入あつせんに係る債務が弁済その他の事由により消滅したとき）まで間保存しなければならない。

- 一 契約年月日
- 二 購入者等の支払総額
- 三 法第三十五条の三の第三項本文の規定による調査の結果（法第三十五条の三の第三項の規定により、指定信用情報機関が保有する特定信用情報を使用して行つた調査の結果を含む。）
- 四 第七十二条第二項又は第三項の同意を得たときは、当該同意に関する事項
- 五 その他法第三十五条の三の第三項本文の規定による調査に使用した書面又はその写し（個別支払可能見込額を超える場合の個別信用購入あつせん関係受領契約の締結の禁止に係る）

購入者等の保護に支障を生ずることがない場合）
第七十四条 法第三十五条の三の四ただし書の経済産業省令・内閣府令で定める場合は、次に掲げる場合とする。

一 第七十三条第一項に定める場合

二 個別信用購入あつせんに係る販売の方法により耐久性を有し、かつ、定型的な条件で販売するのに適する商品で生活に必要とされるものを販売する契約に該当するものに係る個別信用購入あつせんに関係受領契約を締結しようとする場合であつて、当該商品の用途、過去の同種の商品の利用の状況その他の購入者が当該商品を生活において必要とする事情及び当該購入者の生活の状況に当該購入者から調査した事項並びに法第三十五条の三の三第一項本文の規定による調査により得られた事項に基づき、当該商品が当該購入者の生活に必要であること及び当該購入者が当該商品を購入する意思を有すること並びに当該購入者の支払総額及び当該商品の数量が当該購入者の生活水準に照らして相当であることを確認した場合

三 個別信用購入あつせんに係る提供の方法により役務の提供を受ける者（個人である役務の提供を受ける者に限る。以下この項において同じ。）又は当該役務の提供を受ける者と生計を一にする者を対象とする学力の教授を提供する契約（法第三十五条の三の五第一項第四号に規定する特定継続的役務提供等契約（以下「特定継続的役務提供等契約」という。）を除く。）又は道路交通法（昭和三十五年法律第五号）第九十八条第二項に基づく届出をした自動車教習所若しくは同法第九十九条第一項に規定する指定自動車教習所において同法第二十一条第九号の自動車の運転に関する教習を行う契約に該当するものに係る個別信用購入あつせんに関係受領契約を締結しようとする場合であつて、当該役務の提供を受ける者が当該役務を必要とする事情及び当該役務の提供を受ける者の生活の状況に当該役務の提供を受ける者から調査した事項並びに法第三十五条の三の三第一項本文の規定による調査により得られた事項に基づき、当該役務の提供を受ける者が当該役務を必要とする事及び当該役務の提供を受ける意思を有すること並びに当該役務の提供を受ける

者の支払総額及び当該役務の回数又は期間が当該役務の提供を受ける者の生活水準に照らして相当であることを確認した場合

四 個別信用購入あつせんに係る販売又は提供の方法により購入者等若しくは当該購入者等と生計を一にする者の生命若しくは身体を保護するため緊急に必要があると認められる商品販売する契約又は役務を提供する契約に該当するものに係る個別信用購入あつせんに関係受領契約を締結しようとする場合であつて、当該購入者等が当該商品又は当該役務を緊急に必要とする事情及び当該購入者等の生活の状況に当該購入者等から調査した事項並びに法第三十五条の三の三第一項本文の規定による調査により得られた事項に基づき、当該購入者等が当該商品又は当該役務を緊急に必要とする事及び当該商品を購入し又は当該役務の提供を受ける意思を有すること並びに当該購入者等の支払総額及び当該商品の数量又は当該役務の回数若しくは期間が当該購入者等の緊急に必要とする事情に照らして相当であることを確認した場合

五 個別信用購入あつせんに係る提供の方法により役務の提供を受ける者の生活に必要とされる自動車の道路運送車両法（昭和二十六年法律第八十五号）第四十八条に規定する点検又は同法第六十二条第一項に規定する継続検査を行う契約に該当するものに係る個別信用購入あつせんに関係受領契約を締結しようとする場合であつて、当該役務の提供を受ける者が当該役務を必要とする事情及び当該役務の提供を受ける者の生活の状況に当該役務の提供を受ける者から調査した事項並びに法第三十五条の三の三第一項本文の規定による調査により得られた事項に基づき、当該役務の提供を受ける者が当該役務を必要とする事及び当該役務の提供を受ける意思を有すること並びに当該役務の提供を受ける者の支払総額が当該役務の提供を受ける者の生活水準に照らして相当であることを確認した場合

六 個別信用購入あつせんに係る提供の方法に、前項第二号から第五号までの規定に基づく確認に関する記録を、書面又は電磁的記録をもつて作成し、個別信用購入あつせんに関係受領契約に定められた最終の支払期日（当該契約に基づく個別信用購入あつせんに係る債務が弁済される

他の事由により消滅したときにあつては、その消滅した日）までの間保存しなければならない。）
 （個別信用購入あつせんに関係販売契約等の勧誘に係る調査等）

第七十五条 法第三十五条の三の五第一項の経済産業省令・内閣府令で定める事項は、次の各号に掲げる場合の区分に応じ、当該各号に定める事項とする。

一 個別信用購入あつせんに業者が個別信用購入あつせんに係る契約を取引業者又は役務提供事業者（訪問販売を行う者、電話勧誘販売を行う者、特定商取引に関する法律第三十三条第一項に規定する連鎖販売業者（以下「連鎖販売業者」という。）を行う者、同法第四十一条第一項に規定する特定継続的役務提供（以下「特定継続的役務提供」という。）を行う者又は同法第五十一条第一項に規定する業務提供誘引販売業者（以下「業務提供誘引販売業者」という。）を行う者に限る。以下この条及び次条において同じ。）と締結しようとする場合

次に掲げる事項

イ 当該販売業者又は当該役務提供事業者による特定契約に係る個別信用購入あつせんに関係販売契約又は個別信用購入あつせんに関係役務提供契約（以下「個別信用購入あつせんに関係販売等契約」という。）の申込み又は締結の勧誘に関する基本的な事項

ロ 当該販売業者が個別信用購入あつせんに係る販売の方法により販売しようとする商品若しくは指定権利又は当該役務提供事業者が個別信用購入あつせんに係る提供の方法により提供しようとする役務に関する事項（当該役務又は当該指定権利が特定継続的役務提供等契約に係るものであつて、当該役務の提供又は当該権利の行使による役務の提供に際し当該役務の提供を受ける者又は当該権利の購入者が購入する必要がある商品がある場合には、当該商品に関する事項を含む。）

ハ 当該販売業者又は当該役務提供事業者が連鎖販売業者を行う者又は業務提供誘引販売業者を行う者である場合にあつては、特定利益（特定商取引に関する法律第三十三条第一項に規定する特定利益をいう。以下同じ。）又はその業務提供誘引販売業者に係る業務提供利益（同法第五十一条第一項に規定する業務提供利益をいう。以下同じ。）

定する業務提供利益をいう。以下同じ。）に関する事項

ニ 当該販売業者又は当該役務提供事業者の取引の状況及び財産の状況

ホ 当該販売業者又は当該役務提供事業者が連鎖販売業者を行う者、特定継続的役務提供を行う者又は業務提供誘引販売業者を行う者である場合にあつては、特定商取引に関する法律第三十三条第一項に規定する連鎖販売取引（以下「連鎖販売取引」という。）特定継続的役務提供に係る取引又は同法第五十一条第一項に規定する業務提供誘引販売取引（以下「業務提供誘引販売取引」という。）に係る業務を継続して行うに足りる体制に関する事項

ヘ 当該販売業者又は当該役務提供事業者が行う特定取引（訪問販売若しくは電話勧誘販売に係る取引、連鎖販売取引、特定継続的役務提供に係る取引又は業務提供誘引販売取引をいう。以下この条及び次条において同じ。）に関する業務の停止の処分等に関する事項

ト 当該販売業者又は当該役務提供事業者が特定契約に係る個別信用購入あつせんに関係販売等契約の申込み又は締結の勧誘をするに際し、法第三十五条の三の七各号に掲げる行為をすることを防止するために必要な体制及び当該販売業者又は当該役務提供事業者が行う特定取引に関する苦情を適切かつ迅速に処理するために必要な体制の整備の状況に関する事項

チ 当該販売業者又は当該役務提供事業者が行う特定取引に関する苦情の発生状況及びその内容に関する事項

二 個別信用購入あつせんに業者が特定契約であつて個別信用購入あつせんに関係販売等契約に係るものに係る個別信用購入あつせんに関係受領契約に係る申込みを受けた場合、次に掲げる事項

イ 当該個別信用購入あつせんに関係販売等契約又は当該個別信用購入あつせんに関係受領契約に関する事項につき告げられた内容が事実であるとの誤認若しくは当該事項に係る事実が存在しないとの誤認の有無又は当該事項につき提供された断定的判断の内容が確実であるとの誤認の有無に関する事項

ロ 当該個別信用購入あつせんに関係販売等契約に係る個別信用購入あつせんに関係販売等契

約に係る個別信用購入あつせんに関係販売等契

者又は個別信用購入あつせん関係役員提供事業者による特定商取引に関する法律第六條第三項、第二十一條第三項、第三十四條第三項、第四十四條第三項若しくは第五十二條第二項の規定に違反する行為又は消費契約法（平成十二年法律第六十一号）第四條第三項に規定する行為に関する事項

第七十六條 法第三十五條の三の五第一項の規定により前條第一号及び第二号に定める事項の調査については、次項から第十二項までに定めるところによる。

2 前條第一号に定める事項の調査は、個別信用購入あつせんに係る契約（販売業者又は役員提供事業者と締結しようとするものに限る。以下この条及び第七十八條において同じ。）の締結に先立つて行わなければならない。

3 前條第一号に掲げる事項は、次に掲げる事項を含むものでなければならない。

一 個別信用購入あつせんに係る契約を締結しようとする販売業者又は役員提供事業者が行う特定取引の種類

二 個別信用購入あつせんに係る契約を締結しようとする販売業者又は役員提供事業者の氏名、生年月日、住所及び電話番号（法人にあつては、名称、住所、電話番号、法人番号（行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律（平成二十五年法律第二十七号）第二條第十五項に規定する法人番号をいう。以下同じ。）並びに代表者の氏名及び生年月日）

三 個別信用購入あつせんに係る契約を締結しようとする販売業者又は役員提供事業者の店舗その他の事業所の住所及び電話番号

四 個別信用購入あつせんに係る契約を締結しようとする販売業者又は役員提供事業者が特定契約に係る個別信用購入あつせん関係販売等契約の申込み又は締結の勧誘を行う地域

4 前條第一号に掲げる事項については、次に掲げるものを調査しなければならない。

一 個別信用購入あつせんに係る契約を締結しようとする販売業者が個別信用購入あつせんに係る販売の方法により販売しようとする商品若しくは指定権利又は個別信用購入あつせんに係る契約を締結しようとする役員提供事業者が個別信用購入あつせんに係る提供の方法により提供しようとする役務の種類を示すもの

二 見本、カタログその他の個別信用購入あつせんに係る契約を締結しようとする販売業者又は役員提供事業者が特定契約に係る個別信用購入あつせん関係販売等契約の申込み又は締結の勧誘をするに際し当該勧誘の相手方に對し提示するもの

三 個別信用購入あつせんに係る契約を締結しようとする販売業者又は役員提供事業者が特定契約に係る個別信用購入あつせん関係販売等契約の申込み又は締結の勧誘をするに際して告げた事項（前條第一号に掲げる事項の調査により知つた苦情の内容が、特定商取引に関する法律第六條第一項、第二十一條第一項、第三十四條第一項、第四十四條第一項若しくは第二項若しくは第五十二條第一項の規定に違反する行為又は消費者契約法第四條第一項第一号に規定する行為に起因すると認められる場合における当該告げた事項に限る。）であつて、商品の性能、品質、効能若しくは必要数量又は役務若しくは権利に係る役務の効果に係るものの裏付けとなる根拠を示す資料

5 前條第一号ハに掲げる事項については、個別信用購入あつせんに係る契約を締結しようとする販売業者又は役員提供事業者が特定契約に係る個別信用購入あつせん関係販売等契約の申込み又は締結の勧誘をするに際して告げた事項又は断定的判断を提供した事項（同号チに掲げる事項の調査により知つた苦情の内容が、特定商取引に関する法律第三十四條第一項若しくは第五十二條第一項の規定に違反する行為又は消費者契約法第四條第一項に規定する行為に起因すると認められる場合における当該告げた事項に限る。）であつて、特定商取引に関する法律第三十四條第一項第四号又は第五十二條第一項第四号に掲げるものの裏付けとなる根拠を示す資料を調査しなければならない。

6 前條第一号ニに掲げる事項については、調査の日の直前事業年度の貸借対照表及び損益計算書又はこれらに代わる書面による確認その他の方法により調査しなければならない。

7 前條第一号ホに掲げる事項については、事業計画書その他の連鎖販売取引、特定継続的役務提供に係る取引又は業務提供誘引販売取引に係る業務を継続して行うに足りる体制であることを示すものを調査しなければならない。

8 前條第一号へに掲げる事項は、次に掲げる事項を含むものでなければならない。

一 調査の日前五年間に特定商取引に関する法律の規定による処分（同法第七條、第二十二條、第三十八條、第四十六條若しくは第五十六條の規定による指示又は同法第八條第一項、第二十三條第一項、第三十九條第一項から第三項まで、第四十七條第一項若しくは第五十七條第一項の規定による命令に限る。以下この項において同じ。）を受けたことの有無

二 個別信用購入あつせんに係る契約を締結しようとする販売業者又は役員提供事業者が調査の日前五年間に特定商取引に関する法律の規定による処分を受けたことのある法人の役員であつたことの有無

三 個別信用購入あつせんに係る契約を締結しようとする販売業者又は役員提供事業者が法人である場合にあつては、当該法人の役員のうち次のいずれかに該当する者の有無

イ 第一号の期間内に特定商取引に関する法律の規定による処分を受けたことのある者の有無

ロ 第一号の期間内に特定商取引に関する法律の規定による処分を受けたことのある法人の役員であつた者

9 前條第一号チに掲げる事項については、認定割賦販売協会その他の特定取引に関する苦情の処理の業務を行う者の保有する情報を調査しなければならない。

10 前條第二号に掲げる事項に係る調査は、特定契約であつて個別信用購入あつせん関係販売等契約に該当するものに係る個別信用購入あつせん関係受領契約の申込みを受けた後、相当な期間をおいて、電話その他の方法により当該申込みをした者に対して行わなければならない。

11 前條第二号イに掲げる事項は、次に掲げる事項を含むものでなければならない。

一 法第三十五條の三の八又は第三十五條の三の九第一項に規定する書面に記載すべき事項につき告げられた内容が事実であるとの誤認若しくは当該事項に係る事実が存在しないとの誤認又は当該事項につき提供された断定的判断（将来における変動が不確実な事項につき提供された断定的判断に限る。）の内容が確実であるとの誤認の有無

二 特定契約であつて個別信用購入あつせん関係販売等契約に該当するものに係る個別信用

購入あつせん関係受領契約に係る商品の性能、品質、効能若しくは必要数量又は役務若しくは権利に係る役務の効果に係る事項その他当該契約に係る商品若しくは指定権利又は役務に關し将来における変動が不確実な事項（法第三十五條の三の八又は第三十五條の三の九第一項に規定する書面に記載すべき事項を除く。）につき提供された断定的判断の有無

三 特定契約であつて個別信用購入あつせん関係販売等契約に該当するものに係る個別信用購入あつせん関係受領契約に係る商品若しくは指定権利又は役務に付随する商品若しくは権利又は役務その他法第三十五條の三の八又は第三十五條の三の九第一項の書面に記載されていない事項であつて当該申込みをした者の判断に影響を及ぼすこととなる重要なもの（次号において「重要事項」という。）の有無

四 前号の重要事項があるときは、重要事項につき告げられた内容が事実であるとの誤認又は重要事項に係る事実が存在しないとの誤認の有無

五 第一号から前号までに掲げるもののほか、当該個別信用購入あつせん関係販売等契約若しくは当該個別信用購入あつせん関係受領契約に関する事項であつて当該申込みをした者の判断に影響を及ぼすこととなる重要なものにつき告げられた内容が事実であるとの誤認若しくは当該事項に係る事実が存在しないとの誤認の有無又は当該事項につき提供された断定的判断（将来における変動が不確実な事項につき提供された断定的判断に限る。）の内容が確実であるとの誤認の有無

12 前條第二号ロに掲げる事項については、同号ロに規定する行為の有無を調査しなければならない。

第七十七條 個別信用購入あつせん業者は、次の各号に掲げる場合には、第七十五條各号に定める事項のほか、次の各号に掲げる場合の区分に応じ、当該各号に定める事項を調査しなければならない。

一 第七十五條第二号イに掲げる事項の調査により前條第十一項第二号に規定する断定的判断（商品の性能、品質、効能若しくは必要数量又は役務若しくは権利に係る役務の効果に係る事項についての断定的判断に限る。）が提供されたことを知つた場合、当該断定的判

断（商品の性能、品質、効能若しくは必要数量又は役務若しくは権利に係る役務の効果に係る事項についての断定的判断に限る。）が提供されたことを知つた場合、当該断定的判

断（商品の性能、品質、効能若しくは必要数量又は役務若しくは権利に係る役務の効果に係る事項についての断定的判断に限る。）が提供されたことを知つた場合、当該断定的判

断（商品の性能、品質、効能若しくは必要数量又は役務若しくは権利に係る役務の効果に係る事項についての断定的判断に限る。）が提供されたことを知つた場合、当該断定的判

断の提供を行った個別信用購入あつせん関係販売業者又は個別信用購入あつせん関係役員提供事業者の有する当該断定の判断の提供に係る事項の裏付けとなる根拠を示す資料（ただし、既に当該資料を第七十五条第一号ロに掲げる事項の調査（前条第四項第三号に係るものに限る。）により調査した場合にあつては、当該資料を補充する資料）

二 第九十四条第一号の規定により判別した結果その他の事情からみて、個別信用購入あつせん関係販売業者又は個別信用購入あつせん関係役員提供事業者が特定契約に係る個別信用購入あつせん関係販売等契約の申込み又は締結の勧誘をするに際し、法第三十五条の三の七各号のいずれかに該当する行為をしたと認める場合、次に掲げる事項

イ 当該行為の内容
ロ 当該個別信用購入あつせん関係販売業者又は当該個別信用購入あつせん関係役員提供事業者に関する第七十五条第一号トに掲げる事項

ハ その他当該苦情の内容に応じ、当該苦情に係る法第三十五条の三の七各号に掲げる行為の防止のために必要な事項

三 第九十四条第一号の規定により判別した結果又は認定割賦販売協会の保有する情報の確認その他の方法により知った事項に基づき、購入者等からの苦情（法第三十五条の三の十二第一項に規定する申込みの撤回等若しくは法第三十五条の三の十三第一項、第三十五条の三の十四第一項、第三十五条の三の十五第一項若しくは第三十五条の三の十六第一項の規定による個別信用購入あつせん関係受領契約の申込み若しくはその承諾の意思表示の取消しの申込み又は法第三十五条の三の十九第一項の規定による対抗を含む。）以下この条及び第九十四条において同じ。）であつて当該苦情の内容が個別信用購入あつせん関係販売業者又は個別信用購入あつせん関係役員提供事業者による特定契約に係る個別信用購入あつせん関係販売等契約の申込み又は締結の勧誘に係る行為に起因するもの（苦情の内容が前号の行為に起因するものである苦情を除く。）以下この号において「特定契約関係苦情」という。）の発生状況及び当該個別信用購入あつせん業者と個別信用購入あつせんに係る契約を締結した販売業者又は役員提供事業者

（当該個別信用購入あつせん関係販売業者又は当該個別信用購入あつせん関係役員提供事業者を除く。以下この号及び第九十四条第三号において「他の個別信用購入あつせん関係販売業者等」という。）による特定契約関係苦情の発生状況からみて、当該個別信用購入あつせん関係販売業者又は当該個別信用購入あつせん関係役員提供事業者が当該他の個別信用購入あつせん販売業者等と比し、購入者の利益の保護に欠けると認められる場合、前号に定める事項

第九十四条第一号の規定により判別した結果、同号の苦情の内容が、個別信用購入あつせん関係販売業者又は個別信用購入あつせん関係役員提供事業者による特定契約に係る個別信用購入あつせん関係販売等契約の申込み又は締結の勧誘に係る行為に起因するものと認められる場合であつて、当該個別信用購入あつせん関係販売業者又は当該個別信用購入あつせん関係役員提供事業者に対して第七十五条第一号に定める事項の調査をしていなかったときは、前項の規定にかかわらず、遅滞なく、当該調査をしなければならない。

（個別信用購入あつせん関係販売等契約等の勧誘に係る調査に関する記録の作成等）

第七十八条 法第三十五条の三の五第二項の規定により、次の各号に掲げる調査の区分に応じ、当該各号に定める事項の記録を、書面又は電磁的方法をもつて作成し、作成後五年間保存しなければならない。ただし、第一号に定める事項の記録については、個別信用購入あつせんに係る契約を締結した場合に限る。

- 一 第七十五条第一号に定める事項の調査に掲げる事項
- イ 調査年月日
- ロ 当該調査の結果（当該調査に関して取得した書面その他の資料がある場合にあつては、当該資料を含む。）
- ハ 当該調査に係る個別信用購入あつせん関係販売業者又は個別信用購入あつせん関係役員提供事業者と個別信用購入あつせんに係る契約を締結した場合には、当該契約の締結の年月日
- 二 第七十五条第二号に定める事項の調査に掲げる事項
- イ 前号イ及びロに掲げる事項
- ロ 当該調査に係る個別信用購入あつせん関係受領契約を締結した場合には、当該契約の締結の年月日

三 前条の規定による調査 第一号イ及びロに掲げる事項
（個別信用購入あつせん関係販売業者等による書面の交付）

第七十九条 法第三十五条の三の八第九号の経済産業省令・内閣府令で定める事項は、次のとおりとする。

- 一 個別信用購入あつせん関係販売業者又は個別信用購入あつせん関係役員提供事業者及び個別信用購入あつせん業者の名称、住所及び電話番号
- 二 個別信用購入あつせん関係販売等契約及び個別信用購入あつせん関係販売等契約に係る個別信用購入あつせん関係受領契約の締結の年月日
- 三 商品若しくは権利又は役務の種類
- 四 商品の数量（権利又は役務の場合にあつては、契約上権利を行使し得る回数若しくは期間又は役務の提供を受けることができる回数若しくは期間）
- 五 頭金の額
- 六 個別信用購入あつせん関係販売等契約が連鎖販売個人契約であるときは、当該連鎖販売取引に伴う特定負担（特定商取引に関する法律第三十三条第一項に規定する特定負担をいう。次条第五号の表第一号上欄、第八十一条第六号、第八十二条第四号の表第一号上欄、第八十三条第六号及び第八十四条第四号の表第一号上欄において同じ。）及び特定利益に関する事項
- 七 個別信用購入あつせん関係販売等契約が業務提供誘引販売個人契約であるときは、当該業務提供誘引取引に伴う特定負担（特定商取引に関する法律第五十一条第一項に規定する特定負担をいう。次条第五号の表第三号上欄、第八十一条第七号、第八十二条第四号の表第三号上欄、第八十三条第七号及び第八十四条第四号の表第三号上欄において同じ。）
- 八 支払分の支払回数
- 九 個別信用購入あつせん関係販売等契約及び個別信用購入あつせん関係販売等契約に係る個別信用購入あつせん関係受領契約について購入者等が問合わせ、相談等を行うことができる機関の名称及び住所又は電話番号

第十 法第三十五条の三の十九の規定に関する事項

十一 支払時期の到来していない支払分の支払を請求することについての定めがあるときは、その内容

十二 支払分の支払の義務が履行されない場合（個別信用購入あつせん関係受領契約が解除された場合を除く。）の損害賠償額の予定又は違約金の定めがあるときは、その内容

十三 役務の提供が商品又は指定権利の販売の条件となつていないときは、当該役務の内容、提供時期その他当該役務に関する事項

十四 商品の販売が指定権利の販売又は役務の提供の条件となつていないときは、当該商品の内容、引渡し時期その他当該商品に関する事項

十五 権利の販売が商品の販売又は役務の提供の条件となつていないときは、当該権利の内容、移転時期その他当該権利に関する事項

十六 商品が種類又は品質に関して契約の内容に適合しない場合の責任についての定めがあるときは、その内容

十七 前各号に掲げるもののほか特約があるときは、その内容

十八 個別信用購入あつせん関係販売等契約が連鎖販売個人契約又は業務提供誘引販売個人契約であるときは、その旨

第八十条 法第三十五条の三の八各号又は法第三十五条の三の九第五項第一号若しくは第四項第一号の規定により法第三十五条の三の八第五号若しくは第七号に掲げる事項を記載した書面を交付するときは、次の各号に定めるところによらなければならない。

- 一 購入者等が読みやすく、理解しやすいような用語により、正確に記載すること。
- 二 法第三十五条の三の八第五号に規定する基本的な事項の内容は、次のとおりとする。
- イ 商品又は権利の再販売については、購入する商品又は権利の引渡し又は移転の方法その他商品又は権利の再販売についての条件のあるときは、その内容
- ロ 商品又は権利の受託販売については、委託を受けて販売する商品又は権利の引渡し又は移転の方法、受け取った代金の引渡しの時期及び方法その他商品又は権利の受託販売についての条件のあるときは、その内容
- ハ 同種役務の提供について、条件のあるときは、その内容

三 法第三十五条の三の八第七号に規定する基本的な事項の内容は、次のとおりとする。
 イ 提供し、又はあつせんする業務の内容
 ロ 一週間、一月間その他の一定の期間内に提供し、又はあつせんする業務の回数又は時間その他の提供し、又はあつせんする業務の量
 ハ 一回当たり又は一時間当たりの業務に対する報酬の単価その他の報酬の単価が定められている場合には、その単価
 ニ ロ及びハにより定められるもののその他の業務提供利益の計算の方法
 ホ ニに掲げるもののほか、業務提供利益の全部又は一部が支払われないこととなる場合があるときは、その条件

ヘ ニ及びホに掲げるもののほか、業務提供利益の支払の時期及び方法その他の業務提供利益の支払の条件
 法第三十五条の三の八第八号に掲げる事項については、その内容が次の基準に合致していること。
 イ 個別信用購入あつせん関係販売等契約について、購入者等からの契約の解除ができない旨が定められていないこと。
 ロ 個別信用購入あつせん関係販売等契約の締結の前に個別信用購入あつせん関係販売業者又は個別信用購入あつせん関係業務提供事業者が見本、カタログ等により購入者等に対し提示した当該契約の内容と当該購入者等が受領した商品若しくは権利又は提供を受ける役割が相違している場合には、購入者等は、当該契約の解除をすることができない旨が定められていること。

ハ 購入者等が法第三十五条の三の十第一項第四号から第六号までに定める契約の相手方である場合には同条第五項本文の規定により個別信用購入あつせん関係販売等契約が解除されたものとみなされることを赤枠の中に赤字で記載すること。
 ニ 購入者等が法第三十五条の三の十一第一項に規定する契約の相手方である場合には同条第七項本文の規定により個別信用購入あつせん関係販売等契約が解除されたものとみなされることを赤枠の中に赤字で記載すること。
 ホ 個別信用購入あつせん関係販売業者若しくは個別信用購入あつせん関係業務提供事業者又は個別信用購入あつせん業者の責に帰すべき事由により個別信用購入あつせん関係販売等契約が解除された場合における個別信用購入あつせん関係業務提供事業者又は個別信用購入あつせん業者の義務に關し、民法第五百四十五条に規定するものより購入者等に不利な特約が定められていないこと。

五 前条第六号及び第七号に掲げる事項については、次の表の上欄に掲げる事項に應じ、それぞれ同表の下欄に掲げる内容を記載しなければならぬ。
 一 事項
 二 内容
 イ 商品の購入については、その購入先及び当該商品の引渡しの方法
 ロ 権利の購入については、その購入先及び当該権利の移転の方法
 ハ 役務の提供の方法
 ニ 取引料の提供については、その提供先、金額、性格並びに提供の時期及び方法
 ホ 取引料のうち返還されるものがあるときは、その返還の条件

六 前条第十号に掲げる事項については、その内容を、商品若しくは指定権利の販売につきそれを販売した個別信用購入あつせん関係販売業者又は役務の提供につきそれを提供する個別信用購入あつせん関係業務提供事業者に対して生じている事由をもつて、支払分の支払の請求をする個別信用購入あつせん業者に対抗できる旨が定められていること。
 七 前条第十一号、第十二号、第十六号及び第十七号に掲げる事項のうち次の表の上欄に掲げる事項についての定めがあるときは、その内容がそれぞれ同表の下欄の基準に合致していること。

三 事項
 一 商品の購入については、その購入先及び当該商品の引渡しの方法
 二 権利の購入については、その購入先及び当該権利の移転の方法
 三 役務の提供の方法
 四 取引料の提供については、その提供先、金額、性格並びに提供の時期及び方法
 五 取引料のうち返還されるものがあるときは、その返還の条件

四 前条第十一号、第十二号、第十六号及び第十七号に掲げる事項のうち次の表の上欄に掲げる事項についての定めがあるときは、その内容がそれぞれ同表の下欄の基準に合致していること。
 一 支払時期の到来していない支払分の支払の請求に関する事項
 二 内容の基準
 イ 購入者等の支払義務の不履行により支払時期の到来していない支払分の支払を請求することができるときは、個別信用購入あつせん業者が定める一定期間にわたり義務の不履行があつた場合であつて、個別信用購入あつせん業者が二十日以上その相対期間を定めてその支払を書面催告し、その期間内にその義務が履行されない場合に限り旨が定められていること。
 ロ 購入者等の支払義務の不履行以外の事由により支払時期の到来し

ていない支払分の支払を請求することができない場合として、購入者等の信用が著しく悪化した場合又は重要な契約条項違反があつた場合以外の場合が定められていないこと。
 支払分の支払の義務が履行されない場合（個別信用購入あつせん関係受領契約が解除された場合を除く。）の損害賠償額の予定又は違約金の定めが法第三十五条の三の十八第二項の規定に合致していること。
 二 支払分の支払の義務が履行されない場合（個別信用購入あつせん関係受領契約が解除された場合を除く。）の損害賠償額の予定又は違約金の定めが法第三十五条の三の十八第二項の規定に合致していること。
 三 商品が種類又は品質に關して契約の内容に適合しない場合に個別信用購入あつせん関係販売業者がその不適合（道路運送車両法の規定による臨時運行以外の運行の用に供された旨が明示されている自動車に係るものであつて、当該運行の用に供されたことにより通常生ずるものを除く。）について責任を負わない旨が定められていないこと。
 四 前条第十一号、第十二号及び第十六号に掲げるものの以外のの特約
 八 日本産業規格Z八三〇五に規定する八ポイント以上の大きさの文字及び数字を用いること。

事項	内容
一 該連鎖取引に關する事項	イ 商品の購入については、その購入先及び当該商品の引渡しの方法 ロ 権利の購入については、その購入先及び当該権利の移転の方法 ハ 役務の提供の方法 ニ 取引料の提供については、その提供先、金額、性格並びに提供の時期及び方法 ホ 取引料のうち返還されるものがあるときは、その返還の条件
二 特定利益に関する事項	イ 商品若しくは権利の再販売、受託販売若しくは販売のあつせんをする他の者に対する商品若しくは権利の現金販売価格又は同種役務の提供若しくは役務の提供のあつせんをする他の者に対する役務の現金提供価格の支払の金額に對して收受し得る特定利益の金額の割合その他の特定利益の計算の方法 ロ イに掲げるもののほか、特定利益の全部又は一部が支払われないこととなる場合があるときは、その条件 ハ イ及びロに掲げるもののほか、特定利益の支払の時期及び方法その他の特定利益の支払の条件

事項	内容の基準
一 支払時期の到来していない支払分の支払の請求に関する事項	イ 購入者等の支払義務の不履行により支払時期の到来していない支払分の支払を請求することができるときは、個別信用購入あつせん業者が定める一定期間にわたり義務の不履行があつた場合であつて、個別信用購入あつせん業者が二十日以上その相対期間を定めてその支払を書面催告し、その期間内にその義務が履行されない場合に限り旨が定められていること。 ロ 購入者等の支払義務の不履行以外の事由により支払時期の到来し

事項	内容の基準
一 支払分の支払の義務が履行されない場合（個別信用購入あつせん関係受領契約が解除された場合を除く。）の損害賠償額の予定又は違約金の定めが法第三十五条の三の十八第二項の規定に合致していること。	支払分の支払の義務が履行されない場合（個別信用購入あつせん関係受領契約が解除された場合を除く。）の損害賠償額の予定又は違約金の定めが法第三十五条の三の十八第二項の規定に合致していること。
二 支払分の支払の義務が履行されない場合（個別信用購入あつせん関係受領契約が解除された場合を除く。）の損害賠償額の予定又は違約金の定めが法第三十五条の三の十八第二項の規定に合致していること。	支払分の支払の義務が履行されない場合（個別信用購入あつせん関係受領契約が解除された場合を除く。）の損害賠償額の予定又は違約金の定めが法第三十五条の三の十八第二項の規定に合致していること。
三 商品が種類又は品質に關して契約の内容に適合しない場合に個別信用購入あつせん関係販売業者がその不適合（道路運送車両法の規定による臨時運行以外の運行の用に供された旨が明示されている自動車に係るものであつて、当該運行の用に供されたことにより通常生ずるものを除く。）について責任を負わない旨が定められていないこと。	商品が種類又は品質に關して契約の内容に適合しない場合に個別信用購入あつせん関係販売業者がその不適合（道路運送車両法の規定による臨時運行以外の運行の用に供された旨が明示されている自動車に係るものであつて、当該運行の用に供されたことにより通常生ずるものを除く。）について責任を負わない旨が定められていないこと。
四 前条第十一号、第十二号及び第十六号に掲げるものの以外のの特約	法令に違反する特約が定められていないこと。
八 日本産業規格Z八三〇五に規定する八ポイント以上の大きさの文字及び数字を用いること。	

（個別信用購入あつせん業者による書面の交付）
第八十一条 法第三十五条の三の九第二項第四号の経済産業省令・内閣府令で定める事項は、次のとおりとする。

一 個別信用購入あつせん関係販売業者又は個別信用購入あつせん関係受領契約の申込書の年月日

二 個別信用購入あつせん関係受領契約の申込書の年月日

三 商品若しくは権利又は役務の種類

四 商品の数量（権利又は役務の場合にあつては、契約上権利を行使し得る回数若しくは期間又は役務の提供を受けることができる回数若しくは期間）

五 頭金の額

六 個別信用購入あつせん関係販売等契約が特定連鎖販売個人契約であるときは、当該連鎖販売取引に伴う特定負担及び特定利益に関する事項

七 個別信用購入あつせん関係販売等契約が業務提供誘引販売個人契約であるときは、当該業務提供誘引取引に伴う特定負担に関する事項

八 支払分の支払回数

九 個別信用購入あつせん関係販売等契約及び個別信用購入あつせん関係受領契約に係る購入者等が問合わせ、相談等を行うことができる機関の名称及び住所又は電話番号

十 法第三十五条の三の十九の規定に関する事項

十一 支払時期の到来していない支払分の支払を請求することについての定めがあるときは、その内容

第八十二条 法第三十五条の三の九第二項各号に掲げる事項を記載した書面を交付するときは、次の各号に定めるところによらなければならない。

一 購入者等が読みやすく、理解しやすいような用語により、正確に記載すること。

二 法第三十五条の三の九第二項第二号に掲げる事項については、その内容が次の基準に合致していること。

イ 個別信用購入あつせん関係販売等契約に係る個別信用購入あつせん関係受領契約について、購入者等からの契約の解除ができない旨が定められていないこと。

ロ 購入者等が法第三十五条の三の十第一項第一号から第三号までに定める契約の申込みをした者である場合には同条第五項本文の規定により個別信用購入あつせん関係販売等契約の申込みが撤回されたものとみなされることを赤枠の中に赤字で記載すること。

ハ 購入者等が法第三十五条の三の十一第一項に規定する契約の申込みをした者である場合には同条第七項本文の規定により個別信用購入あつせん関係販売等契約の申込みが撤回されたものとみなされることを赤枠の中に赤字で記載すること。

ニ 購入者等の支払義務の不履行により個別信用購入あつせん関係受領契約を解除することができる場合は、個別信用購入あつせん業者が定める一定期間にわたり義務の不履行があつた場合であつて、個別信用購入あつせん業者が二十日以上相当期間を定めてその支払を書面で催告し、その期間内にその義務が履行されない場合に限り旨が定められていること。

ホ 購入者等の責に帰すべき事由により個別信用購入あつせん関係受領契約が解除された場合の損害賠償等の額についての定めが法第三十五条の三の十八第一項の規定に合致していること。

ヘ 個別信用購入あつせん関係販売業者若しくは個別信用購入あつせん関係受領契約の業者又は個別信用購入あつせん業者の責に帰すべき事由により個別信用購入あつせん関係販売等契約に係る個別信用購入あつせん関係受領契約が解除された場合における個別信用購入あつせん関係販売業者若しくは個別信用購入あつせん業者の義務者又は個別信用購入あつせん業者の義務者より購入者等に不利な特約が定められていないこと。

三 法第三十五条の三の九第二項第三号に掲げる事項については、第七十五条第二号に定める事項のみを交付することをもって足りる。

四 前条第六号及び第七号に掲げる事項については、次の表の上欄に掲げる事項に応じ、それぞれ同表の下欄に掲げる内容を記載しなければならない。

事項	内容
一 該連鎖販売取引に当該引当金の取戻の方法	イ 商品の購入については、その購入先及び当該商品の引渡しの方法 ロ 権利の購入については、その購入先及び当該権利の移転の方法 ハ 役務の提供の方法 ニ 取引料の提供については、その提供先、金額、性格並びに提供の時期及び方法 ホ 取引料のうち返還されるものがあるときは、その返還の条件
二 特定利益に関する事項	イ 商品若しくは権利の再販売、受託販売若しくは販売のあつせんをする他の者に対する商品若しくは権利の現金販売価格又は同種役務の提供若しくは役務の提供のあつせんをする他の者に対する役務の現金提供価格の支払の金額に對して收受し得る特定利益の割合その他の特定利益の計算の方法 ロ イに掲げるもののほか、特定利益の全部又は一部が支払われないこととなる場合があるときは、その条件 ハ イ及びロに掲げるもののほか、特定利益の支払の時期及び方法その他の特定利益の支払の条件
三 該引当金の取戻の方法	イ 商品の購入については、その購入先及び当該商品の引渡しの方法 ロ 権利の購入については、その購入先及び当該権利の移転の方法 ハ 役務の提供の方法

五 前条第十号に掲げる事項については、その内容に、商品若しくは指定権利の販売につきそれを販売した個別信用購入あつせん関係販売業者又は役務の提供につきそれを提供する個別信用購入あつせん関係受領契約の申込書の年月日、支払分の支払の請求をする個別信用購入あつせん業者に對抗できる旨が定められていること。

事項	内容の基準
一 支払時期の到来していない支払の請求に関する事項	イ 購入者等の支払義務の不履行により支払時期の到来していない支払分の支払を請求することができる場合は、個別信用購入あつせん業者が定める一定期間にわたり義務の不履行があつた場合であつて、個別信用購入あつせん業者が二十日以上相当期間を定めてその支払を書面で催告し、その期間内にその義務が履行されない場合に限り旨が定められていること。 ロ 購入者等の支払義務の不履行以外の事由により支払時期の到来していない支払分の支払を請求することができる場合として、購入者等の信用が著しく悪化した場合又は重要な契約条項違反があつた場
二 取引料の提供については、その提供先、金額、性格並びに提供の時期及び方法	ホ 取引料のうち返還されるものがあるときは、その返還の条件

<p>二 支払分の支払の義務が履行され、支払の義務が履行されない場合（個別信用購入あつせん関係受領契約が解除された場合を除く。）の損害賠償額又は違約金に関する事項</p> <p>三 前条第十二号に掲げるもの以外の特約</p>	<p>合以外の場合が定められていないこと。</p> <p>支払分の支払の義務が履行され、支払の義務が履行されない場合（個別信用購入あつせん関係受領契約が解除された場合を除く。）の損害賠償額の予定又は違約金の定めが法第三十五条の三の第十八第二項の規定に合致していること。</p> <p>法令に違反する特約が定められていないこと。</p>
--	---

七 日本産業規格Z八三〇五に規定する八ポイント以上の大きさの文字及び数字を用いること。

第八十三条 法第三十五条の三の九第四項第四号のとおりとする。

一 個別信用購入あつせん関係販売業者又は個別信用購入あつせん関係受領契約が解除された場合、住所及び電話番号

二 個別信用購入あつせん関係販売等契約に係る個別信用購入あつせん関係受領契約の締結の年月日

三 商品若しくは権利又は役務の種類

四 商品の数量（権利又は役務の場合にあつては、契約上権利を行使し得る回数若しくは期間又は役務の提供を受けることができる回数若しくは期間）

五 頭金の額

六 個別信用購入あつせん関係販売等契約が特定連鎖販売個人契約であるときは、当該連鎖販売取引に伴う特定負担及び特定利益に関する事項

七 個別信用購入あつせん関係販売等契約が業務提供誘引販売個人契約であるときは、当該業務提供誘引取引に伴う特定負担に関する事項

八 支払分の支払回数

九 個別信用購入あつせん関係販売等契約及び個別信用購入あつせん関係受領契約に係る個別信用購入あつせん関係受領契約について購入者等が問合わせ、相談等を行うことができる機関の名称及び住所又は電話番号

十 法第三十五条の三の十九の規定に関する事項

十一 支払時期の到来していない支払分の支払を請求することについての定めがあるときは、その内容

十二 支払分の支払の義務が履行されない場合（個別信用購入あつせん関係受領契約が解除された場合を除く。）の損害賠償額の予定又は違約金の定めがあるときは、その内容

十三 前各号に掲げるもののほか特約があるときは、その内容

第八十四条 法第三十五条の三の九第四項各号に掲げる事項を記載した書面を交付するときは、次の各号に定めるところによらなければならない。

一 購入者等が読みやすく、理解しやすいうような用語により、正確に記載すること。

二 法第三十五条の三の九第四項第二号に掲げる事項については、その内容が次の基準に合致していること。

イ 個別信用購入あつせん関係販売等契約に係る個別信用購入あつせん関係受領契約について、購入者等からの契約の解除ができない旨が定められていないこと。

ロ 購入者等が法第三十五条の三の第十第一項第四号から第六号までに定める契約の相手方である場合には同条第五項本文の規定により個別信用購入あつせん関係販売等契約が解除されたものとみなされることを赤枠の中に赤字で記載すること。

ハ 購入者等が法第三十五条の三の第十一第一項に規定する契約の相手方である場合には同条第七項本文の規定により個別信用購入あつせん関係販売等契約が解除されたものとみなされることを赤枠の中に赤字で記載すること。

ニ 購入者等の支払義務の不履行により個別信用購入あつせん関係受領契約を解除することができる場合は、個別信用購入あつせん業者が定める一定期間にわたり義務の不履行があつた場合であつて、個別信用購入

<p>二 特定事項</p> <p>イ 商品若しくは権利の再販売、受託販売若しくは販売の</p>	<p>あつせん業者が二十日以上相当な期間を定め、その支払を書面で催告し、その期間内にその義務が履行されない場合に限り旨が定められていること。</p> <p>ホ 購入者等の責に帰すべき事由により個別信用購入あつせん関係受領契約が解除された場合の損害賠償等の額についての定めが法第三十五条の三の第十八第一項の規定に合致していること。</p> <p>ヘ 個別信用購入あつせん関係販売業者若しくは個別信用購入あつせん関係受領契約が解除された場合の損害賠償等の額についての定めが法第三十五条の三の第十八第一項の規定に合致していること。</p> <p>ハ 個別信用購入あつせん関係販売業者若しくは個別信用購入あつせん関係受領契約が解除された場合の損害賠償等の額についての定めが法第三十五条の三の第十八第一項の規定に合致していること。</p> <p>三 法第三十五条の三の九第四項第三号に掲げる事項については、法第三十五条の三の第五項の規定による調査の結果であつて第七十五号第二号に係るもののみを交付することをもつて足りる。</p> <p>四 前条第六号及び第七号に掲げる事項については、次の表の上欄に掲げる事項に並び、それぞれ同表の下欄に掲げる内容を記載しなければならない。</p>
---	---

<p>二 特定事項</p> <p>イ 商品若しくは権利の再販売、受託販売若しくは販売の</p>	<p>あつせんをする他の者に対する商品若しくは権利の現金販売価格又は同種役務の提供若しくは役務の提供のあつせんをする他の者に対する役務の現金提供価格の支払の金額に對して收受し得る特定利益の金額の割合その他の特定利益の計算の方法</p> <p>ロ イに掲げるもののほか、特定利益の全部又は一部が支払われないこととなる場合があるときは、その条件</p> <p>ハ イ及びロに掲げるもののほか、特定利益の支払の時期及び方法その他の特定利益の支払の条件</p> <p>三 該業務提供誘引の引取に伴う引取の方法</p> <p>イ 商品の購入については、その購入先及び当該商品の引渡しの方法</p> <p>ロ 権利の購入については、その購入先及び当該権利の引渡しの方法</p> <p>ハ 役務の提供の方法</p> <p>ニ 取引料の提供については、その提供先、金額、性格並びに提供の時期及び方法</p> <p>ホ 取引料のうち返還されるものがあるときは、その返還の条件</p> <p>五 前条第十号に掲げる事項については、その内容に、商品若しくは指定権利の販売につきそれを販売した個別信用購入あつせん関係販売業者又は役務の提供につきそれを提供する個別信用購入あつせん関係受領契約が解除されたこと、当該個別信用購入あつせん業者がその解除の請求をする個別信用購入あつせん業者に對抗できる旨が定められていること。</p> <p>六 前条第十一号から第十三号までに掲げる事項のうち次の表の上欄に掲げる事項についての定めがあるときは、その内容がそれぞれ同表の下欄の基準に合致していること。</p>
---	---

<p>分の支払の請求に関する事項</p>	<p>二 支払分の支払の義務が履行されない場合（個別信用購入あつせん関係受領契約が解除された場合を除く。）の損害賠償額又は違約金に関する事項</p>	<p>三 前条第十二号に掲げるもの以外の特約</p>	<p>二 支払分の支払の義務が履行されない場合（個別信用購入あつせん関係受領契約が解除された場合を除く。）の損害賠償額又は違約金に関する事項</p>	<p>分の支払の請求に関する事項</p>	<p>払分の支払を請求することができる場合は、個別信用購入あつせん業者が定める一定期間にわたり義務の不履行があつた場合であつて、個別信用購入あつせん業者が二十日以上上の相当な期間を定めてその支払を書面で催告し、その期間内にその義務が履行されない場合に限り旨が定められていること。</p>
----------------------	--	----------------------------	--	----------------------	---

- 七 日本産業規格 Z 八三〇五に規定する八ポイント以上の大きさの文字及び数字を用いること。
- 八 個別信用購入あつせん関係受領契約の申込みの撤回等の妨害後の書面の交付）
- 第八十五条 法第三十五条の三の十第一項の規定により交付する書面には、次に掲げる事項を記載しなければならない。
 - 一 法第三十五条の三の十第一項の規定に基づき、当該書面を受領した日から起算して八日を経過するまでは、書面により訪問販売等契約（法第三十五条の三の九第一項第一号から第三号までのいずれか又は第三項第一号から第三号までのいずれかに掲げる個別信用購入あつせん関係販売等契約をいう。以下この号、第五号及び第六号において同じ。）に係る個別信用購入あつせん関係受領契約の申込みの撤回又は訪問販売等契約に係る個別信用購入あつせん関係受領契約の解除を行うことができること。
 - 二 法第三十五条の三の十第二項、第三項、第五項から第七項まで、第九項から第十一項まで、第十三項及び第十四項の規定に関する事項（法第三十五条の三の九第一項第一号若しくは第二号又は第三項第一号若しくは第二号に掲げる個別信用購入あつせん関係販売等契約に係る個別信用購入あつせん関係受領契約に係るものに限る。）
 - 三 法第三十五条の三の十第二項、第三項、第五項から第七項まで、第九項、第十項及び第十二項から第十四項までの規定に関する事項（法第三十五条の三の九第一項第三号又は第三項第三号に掲げる個別信用購入あつせん関係販売等契約に係る個別信用購入あつせん関係受領契約に係るものに限る。）
 - 四 個別信用購入あつせん関係販売業者又は個別信用購入あつせん関係提供事業者及び個別信用購入あつせん業者の名称、住所及び電話番号
 - 五 訪問販売等契約に係る個別信用購入あつせん関係受領契約の申込み又は締結の年月日
 - 六 訪問販売等契約に係る個別信用購入あつせん関係受領契約の内容
- 九 書面には日本産業規格 Z 八三〇五に規定する八ポイント以上の大きさの文字及び数字を用いなければならない。
- 十 書面に記載するに際し、第一項第一号及び第二号又は第三号に掲げる事項の内容については赤枠の中に赤字で記載しなければならない。

- 四 個別信用購入あつせん関係販売業者若しくは個別信用購入あつせん関係提供事業者又は第三の十第一項の規定により交付する書面を申込者等（同項に規定する申込者等をいう。以下この項において同じ。）に交付した際には、直ちに申込者等が当該書面を見ていることを確認した上で、第一項第一号及び第二号又は第三号に掲げる事項の内容について申込者等に告げなければならない。
- 第八十六条 法第三十五条の三の十一第一項第一号の規定により交付する書面には、次に掲げる事項を記載しなければならない。
 - 一 法第三十五条の三の十一第一項第一号の規定に基づき、当該書面を受領した日から起算して二十日を経過するまでは、書面により特定連鎖販売個人契約であつて個別信用購入あつせん関係販売等契約に該当するものに係る個別信用購入あつせん関係受領契約の申込みの撤回又は特定連鎖販売個人契約であつて個別信用購入あつせん関係販売等契約に該当するものに係る個別信用購入あつせん関係受領契約の解除を行うことができること。
 - 二 法第三十五条の三の十一第一項第二項、第四項、第五項、第七項から第九項まで、第十項及び第十二項の規定に関する事項
 - 三 個別信用購入あつせん関係販売業者又は個別信用購入あつせん関係提供事業者及び個別信用購入あつせん業者の名称、住所及び電話番号
 - 四 特定連鎖販売個人契約であつて個別信用購入あつせん関係販売等契約に該当するものに係る個別信用購入あつせん関係受領契約の申込み又は締結の年月日
 - 五 特定連鎖販売個人契約であつて個別信用購入あつせん関係販売等契約に該当するものに係る個別信用購入あつせん関係受領契約の内容
- 二 書面には日本産業規格 Z 八三〇五に規定する八ポイント以上の大きさの文字及び数字を用いなければならない。
- 三 書面に記載するに際し、第一項第一号及び第二号に掲げる事項の内容については赤枠の中に赤字で記載しなければならない。
- 四 個別信用購入あつせん関係販売業者若しくは個別信用購入あつせん関係提供事業者、個別信用購入あつせん業者又は統括者、勧誘者若しくは一般連鎖販売業者は、法第三十五条の三の十一第一項第一号の規定により交付する書面を特定連鎖販売個人契約であつて個別信用購入あつせん関係販売等契約に該当するものに係る個別信用購入あつせん関係受領契約の申込み又は締結の年月日
- 五 特定連鎖的業務提供等契約であつて個別信用購入あつせん関係販売等契約に該当するものに係る個別信用購入あつせん関係受領契約の内容

- 第八十七条 法第三十五条の三の十一第二項第二号の規定により交付する書面には、次に掲げる事項を記載しなければならない。
 - 一 法第三十五条の三の十一第二項第二号の規定に基づき、当該書面を受領した日から起算して八日を経過するまでは、書面により特定継続的業務提供等契約であつて個別信用購入あつせん関係販売等契約に該当するものに係る個別信用購入あつせん関係受領契約の申込みの撤回又は特定継続的業務提供等契約であつて個別信用購入あつせん関係販売等契約に該当するものに係る個別信用購入あつせん関係受領契約の解除を行うことができること。
 - 二 法第三十五条の三の十一第三項から第五項まで、第七項から第九項まで及び第十一項から第十四項までの規定に関する事項
 - 三 個別信用購入あつせん関係販売業者又は個別信用購入あつせん関係提供事業者及び個別信用購入あつせん業者の名称、住所及び電話番号
 - 四 特定継続的業務提供等契約であつて個別信用購入あつせん関係販売等契約に該当するものに係る個別信用購入あつせん関係受領契約の申込み又は締結の年月日
 - 五 特定継続的業務提供等契約であつて個別信用購入あつせん関係販売等契約に該当するものに係る個別信用購入あつせん関係受領契約の内容
- 二 書面には日本産業規格 Z 八三〇五に規定する八ポイント以上の大きさの文字及び数字を用いなければならない。
- 三 書面に記載するに際し、第一項第一号及び第二号に掲げる事項の内容については赤枠の中に赤字で記載しなければならない。
- 四 個別信用購入あつせん関係販売業者若しくは個別信用購入あつせん関係提供事業者又は

個別信用購入あつせん業者は、法第三十五条の三の十一第一項第二号の規定により交付する書面を特定継続的役務提供等契約であつて個別信用購入あつせん関係販売等契約に該当するものに係る個別信用購入あつせん関係受領契約の申込者等に交付した際には、直ちに当該申込者等が当該書面を見ていることを確認した上で、第一項第一号及び第二号に掲げる事項の内容について当該申込者等に告げなければならない。

第八十八条 法第三十五条の三の十一第一項第三号の規定により交付する書面には、次に掲げる事項を記載しなければならない。

一 法第三十五条の三の十一第一項第三号の規定に基づき、当該書面を受領した日から起算して二十日を経過するまでは、書面により業務提供誘引販売個人契約であつて個別信用購入あつせん関係販売等契約に該当するものに係る個別信用購入あつせん関係受領契約の申込みの撤回又は業務提供誘引販売個人契約であつて個別信用購入あつせん関係販売等契約に該当するものに係る個別信用購入あつせん関係受領契約の解除を行うことができること。

二 法第三十五条の三の十一第四項、第五項、第七項から第九項まで、第十一項及び第十二項の規定に関する事項

三 個別信用購入あつせん関係販売業者又は個別信用購入あつせん関係役務提供事業者及び個別信用購入あつせん業者の名称、住所及び電話番号

四 業務提供誘引販売個人契約であつて個別信用購入あつせん関係販売等契約に該当するものに係る個別信用購入あつせん関係受領契約の申込み又は締結の年月日

五 業務提供誘引販売個人契約であつて個別信用購入あつせん関係販売等契約に該当するものに係る個別信用購入あつせん関係受領契約の内容

書面には日本産業規格Z八三〇五に規定する八ポイント以上の大きさの文字及び数字を用いなければならない。

書面に記載するに際し、第一項第一号及び第二号に掲げる事項の内容については赤枠の中に赤字で記載しなければならない。

個別信用購入あつせん関係販売業者若しくは個別信用購入あつせん関係役務提供事業者又は個別信用購入あつせん業者は、法第三十五条の

三の十一第一項第三号の規定により交付する書面を業務提供誘引販売個人契約であつて個別信用購入あつせん関係販売等契約に該当するものに係る個別信用購入あつせん関係受領契約の申込者等に交付した際には、直ちに当該申込者等が当該書面を見ていることを確認した上で、第一項第一号及び第二号に掲げる事項の内容について当該申込者等に告げなければならない。

(業務の運営に関する措置)

第八十九条 個別信用購入あつせん業者は、法第三十五条の三の二十の規定によりその取り扱う購入者等に関する情報の安全管理、従業者の監督及び当該情報の取扱いを委託する場合には、その委託先の監督について、当該情報の漏えい、滅失又はき損の防止を図るために必要かつ適切な措置を講じなければならない。

第九十条 個別信用購入あつせん業者は、法第三十五条の三の二十の規定により特定信用情報提供等業務を行う者から提供を受けた情報であつて購入者等の支払能力に関するものを、支払能力調査以外の目的に使用しないことを確保するための措置を講じなければならない。

第九十一条 個別信用購入あつせん業者は、法第三十五条の三の二十の規定によりその取り扱う購入者等に関する人種、信条、門地、本籍地、保健医療又は犯罪経歴についての情報その他の特別の非公開情報を、適切な業務の運営の確保その他必要と認められる目的以外に使用しないことを確保するための措置を講じなければならない。

第九十二条 個別信用購入あつせん業者は、法第三十五条の三の二十の規定により個別信用購入あつせん業者の業務を第三者に委託する場合には、当該業務の内容に応じ、次に掲げる措置を講じなければならない。

一 当該業務を適確に遂行することができる能力を有する者に委託するための措置

二 受託者における当該業務の実施状況を、定期的に又は必要に応じて確認すること等により、受託者が当該業務を適確に遂行しているかを検証し、必要に応じて改善させる等、受託者に対する必要かつ適切な監督等を行うための措置

三 受託者が行う当該業務に係る購入者等からの苦情の適切かつ迅速な処理のために必要な措置

四 受託者が当該業務を適切に行うことができない事態が生じた場合に他の適切な第三者に

当該業務を速やかに委託する等、当該業務に係る購入者等の利益の保護に支障が生じることを防止するための措置

五 受託者が当該業務を適確に遂行していない場合であつて当該業務に係る購入者等の利益の保護を図る必要がある場合には、当該業務の委託に係る契約の変更又は解除をする等の必要な措置を講ずるための措置

第九十三条 個別信用購入あつせん業者は、法第三十五条の三の二十の規定により法第三十五条の三の九第一項第一号、第二号若しくは第三号又は第三項第一号、第二号若しくは第三号に掲げる個別信用購入あつせん関係販売等契約に係る個別信用購入あつせん関係受領契約を締結しようとする場合において、法第三十五条の三の五第一項の規定による調査その他の方法により知つた事項からみて、当該個別信用購入あつせん関係販売等契約が特定商取引に関する法律第九条の二第一項各号又は第二十四条の二第一項各号に掲げる契約に該当するおそれがあると認めるときは、当該個別信用購入あつせん関係販売等契約に係る個別信用購入あつせん関係受領契約を締結してはならない。ただし、当該購入者等が当該個別信用購入あつせん関係販売等契約の締結を必要とする特別の事情があることを確認したときは、この限りでない。

第九十四条 個別信用購入あつせん業者は、法第三十五条の三の二十の規定により購入者等からの苦情の適切かつ迅速な処理のために必要な措置を講じるときは、次の各号に定めるところによりなければならない。

一 購入者等からの苦情を受け付けたときは、遅滞なく、当該苦情の内容が個別信用購入あつせん業者又は個別信用購入あつせん関係販売業者若しくは個別信用購入あつせん関係役務提供事業者による個別信用購入あつせんに係る業務に関する購入者等の利益の保護に欠ける行為に起因するものであるかを判別すること。

二 前号の規定により判別した結果又は認定割賦販売協会の保有する情報の確認その他の方法により知つた事項からみて、次のいずれかに該当するときは、当該苦情の内容に応じ、当該苦情の処理のために必要な事項を調査すること。

個別信用購入あつせん関係販売等契約に關し、法第三十五条の三の七各号のいずれかに該当する行為(第七十七条第一項第二号に掲げる行為を除く。)をしたと認められるとき。

ロ 個別信用購入あつせん関係販売業者又は個別信用購入あつせん関係役務提供事業者による個別信用購入あつせんに係る業務に関する苦情(苦情の内容が第七十七条第一項第二号及びイの行為に起因するものである苦情並びに第七十七条第一項第三号の苦情を除く。以下この号において同じ。)の発生状況及び他の個別信用購入あつせん関係販売業者等による個別信用購入あつせんに係る業務に関する苦情の発生状況からみて、当該個別信用購入あつせん関係販売業者又は当該個別信用購入あつせん関係役務提供事業者が当該他の個別信用購入あつせん関係販売業者等に比し、購入者等の利益の保護に欠けることと認められたるとき。

一 前二号の規定による調査その他の方法により知つた事項からみて、必要があると認めるときは、個別信用購入あつせんに係る業務の改善その他の所要の措置を講じること。

二 購入者等から申出を受けた苦情の内容又は前二号の規定による調査その他の方法により知つた事項からみて、必要があると認めるときは、個別信用購入あつせんに係る業務の改善その他の所要の措置を講じること。

三 第一号の規定により認められた結果その他の事情からみて、個別信用購入あつせん業者が個別信用購入あつせんに係る業務に關し購入者等の利益の保護に欠ける行為をしたと認めるときは、当該苦情の処理のために必要な事項を調査すること。

四 購入者等から申出を受けた苦情の内容又は前二号の規定による調査その他の方法により知つた事項からみて、必要があると認めるときは、個別信用購入あつせんに係る業務の改善その他の所要の措置を講じること。

ロ 個別信用購入あつせん関係販売業者若しくは個別信用購入あつせん関係役務提供事業者は、法第三十五条の三の二十二第一項の電磁的方法は、次に掲げる方法とする。

一 電子情報処理組織を使用する方法のうちイ又はロに掲げるもの

イ 個別信用購入あつせん関係販売業者若しくは個別信用購入あつせん関係役務提供事業者又は個別信用購入あつせん業者の使用に係る電子計算機と購入者等の使用に係る電子計算機とを接続する電気通信回線を通じて送信し、受信者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録する方法

ロ 個別信用購入あつせん関係販売業者若しくは個別信用購入あつせん関係役務提供事業者

が個別信用購入あつせん関係販売等契約に關し、法第三十五条の三の七各号のいずれかに該当する行為(第七十七条第一項第二号に掲げる行為を除く。)をしたと認められるとき。

ロ 個別信用購入あつせん関係販売業者又は個別信用購入あつせん関係役務提供事業者による個別信用購入あつせんに係る業務に関する苦情(苦情の内容が第七十七条第一項第二号及びイの行為に起因するものである苦情並びに第七十七条第一項第三号の苦情を除く。以下この号において同じ。)の発生状況及び他の個別信用購入あつせん関係販売業者等による個別信用購入あつせんに係る業務に関する苦情の発生状況からみて、当該個別信用購入あつせん関係販売業者又は当該個別信用購入あつせん関係役務提供事業者が当該他の個別信用購入あつせん関係販売業者等に比し、購入者等の利益の保護に欠けることと認められたるとき。

一 前二号の規定による調査その他の方法により知つた事項からみて、必要があると認めるときは、個別信用購入あつせんに係る業務の改善その他の所要の措置を講じること。

二 購入者等から申出を受けた苦情の内容又は前二号の規定による調査その他の方法により知つた事項からみて、必要があると認めるときは、個別信用購入あつせんに係る業務の改善その他の所要の措置を講じること。

三 第一号の規定により認められた結果その他の事情からみて、個別信用購入あつせん業者が個別信用購入あつせんに係る業務に關し購入者等の利益の保護に欠ける行為をしたと認めるときは、当該苦情の処理のために必要な事項を調査すること。

四 購入者等から申出を受けた苦情の内容又は前二号の規定による調査その他の方法により知つた事項からみて、必要があると認めるときは、個別信用購入あつせんに係る業務の改善その他の所要の措置を講じること。

ロ 個別信用購入あつせん関係販売業者若しくは個別信用購入あつせん関係役務提供事業者は、法第三十五条の三の二十二第一項の電磁的方法は、次に掲げる方法とする。

一 電子情報処理組織を使用する方法のうちイ又はロに掲げるもの

イ 個別信用購入あつせん関係販売業者若しくは個別信用購入あつせん関係役務提供事業者又は個別信用購入あつせん業者の使用に係る電子計算機と購入者等の使用に係る電子計算機とを接続する電気通信回線を通じて送信し、受信者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録する方法

ロ 個別信用購入あつせん関係販売業者若しくは個別信用購入あつせん関係役務提供事業者

個別信用購入あつせん業者は、法第三十五条の三の十一第一項第三号の規定により交付する書面を業務提供誘引販売個人契約であつて個別信用購入あつせん関係販売等契約に該当するものに係る個別信用購入あつせん関係受領契約の申込者等に交付した際には、直ちに当該申込者等が当該書面を見ていることを確認した上で、第一項第一号及び第二号に掲げる事項の内容について当該申込者等に告げなければならない。

(業務の運営に関する措置)

第八十九条 個別信用購入あつせん業者は、法第三十五条の三の二十の規定によりその取り扱う購入者等に関する情報の安全管理、従業者の監督及び当該情報の取扱いを委託する場合には、その委託先の監督について、当該情報の漏えい、滅失又はき損の防止を図るために必要かつ適切な措置を講じなければならない。

第九十条 個別信用購入あつせん業者は、法第三十五条の三の二十の規定により特定信用情報提供等業務を行う者から提供を受けた情報であつて購入者等の支払能力に関するものを、支払能力調査以外の目的に使用しないことを確保するための措置を講じなければならない。

第九十一条 個別信用購入あつせん業者は、法第三十五条の三の二十の規定によりその取り扱う購入者等に関する人種、信条、門地、本籍地、保健医療又は犯罪経歴についての情報その他の特別の非公開情報を、適切な業務の運営の確保その他必要と認められる目的以外に使用しないことを確保するための措置を講じなければならない。

第九十二条 個別信用購入あつせん業者は、法第三十五条の三の二十の規定により個別信用購入あつせん業者の業務を第三者に委託する場合には、当該業務の内容に応じ、次に掲げる措置を講じなければならない。

一 当該業務を適確に遂行することができる能力を有する者に委託するための措置

二 受託者における当該業務の実施状況を、定期的に又は必要に応じて確認すること等により、受託者が当該業務を適確に遂行しているかを検証し、必要に応じて改善させる等、受託者に対する必要かつ適切な監督等を行うための措置

三 受託者が行う当該業務に係る購入者等からの苦情の適切かつ迅速な処理のために必要な措置

四 受託者が当該業務を適切に行うことができない事態が生じた場合に他の適切な第三者に

当該業務を速やかに委託する等、当該業務に係る購入者等の利益の保護に支障が生じることを防止するための措置

五 受託者が当該業務を適確に遂行していない場合であつて当該業務に係る購入者等の利益の保護を図る必要がある場合には、当該業務の委託に係る契約の変更又は解除をする等の必要な措置を講ずるための措置

第九十三条 個別信用購入あつせん業者は、法第三十五条の三の二十の規定により法第三十五条の三の九第一項第一号、第二号若しくは第三号又は第三項第一号、第二号若しくは第三号に掲げる個別信用購入あつせん関係販売等契約に係る個別信用購入あつせん関係受領契約を締結しようとする場合において、法第三十五条の三の五第一項の規定による調査その他の方法により知つた事項からみて、当該個別信用購入あつせん関係販売等契約が特定商取引に関する法律第九条の二第一項各号又は第二十四条の二第一項各号に掲げる契約に該当するおそれがあると認めるときは、当該個別信用購入あつせん関係販売等契約に係る個別信用購入あつせん関係受領契約を締結してはならない。ただし、当該購入者等が当該個別信用購入あつせん関係販売等契約の締結を必要とする特別の事情があることを確認したときは、この限りでない。

第九十四条 個別信用購入あつせん業者は、法第三十五条の三の二十の規定により購入者等からの苦情の適切かつ迅速な処理のために必要な措置を講じるときは、次の各号に定めるところによりなければならない。

一 購入者等からの苦情を受け付けたときは、遅滞なく、当該苦情の内容が個別信用購入あつせん業者又は個別信用購入あつせん関係販売業者若しくは個別信用購入あつせん関係役務提供事業者による個別信用購入あつせんに係る業務に関する購入者等の利益の保護に欠ける行為に起因するものであるかを判別すること。

二 前号の規定により判別した結果又は認定割賦販売協会の保有する情報の確認その他の方法により知つた事項からみて、次のいずれかに該当するときは、当該苦情の内容に応じ、当該苦情の処理のために必要な事項を調査すること。

個別信用購入あつせん関係販売等契約に關し、法第三十五条の三の七各号のいずれかに該当する行為(第七十七条第一項第二号に掲げる行為を除く。)をしたと認められるとき。

ロ 個別信用購入あつせん関係販売業者又は個別信用購入あつせん関係役務提供事業者による個別信用購入あつせんに係る業務に関する苦情(苦情の内容が第七十七条第一項第二号及びイの行為に起因するものである苦情並びに第七十七条第一項第三号の苦情を除く。以下この号において同じ。)の発生状況及び他の個別信用購入あつせん関係販売業者等による個別信用購入あつせんに係る業務に関する苦情の発生状況からみて、当該個別信用購入あつせん関係販売業者又は当該個別信用購入あつせん関係役務提供事業者が当該他の個別信用購入あつせん関係販売業者等に比し、購入者等の利益の保護に欠けることと認められたるとき。

一 前二号の規定による調査その他の方法により知つた事項からみて、必要があると認めるときは、個別信用購入あつせんに係る業務の改善その他の所要の措置を講じること。

二 購入者等から申出を受けた苦情の内容又は前二号の規定による調査その他の方法により知つた事項からみて、必要があると認めるときは、個別信用購入あつせんに係る業務の改善その他の所要の措置を講じること。

三 第一号の規定により認められた結果その他の事情からみて、個別信用購入あつせん業者が個別信用購入あつせんに係る業務に關し購入者等の利益の保護に欠ける行為をしたと認めるときは、当該苦情の処理のために必要な事項を調査すること。

四 購入者等から申出を受けた苦情の内容又は前二号の規定による調査その他の方法により知つた事項からみて、必要があると認めるときは、個別信用購入あつせんに係る業務の改善その他の所要の措置を講じること。

業者又は個別信用購入あつせん業者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録された書面に記載すべき事項を電気通信回線を通じて購入者等の閲覧に供し、当該購入者等の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに当該事項を記録する方法（法第三十五条の三の二十二第一項の電磁的方法による提供を受ける旨の承諾又は受けない旨の申出をする場合にあつては、個別信用購入あつせん関係販売業者若しくは個別信用購入あつせん関係提供事業者又は個別信用購入あつせん業者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルにその旨を記録する方法）

二 電磁的記録媒体をもつて調製するファイルに書面に記載すべき事項を記録したものを交付する方法

2 前項に掲げる方法は、購入者等がファイルへの記録を出力することにより書面を作成できるものでなければならない。

3 第一項第一号の「電子情報処理組織」とは、個別信用購入あつせん関係販売業者若しくは個別信用購入あつせん関係提供事業者又は個別信用購入あつせん業者の使用に係る電子計算機と、購入者等の使用に係る電子計算機とを電気通信回線で接続した電子情報処理組織をいう。

第九十六条 令第二十七条第一項の規定により示すべき方法の種類及び内容は、次に掲げる事項とする。

一 前条第一項に規定する方法のうち個別信用購入あつせん関係販売業者若しくは個別信用購入あつせん関係提供事業者又は個別信用購入あつせん業者が使用するもの

二 ファイルへの記録の方法

第九十七条 令第二十七条第三項の規定による認は、文書、口頭、電信又は電話、電子情報処理組織を使用する方法その他の方法で購入者等の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録されたことを確認することにより行うものとする。

第九十八条 法第三十五条の三の二十二第二項の経済産業省令・内閣府令で定める方法は、第九十五条第一項第二号に掲げる方法とする。

第二款 個別信用購入あつせん業者の登録等

第九十九条 法第三十五条の三の二十四第一項の申請書は、様式第十六によるものとする。

2 法第三十五条の三の二十四第二項の経済産業省令で定める書類は、次のとおりとする。

一 登録申請書提出日前一月以内の一定の日の現在において様式第二号により作成した財産に関する調査並びに登録申請書提出日の直前事業年度の貸借対照表、損益計算書及び株主資本等変動計算書又はこれらに代わる書面。ただし、登録の申請の日を含む事業年度に設立された法人にあつては、会社法第四百三十五条第一項若しくは第六百七十七条第一項の規定により成立のときに作成する貸借対照表又はこれに代わる書面

二 兼営事業がある場合には、その種類及び概要を記載した書面

三 役員履歴書

四 株主若しくは社員の名簿及び親会社の株主若しくは社員の名簿又はこれらに代わる書面

五 加入指定信用情報機関の商号又は名称を記載した書面

六 特定信用情報提供契約を締結している特定信用情報提供等業務を行う者の商号又は名称を記載した書面

七 個別信用購入あつせんに係る業務に関する社内規則等（個別信用購入あつせん業者又はその役員、使用人その他の従業者が遵守すべき規則その他これに準ずるものであつて個別信用購入あつせん業者が作成するものをいう。第百一条において同じ。）

八 個別信用購入あつせんに係る業務に関する組織図

九 法第三十五条の三の二十六第一項第三号から第九号までの規定に該当しないことを誓約する書面

3 第十二条第三項の規定は、法第三十五条の三の二十四第三項の経済産業省令で定める電磁的記録に準用する。

（不正な行為等をするおそれがあると認められる法人）

第一百条 法第三十五条の三の二十六第一項第八号に規定する経済産業省令で定めるものは、次の各号のいずれかに該当する法人とする。

一 法第三十五条の三の三十二第一項各号又は第二項各号のいずれかに該当するとして登録の取消しの処分があつた日から当該処分をする日又は処分をしないこと決定する日までの期間内に法第三十五条の三の三十五にお

いて準用する法第二十六条第一項の規定による届出をした法人（個別信用購入あつせんの営業の廃止について相当の理由のある法人を除く。以下この条において同じ。）で、当該届出の日から五年を経過しない法人

二 前号の期間内に法第三十五条の三の三十五において準用する法第二十六条第一項の規定による届出をした法人の業務を執行する社員又はこれに準ずる者であつた者であつて、前号に規定する通知があつた日前三十日に当たると当該法人の廃止の日までの間にその地位にあつたもの（法人に限る。）で、当該届出の日から五年を経過しない法人

三 役員のうち、第一号の期間内に法第三十五条の三の三十五において準用する法第二十六条第一項の規定による届出をした法人の役員であつた者であつて第一号に規定する通知があつた日前三十日に当たると当該法人の廃止の日までの間にその地位にあつたもので当該届出の日から五年を経過しない者のある法人

（個別信用購入あつせんの公正かつ適確な実施を確保するために必要な体制）

第一百一条 法第三十五条の三の二十六第一項第九号に規定する経済産業省令で定める体制は、次のとおりとする。

一 法第三十五条の三の三十一項本文に規定する調査、法第三十五条の三の五第一項に規定する調査その他法に定める措置の円滑な実施を確保するために必要な体制

二 購入者等の苦情を適切かつ迅速に処理するために必要な体制

三 個別信用購入あつせんの公正かつ適確な実施を確保するため十分な社内規則等を定めていこと。

四 法の規定若しくは法の規定に基づく命令又は社内規則等を遵守するために必要な体制

2 前項第三号の社内規則等は個別信用購入あつせんに係る業務に関する責任体制を明確化する規定を含むものでなければならない。

（変更の届出）

第一百二条 法第三十五条の三の二十八第一項の届出は、様式第十七による届出書を提出してしなければならない。

2 法第三十五条の三の二十八第三項において準用する法第三十五条の三の二十四第二項の経済産業省令で定める書類は、次のとおりとする。

1 その変更に係る事項を証する書類

2 その変更が新たに就任した役員に係るものであるときは、当該役員履歴書及び第九十九条第二項第九号に掲げる書面（法第三十五条の三の二十六第一項第五号に係るものに限る。）

3 第十二条第三項の規定は、法第三十五条の三の二十八第三項において準用する法第三十五条の三の二十四第三項の経済産業省令で定める電磁的記録に準用する。

（準用規定）

第一百三条 第二十五条及び第二十六条の規定は、個別信用購入あつせんに業として営む場合に準用する。この場合において、第二十五条中「法第二十四条（法第二十六条において準用する場合を含む）」とあるのは、「法第三十五条の三の三十五において準用する法第二十四条」と、第二十六条中「法第二十六条第一項」とあるのは「法第三十五条の三の三十五において準用する法第二十六条第一項」と読み替えるものとする。

第三節 指定信用情報機関

第一款 通則

（法第二十五条の三の三十六第一項第四号イの経済産業省令で定める者）

第一百三条の二 法第三十五条の三の三十六第一項第四号イの経済産業省令で定める者は、精神の機能の障害により特定信用情報提供業務を適正に行うに当たつて必要な認知、判断及び意思疎通を適切に行うことができな者とする。

（特定信用情報の規模）

第一百四条 法第三十五条の三の三十六第一項第五号の経済産業省令で定めるものは、加入登録包括信用購入あつせん業者（特定信用情報提供等業務を行う者が特定信用情報提供契約を締結した相手方である登録包括信用購入あつせん業者をいう。次項第一号及び第六百六条第二項第四号において同じ。）の数、加入登録個別信用購入あつせん業者（特定信用情報提供等業務を行う者が特定信用情報提供契約を締結した相手方である登録個別信用購入あつせん業者をいう。次項第二号及び第六百六条第二項第四号において同じ。）の数、保有する基礎特定信用情報に係る支払時期の到来していない又は支払の義務が履行されていない包括信用購入あつせん及び二月払購入あつせんに係る債務の合計額（加入包括信用購入あつせん業者が当該包括信用購入あつ

て準用する法第二十六条第一項の規定による届出をした法人（個別信用購入あつせんの営業の廃止について相当の理由のある法人を除く。以下この条において同じ。）で、当該届出の日から五年を経過しない法人

二 前号の期間内に法第三十五条の三の三十五において準用する法第二十六条第一項の規定による届出をした法人の業務を執行する社員又はこれに準ずる者であつた者であつて、前号に規定する通知があつた日前三十日に当たると当該法人の廃止の日までの間にその地位にあつたもの（法人に限る。）で、当該届出の日から五年を経過しない法人

三 役員のうち、第一号の期間内に法第三十五条の三の三十五において準用する法第二十六条第一項の規定による届出をした法人の役員であつた者であつて第一号に規定する通知があつた日前三十日に当たると当該法人の廃止の日までの間にその地位にあつたもので当該届出の日から五年を経過しない者のある法人

（個別信用購入あつせんの公正かつ適確な実施を確保するために必要な体制）

第一百一条 法第三十五条の三の二十六第一項第九号に規定する経済産業省令で定める体制は、次のとおりとする。

一 法第三十五条の三の三十一項本文に規定する調査、法第三十五条の三の五第一項に規定する調査その他法に定める措置の円滑な実施を確保するために必要な体制

二 購入者等の苦情を適切かつ迅速に処理するために必要な体制

三 個別信用購入あつせんの公正かつ適確な実施を確保するため十分な社内規則等を定めていこと。

四 法の規定若しくは法の規定に基づく命令又は社内規則等を遵守するために必要な体制

2 前項第三号の社内規則等は個別信用購入あつせんに係る業務に関する責任体制を明確化する規定を含むものでなければならない。

（変更の届出）

第一百二条 法第三十五条の三の二十八第一項の届出は、様式第十七による届出書を提出してなければならない。

2 法第三十五条の三の二十八第三項において準用する法第三十五条の三の二十四第二項の経済産業省令で定める書類は、次のとおりとする。

1 その変更に係る事項を証する書類

2 その変更が新たに就任した役員に係るものであるときは、当該役員履歴書及び第九十九条第二項第九号に掲げる書面（法第三十五条の三の二十六第一項第五号に係るものに限る。）

3 第十二条第三項の規定は、法第三十五条の三の二十八第三項において準用する法第三十五条の三の二十四第三項の経済産業省令で定める電磁的記録に準用する。

（準用規定）

第一百三条 第二十五条及び第二十六条の規定は、個別信用購入あつせんに業として営む場合に準用する。この場合において、第二十五条中「法第二十四条（法第二十六条において準用する場合を含む）」とあるのは、「法第三十五条の三の三十五において準用する法第二十四条」と、第二十六条中「法第二十六条第一項」とあるのは「法第三十五条の三の三十五において準用する法第二十六条第一項」と読み替えるものとする。

第三節 指定信用情報機関

第一款 通則

（法第二十五条の三の三十六第一項第四号イの経済産業省令で定める者）

第一百三条の二 法第三十五条の三の三十六第一項第四号イの経済産業省令で定める者は、精神の機能の障害により特定信用情報提供業務を適正に行うに当たつて必要な認知、判断及び意思疎通を適切に行うことができな者とする。

（特定信用情報の規模）

第一百四条 法第三十五条の三の三十六第一項第五号の経済産業省令で定めるものは、加入登録包括信用購入あつせん業者（特定信用情報提供等業務を行う者が特定信用情報提供契約を締結した相手方である登録包括信用購入あつせん業者をいう。次項第一号及び第六百六条第二項第四号において同じ。）の数、加入登録個別信用購入あつせん業者（特定信用情報提供等業務を行う者が特定信用情報提供契約を締結した相手方である登録個別信用購入あつせん業者をいう。次項第二号及び第六百六条第二項第四号において同じ。）の数、保有する基礎特定信用情報に係る支払時期の到来していない又は支払の義務が履行されていない包括信用購入あつせん及び二月払購入あつせんに係る債務の合計額（加入包括信用購入あつせん業者が当該包括信用購入あつ

せんの手数料の額を提供するときは、当該手数料（第一百八条第三項において「特定包括手数料」という。）の額を含む。次項第三号において同じ。保有する基礎特定信用情報に係る支払時期の到来していない又は支払の義務が履行されていない個別信用購入あつせん及び二月払個別購入あつせんに係る債務の合計額（加入個別信用購入あつせん業者が当該個別信用購入あつせんの手数料の額を提供するときは、当該手数料（第一百八条第三項において「特定個別手数料」という。）の額を含む。次項第四号において同じ。）並びに保有する基礎特定信用情報に係る個別信用購入あつせん又は二月払個別購入あつせんに係る販売の方法により販売した商品名又は当該商品特定するに足りる番号、記号その他の符号（保有する基礎特定信用情報に係る個別信用購入あつせんに係る販売又は提供の方法により販売した指定権利又は提供する債務の場合にあつては、当該権利若しくは当該債務の種類又は当該権利若しくは当該債務を特定するに足りる番号、記号その他の符号）の件数の合計数とする。

2 法第三十五条の三の三十六第一項第五号の経済産業省令で定める基準は、次のとおりとする。

- 一 加入登録包括信用購入あつせん業者の数が五十以上であること。
- 二 加入登録個別信用購入あつせん業者の数が三十以上であること。
- 三 保有する基礎特定信用情報に係る支払時期の到来していない又は支払の義務が履行されていない包括信用購入あつせん及び二月払購入あつせんに係る債務の合計額が一兆五千億円以上であること。
- 四 保有する基礎特定信用情報に係る支払時期の到来していない又は支払の義務が履行されていない個別信用購入あつせん及び二月払個別購入あつせんに係る債務の合計額が三兆円以上であること。
- 五 保有する基礎特定信用情報に係る個別信用購入あつせん又は二月払個別購入あつせんに係る商品名又は当該商品特定するに足りる番号、記号その他の符号（指定権利又は債務の場合にあつては、当該権利若しくは当該債務の種類又は当該権利若しくは当該債務を特定するに足りる番号、記号その他の符号）の件数の合計数が四百万件以上であること。

3 この節において「二月払個別購入あつせん」とは、カード等を利用することなく、特定の販売業者が行う購入者への商品若しくは指定権利の販売又は特定の役員提供事業者が行う役務の提供を受ける者への役務の提供を条件として、当該商品若しくは当該指定権利の代金又は当該役務の対価の全部又は一部に相当する金額の当該販売業者又は当該役員提供事業者への交付（当該販売業者又は当該役員提供事業者以外の者を通じて当該販売業者又は当該役員提供事業者への交付を含む。）をするとき、当該購入者等から、当該購入者等が当該販売業者から商品若しくは指定権利を購入する契約を締結し、又は当該役員提供事業者から役務の提供を受ける契約を締結した時から二月を超えない範囲内においてあらかじめ定められた時期までに、当該金額を受領することをいう。

（財産的基礎）

第百五条 法第三十五条の三の三十六第一項第六号の経済産業省令で定めるものは、法第三十五条の三の三十七第二項第四号の貸借対照表に計上された資産の合計額から負債の合計額を控除した額が五億円以上であることとする。

（指定申請の添付書類）

第百六条 法第三十五条の三の三十七第一項の申請書は、様式第十八によるものとする。

2 法第三十五条の三の三十七第二項第五号の経済産業省令で定める書類は、次のとおりとする。

- 一 法第三十五条の三の三十六第一項第二号に掲げる要件に該当することを誓約する書面
- 二 役員（法第三十五条の三の三十六第一項第四号の役員をいう。以下この号、次号、次条、第八号、第九号、第十号、第十一号及び第十二号、第十三号、第十四号及び第十五号並びに第三十五条の三の三十六第一項第四号ロに該当しない旨の官公署の証明書（当該役員が外国人である場合を除く。）
- 三 役員（役員が法人であるときは、当該役員が役員を記載した書面。第百十一条第二項第九号及び第百十五号第二項第二号において同じ。）
- 四 加入登録包括信用購入あつせん業者及び加入登録個別信用購入あつせん業者の名称を記載した書面
- 五 法第三十五条の三の三十六第一項第五号に掲げる規定に適合することを説明した書類

六 特定信用情報提供等業務に関する知識及び経験を有する使用人の確保の状況並びに当該使用人の配置の状況を記載した書面

七 申請者の事務の機構及び分掌を記載した書面

八 その他参考となるべき事項を記載した書類

3 第十二条第三項の規定は、法第三十五条の三の三十七第三項の経済産業省令で定める電磁的記録に準用する。

（役員（兼職）の制限）

第百七条 法第三十五条の三の三十八の経済産業省令で定める法人は、次の各号のいずれかに該当する法人とする。

- 一 包括信用購入あつせん業者又は二月払購入あつせんと業とする法人
- 二 個別信用購入あつせん業者又は二月払個別購入あつせんと業とする法人
- 三 貸金業法（昭和五十八年法律第三十二号）第二条第一項に規定する貸金業を営む法人
- 四 債権管理回収業に関する特別措置法（平成十年法律第二百六号）第二条第三項に規定する債権回収会社
- 五 債務の保証を業として営む法人
- 六 役務の提供を受ける者に対し、その指定する機械類その他の商品を購入してその賃貸をする業務（次項第四号において「リース業」という。）を営む法人

2 法第三十五条の三の三十八の経済産業省令で定める事業は、次に掲げる事業とする。

- 一 貸金業法第二条第一項に規定する貸金業
- 二 債権管理回収業に関する特別措置法第二条第二項に規定する債権管理回収業
- 三 債務の保証
- 四 リース業

（指定信用情報機関の役員（兼職）の認可の申請等）

第百八条 指定信用情報機関の代表者及び常務に従事する役員は、法第三十五条の三の三十八の規定による認可を受けようとするときは、当該認可を受けるべき事項を記載した認可申請書に次に掲げる書面を添付して、当該指定信用情報機関を経由して経済産業大臣に提出しなければならない。

- 一 理由書
- 二 履歴書
- 三 指定信用情報機関における常務の処理方法又は勤務状況を記載した書面

四 前条第一項各号に掲げる法人（以下この条において「他の法人」という。）の常務に従事しようとする場合には、当該他の法人における常務の処理方法及び指定信用情報機関と当該他の法人との取引その他の関係を記載した書面並びに当該他の法人の定款、最終の業務報告又は事業報告の内容を記載した書面、貸借対照表（関連する注記を含む。第百十一条第二項第七号において同じ。）、損益計算書（関連する注記を含む。同号において同じ。）、剰余金処分計算書若しくは損失金処理計算書又は株主資本等変動計算書（関連する注記を含む。）その他最近における業務、財産及び損益の状況を知るに足りる書面

五 現在営んでいる前条第二項各号に掲げる事業を継続して営もうとする場合には、その事業の種類及び方法、その事業の最近における業務、財産及び損益の状況並びに申請の日から起算して一年間における取引及び収支の予想を記載した書面

六 新たに前条第二項各号に掲げる事業を営もうとする場合には、その事業の種類及び方法及び収支の予想を記載した書面

七 その他経済産業大臣が必要と認める事項を記載した書面

2 経済産業大臣は、前項の規定による認可の申請があつたときは、当該申請に係る他の法人を代表し、若しくは常務に従事し、又は前条第二項各号に掲げる事業を営むことが、当該申請に係る指定信用情報機関の代表者又は常務に従事する役員が指定信用情報機関を代表すること又は指定信用情報機関の常務に従事することに対し、何らの支障を及ぼすおそれのないものであるかどうかを審査するものとする。

第二款 業務

（兼業の承認申請）

第百九条 指定信用情報機関は、法第三十五条の三の四十一第一項ただし書の規定により承認を受けようとするときは、次に掲げる事項を記載した承認申請書を経済産業大臣に提出しなければならない。

- 一 兼業の承認を受けようとする業務（以下この条において「兼業業務」という。）
- 二 兼業業務の開始予定年月日

2 前項の承認申請書には、次に掲げる書類を添付しなければならない。

一 兼業業務の内容及び方法を記載した書類
 二 兼業業務を所掌する組織及び人員配置を記載した書面

三 兼業業務の運営に関する規則
 四 兼業業務の開始後三年間における当該兼業業務の収支の見込みを記載した書類
 (兼業業務の廃止の届出)

第一百十條 指定信用情報機関は、法第三十五条の三の四十一第二項の規定により同条第一項ただし書の承認を受けた業務を廃止した旨の届出をしようとするときは、次に掲げる事項を記載した書面を経済産業大臣に届け出るものとする。

- 一 廃止したその業務の内容
- 二 廃止した年月日
- 三 廃止の理由

（業務の一部委託の承認申請）

第一百十一條 指定信用情報機関は、法第三十五条の三の四十二第二項の規定により承認を受けようとするときは、次に掲げる事項を記載した承認申請書を経済産業大臣に提出しなければならない。

- 一 業務を委託する相手方（以下この条及び次条において「受託者」という。）の氏名又は商号若しくは名称及び住所又は委託する業務を行う営業所若しくは事務所の所在地
- 二 委託する業務の内容及び範囲
- 三 委託の期間

2 前項の承認申請書には、次に掲げる書類を添付しなければならない。

- 一 理由書
- 二 業務の委託契約の内容を記載した書面
- 三 受託者が法第三十五条の三の三十六第一項第二号から第四号までに掲げる要件に該当することを誓約する書面
- 四 受託者の沿革を記載した書面
- 五 受託者の定款又は寄附行為
- 六 委託する業務の実施方法を記載した書面
- 七 受託者の最近三年の各年度における事業報告書、貸借対照表及び損益計算書又はこれらに代わる書面
- 八 受託者の役員の氏名又は商号若しくは名称を記載した書面
- 九 受託者の役員の履歴書
- 十 受託者の取締役（業務を執行する社員、理事その他これに準ずる者を含むものとし、委員会設置会社にあつては、執行役とする。）の担当業務を記載した書面

11 その他参考となるべき事項を記載した書類

（業務の一部委託の承認基準）

第一百十二條 経済産業大臣は、前条第一項の承認申請書を受理した場合において、その申請が次に掲げる基準に適合していると認められるときは、これを承認するものとする。

- 一 業務の委託が当該業務の効率化に資すること。
- 二 受託者が社会的信用のある法人であり、かつ、その受託する業務について、適正な計画を有し、確実にその業務を行うことができるものであること。
- 三 受託者が法第三十五条の三の三十六第一項第二号から第四号までに掲げる要件に該当すること。

（業務規程の記載事項）

第一百十三條 法第三十五条の三の四十三第一項第十号の経済産業省令で定める事項は、次のとおりとする。

- 一 特定信用情報提供等業務を行う時間及び休日に関する事項
- 二 従業者の監督体制に関する事項
- 三 特定信用情報提供等業務に関する記録の作成に関する事項
- 四 特定信用情報提供契約に関する契約約款に関する事項
- 五 特定信用情報提供等業務において取り扱う特定信用情報についての利用者又は購入者等の同意に関する事項
- 六 特定信用情報提供等業務の用に供する設備が、停電及び地震、火災、水害その他の災害の被害を容易に受けけないために必要な措置に関する事項
- 七 個人情報保護の保護に関する法律（平成十五年法律第五十七号）第三十七条第一項に規定する開示等の求めに係る措置に関する事項
- 八 定款又はこれに準ずる定めを変更した場合における当該変更の届出に関する事項
- 九 電子情報処理組織の故障その他の偶発的な事情により、特定信用情報提供等業務の全部又は一部を停止する事故が発生した場合における当該事故の概要及び改善策の届出に関する事項
- 十 指定信用情報機関又はその業務の一部の委託先の役員又は従業員（以下この号及び次号において「役員等」という。）が特定信用情報提供等業務（業務の一部の委託先にあつては、当該指定信用情報機関が委託する業務に係るものに限る。）を遂行するに際して法令又は当該指定信用情報機関の業務規程に反する行為が発生したことを知った場合における当該行為が発生した営業所又は事務所の名称、当該行為をした役員等の氏名又は商号若しくは名称及び役職名、当該行為の概要並びに改善策の届出に関する事項
- 十一 加入包括信用購入あつせん業者若しくは加入個別信用購入あつせん業者又はその役員等が法第三十五条の三の五十六、第三十五条の三の五十七若しくは第三十五条の三の五十九又は指定信用情報機関の業務規程に反する行為を行ったことを知った場合における当該行為が発生した営業所又は事務所の名称、当該行為をした役員等の氏名又は商号若しくは名称及び役職名、当該行為の概要並びに改善策の届出に関する事項
- 十二 その他特定信用情報提供等業務に関し必要な事項

報提供等業務（業務の一部の委託先にあつては、当該指定信用情報機関が委託する業務に係るものに限る。）を遂行するに際して法令又は当該指定信用情報機関の業務規程に反する行為が発生したことを知った場合における当該行為が発生した営業所又は事務所の名称、当該行為をした役員等の氏名又は商号若しくは名称及び役職名、当該行為の概要並びに改善策の届出に関する事項

（特定信用情報提供等業務に関する記録の記録事項等）

第一百十四條 法第三十五条の三の四十五の規定により、指定信用情報機関は特定信用情報提供等業務に関し、次に掲げる事項の記録を、書面又は電磁的記録をもつて作成し、作成後三年間保存しなければならない。

- 一 基礎特定信用情報の提供を依頼した加入包括信用購入あつせん業者若しくは加入個別信用購入あつせん業者の名称又は当該加入包括信用購入あつせん業者若しくは当該加入個別信用購入あつせん業者を特定するに足りる番号、記号その他の符号（他の指定信用情報機関の加入包括信用購入あつせん業者又は加入個別信用購入あつせん業者の依頼に基づき当該他の指定信用情報機関から基礎特定信用情報の提供の依頼を受けたときは、当該他の指定信用情報機関の商号又は名称及び提供の依頼のあつた当該他の指定信用情報機関の加入包括信用購入あつせん業者若しくは加入個別信用購入あつせん業者の名称又は当該加入包括信用購入あつせん業者若しくは加入個別信用購入あつせん業者を特定するに足りる番号、記号その他の符号）
- 二 基礎特定信用情報の提供を依頼された個人の氏名

三 基礎特定信用情報の提供の依頼のあつた日時

第三款 監督

（変更の届出）

第一百十五條 法第三十五条の三の五十第一項の規定による届出は、様式第十九による届出書を提出してしなければならない。

2 前項の規定による届出書には、次の書面を添付しなければならない。

- 一 変更の届出が商号若しくは名称、主たる営業所若しくは事務所その他特定信用情報提供等業務を行う営業所若しくは事務所の名称若しくは所在地又は役員の氏名若しくは商号若しくは名称に係るものであるときは、その変更を証する書面
- 二 変更の届出が新たに就任した役員に係るものであるときは、当該役員の履歴書及び法第三十五条の三の三十七第二項第一号に掲げる書面（法第三十五条の三の三十六第一項第四号に係るものに限る。）

（業務及び財産に関する報告書の提出）

第一百十六條 法第三十五条の三の五十一第一項の規定による指定信用情報機関が作成すべき業務及び財産に関する報告書は、様式第二十により作成し、事業年度経過後三月以内に経済産業大臣に提出しなければならない。

2 前項の報告書には、最終事業年度に係る会社法第四百三十五条第二項に規定する計算書類（会社でない場合にあつては、これに代わる書面）を添付しなければならない。

3 指定信用情報機関は、やむを得ない理由により第一項に規定する期間内に同項の報告書の提出をすることができない場合には、あらかじめ経済産業大臣の承認を受けて、当該提出を延期することができる。

4 指定信用情報機関は、前項の規定による承認を受けようとするときは、承認申請書に理由書を添付して経済産業大臣に提出しなければならない。

5 経済産業大臣は、前項の規定による承認の申請があつたときは、当該申請をした指定信用情報機関が第三項の規定による提出の延期をすることについてやむを得ないと認められる理由があるかどうかを審査するものとする。

(休業止の申請)
第七十七條 法第三十五條の三の五十三第一項の規定による認可の申請は、様式第二十一による申請書を提出してしなければならない。

第四款 加入包括信用購入あつせん業者及び加入個別信用購入あつせん業者(基礎特定信用情報に含まれる事項)
第七十八條 法第三十五條の三の五十六第一項第一号の経済産業省令で定めるものは、購入者等に係る次に掲げる事項とする。

- 一 氏名(ふりがなを付す。)
- 二 住所
- 三 生年月日
- 四 電話番号(勤務先の電話番号を除く。)
- 五 本人確認書類(犯罪による収益の移転防止に関する法律施行規則(平成二十年内閣府・総務省・法務省・財務省・厚生労働省・農林水産省・経済産業省・国土交通省令第一号)第六條第一項第二号に規定する旅券等若しくは船舶観光上陸許可書又は同規則第七條第一号イに規定する運転免許証等、在留カード若しくは特別永住者証明書をいう。以下この号において同じ。)

記号その他の符号(加入包括信用購入あつせん業者が、本人確認書類の提示を受ける方法その他の犯罪による収益の移転防止に関する法律施行規則第六條第一項第一号イ、ホ、ヘ、ト、チ、リ若しくはルに掲げる方法により犯罪による収益の移転防止に関する法律(平成十九年法律第二十二号)第四條第一項の規定による確認(同項第一号に掲げる事項に係るものに限る。))を行つた場合又は加入個別信用購入あつせん業者が本人確認書類の提示若しくは本人確認書類に記載されている本人を特定するに足りる番号、記号その他の符号の通知を受けた場合(個別信用購入あつせん関係販売業者又は個別信用購入あつせん関係業務提供事業者を通じて加入個別信用購入あつせん業者への提示又は通知を含む。に限る。)

2 法第三十五條の三の五十六第一項第四号の経済産業省令で定める事項は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める事項とする。

- 一 加入包括信用購入あつせん業者 次に掲げる事項
イ 法第三十五條の三の五十六第一項第三号に規定する包括信用購入あつせんに係る債

務の額(当該包括信用購入あつせんの手数料の額を含む。)のうち、購入者等が一年間に支払うことが見込まれる額
ロ 包括信用購入あつせん(加入包括信用購入あつせん業者が二月払購入あつせんに業とする者である場合であつて、支払時期の到来していない又は支払の義務が履行されていない)又は支払の義務が履行された額を提供するとき(当該債務の額を法第三十五條の三の五十六第一項第三号に規定する包括信用購入あつせんに係る債務の額と区分して提供するときを除く。)

ハ及び次条第一項において「特定二月払購入あつせん」という。を含む。ハ及び次条第一項において同じ。に係る債務又は包括信用購入あつせんの手数料の支払の遅延の有無
ニ 加入個別信用購入あつせん業者 次に掲げる事項
イ 法第三十五條の三の五十六第一項第三号に規定する個別信用購入あつせんに係る債務の額(当該個別信用購入あつせんの手数料の額を含む。)のうち、購入者等が一年間に支払うことが見込まれる額
ロ 個別信用購入あつせんに係る債務又は個別信用購入あつせんの手数料の支払の遅延の有無

ハ 個別信用購入あつせんに係る提供の方法により販売した権利の種類又は当該権利を特定するに足りる番号、記号その他の符号
ニ 加入個別信用購入あつせん業者は、あらかじめ、法第三十五條の三の五十七第二項各号に掲げる同意を購入者等から書面又は電磁的方法により包括的に得ることができ。

2 法第三十五條の三の五十七第一項及び第二項の電磁的方法は、次に掲げる方法とする。(情報通信の技術を利用する方法)
第七十九條 法第三十五條の三の五十七第一項の場合
法第三十五條の三の五十七第二項の場合

一 電子情報処理組織を使用する方法のうちイ又はロに掲げるもの
イ 加入包括信用購入あつせん業者又は加入個別信用購入あつせん業者の使用に係る電子計算機と利用者又は購入者等の使用に係る電子計算機とを接続する電気通信回線を通じて送信し、当該加入包括信用購入あつせん業者又は当該加入個別信用購入あつせん業者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録する方法

二 加入個別信用購入あつせん業者は、あらかじめ、法第三十五條の三の五十七第二項各号に掲げる同意を購入者等から書面又は電磁的方法により包括的に得ることができ。

ロ 加入包括信用購入あつせん業者又は加入個別信用購入あつせん業者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録された利用者又は購入者等による同意に関する事項を電気通信回線を通じて利用者又は購入者等の閲覧に供し、当該加入包括信用購入あつせん業者又は当該加入個別信用購入あつせん業者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに当該利用者又は購入者等の同意に関する事項を記録する方法
ニ 電磁的記録媒体をもつて調製するファイルに利用者又は購入者等の同意に関する事項を記録したものを得る方法
(特定信用情報の提供等に係る同意に関する記録の作成等)

第八十條 加入包括信用購入あつせん業者又は加入個別信用購入あつせん業者は、法第三十五條の三の五十七第三項に規定する同意に関する記録を、書面又は電磁的記録をもつて作成し、当該同意に基づき指定信用情報機関が特定信用情報を保有している間保存しなければならない。

第四章 前払式特定取引(許可の申請)
第八十二條 法第三十五條の三の六十二において準用する法第十二條第一項の申請書は、様式第二十二によるものとする。

2 法第三十五條の三の六十二において準用する法第十二條第二項の経済産業省令で定める書類は、次のとおりとする。
一 許可申請書提出日前一月以内の一定の日の現在において様式第二により作成した財産に関する調書及び様式第三により作成した許可申請書提出日の直前事業年度の収支に関する調書並びに許可申請書提出日の直前五事業年度(事業年度が六月の法人にあつては、直前十事業年度)の貸借対照表、損益計算書及び株主資本等変動計算書又はこれらに代わる書面
二 次の事項を記載した許可後五事業年度(事業年度が六月の法人にあつては、許可後十事業年度)の業務計画書
イ 前払式特定取引の方法による取引の計画
ロ 収支計画
ハ 資金計画
三 役員履歴書

一 加入包括信用購入あつせん業者 次に掲げる事項
イ 法第三十五條の三の五十六第一項第三号に規定する包括信用購入あつせんに係る債務の額(当該包括信用購入あつせんの手数料の額を含む。)のうち、購入者等が一年間に支払うことが見込まれる額
ロ 個別信用購入あつせんに係る債務又は個別信用購入あつせんの手数料の支払の遅延の有無
ハ 個別信用購入あつせんに係る提供の方法により販売した権利の種類又は当該権利を特定するに足りる番号、記号その他の符号
ニ 加入個別信用購入あつせん業者は、あらかじめ、法第三十五條の三の五十七第二項各号に掲げる同意を購入者等から書面又は電磁的方法により包括的に得ることができ。

2 法第三十五條の三の五十七第一項及び第二項の電磁的方法は、次に掲げる方法とする。(情報通信の技術を利用する方法)
第八十條 加入包括信用購入あつせん業者又は加入個別信用購入あつせん業者は、法第三十五條の三の五十七第三項に規定する同意に関する記録を、書面又は電磁的記録をもつて作成し、当該同意に基づき指定信用情報機関が特定信用情報を保有している間保存しなければならない。

第四章 前払式特定取引(許可の申請)
第八十二條 法第三十五條の三の六十二において準用する法第十二條第一項の申請書は、様式第二十二によるものとする。

2 法第三十五條の三の六十二において準用する法第十二條第二項の経済産業省令で定める書類は、次のとおりとする。
一 許可申請書提出日前一月以内の一定の日の現在において様式第二により作成した財産に関する調書及び様式第三により作成した許可申請書提出日の直前事業年度の収支に関する調書並びに許可申請書提出日の直前五事業年度(事業年度が六月の法人にあつては、直前十事業年度)の貸借対照表、損益計算書及び株主資本等変動計算書又はこれらに代わる書面
二 次の事項を記載した許可後五事業年度(事業年度が六月の法人にあつては、許可後十事業年度)の業務計画書
イ 前払式特定取引の方法による取引の計画
ロ 収支計画
ハ 資金計画
三 役員履歴書

一 加入包括信用購入あつせん業者 次に掲げる事項
イ 法第三十五條の三の五十六第一項第三号に規定する包括信用購入あつせんに係る債務の額(当該包括信用購入あつせんの手数料の額を含む。)のうち、購入者等が一年間に支払うことが見込まれる額
ロ 個別信用購入あつせんに係る債務又は個別信用購入あつせんの手数料の支払の遅延の有無
ハ 個別信用購入あつせんに係る提供の方法により販売した権利の種類又は当該権利を特定するに足りる番号、記号その他の符号
ニ 加入個別信用購入あつせん業者は、あらかじめ、法第三十五條の三の五十七第二項各号に掲げる同意を購入者等から書面又は電磁的方法により包括的に得ることができ。

2 法第三十五條の三の五十七第一項及び第二項の電磁的方法は、次に掲げる方法とする。(情報通信の技術を利用する方法)
第八十條 加入包括信用購入あつせん業者又は加入個別信用購入あつせん業者は、法第三十五條の三の五十七第三項に規定する同意に関する記録を、書面又は電磁的記録をもつて作成し、当該同意に基づき指定信用情報機関が特定信用情報を保有している間保存しなければならない。

第四章 前払式特定取引(許可の申請)
第八十二條 法第三十五條の三の六十二において準用する法第十二條第一項の申請書は、様式第二十二によるものとする。

2 法第三十五條の三の六十二において準用する法第十二條第二項の経済産業省令で定める書類は、次のとおりとする。
一 許可申請書提出日前一月以内の一定の日の現在において様式第二により作成した財産に関する調書及び様式第三により作成した許可申請書提出日の直前事業年度の収支に関する調書並びに許可申請書提出日の直前五事業年度(事業年度が六月の法人にあつては、直前十事業年度)の貸借対照表、損益計算書及び株主資本等変動計算書又はこれらに代わる書面
二 次の事項を記載した許可後五事業年度(事業年度が六月の法人にあつては、許可後十事業年度)の業務計画書
イ 前払式特定取引の方法による取引の計画
ロ 収支計画
ハ 資金計画
三 役員履歴書

<p>二 商品の代金又は指定役務の対価又は指定役務の対価</p>	<p>商品の代金又は指定役務の対価が完済された場合には、その旨の通知の方法が定められていること。</p>	<p>記載すべき事項</p>	<p>四 法第三十五条の三の六十二において準用する法第十五条第一項第六号から第八号までの規定に該当しないことを誓約する書面</p> <p>五 前払式特定取引に関する代理店を有するときは、代理店契約書の写し</p> <p>六 前払式特定取引に関する取次ぎ先を有するときは、取次ぎに係る契約書の写し</p> <p>七 申請の日前一年間における前払式特定取引の方法による取引額</p> <p>三 第十二条第三項の規定は、法第三十五条の三の六十二において準用する法第十二条第三項の経済産業省令で定める電磁的記録に準用する。 (前払式特定取引契約約款の基準)</p> <p>第二百二十三条 法第三十五条の三の六十二において準用する法第十五条第一項第五号の経済産業省令で定める基準は、次のとおりとする。</p> <p>一 次の事項が記載される欄があること。</p> <p>イ 法第三十五条の三の六十一の許可を受けたる者(以下この章において「前払式特定取引業者」という。)の名称及び住所</p> <p>ロ 契約に係る商品又は指定役務の種類又は範囲</p> <p>ハ 購入者又は指定役務の提供を受ける者(以下この章において「購入者等」という。)が当該契約に基づき支払う金額の総額(以下「契約金額」という。)</p> <p>ニ 前払式特定取引に係る各回ごとの支払金額、その支払回数並びに支払の時期及び方法</p> <p>ホ 前払式特定取引契約約款の交付の時期及び交付の方法</p> <p>二 次の表の上欄の事項が記載されており、かつ、その内容がそれぞれ同表の下欄の基準に合致していること。</p>
----------------------------------	--	----------------	---

<p>七 契約の解除に関すること。</p>	<p>購入者等の支払義務の不履行により契約を解除する場合には、前払式特定取引業者が定める一定期間にわたる</p>	<p>六 営業保証金及び前受業務保証金の還付</p>	<p>三 商品の引渡し又は指定役務の提供の時期が商品の引渡し又は指定役務の提供を受ける前に支払うべき代金又は対価の完済後一月以内の一定の日以後と定められていること。</p> <p>四 購入者等が支払うべき契約金額以外の金銭があるかどうか、及び当該金銭がある場合におけるその額の決定について、購入者等が商品の引渡し又は指定役務の提供を受ける前に購入者等に必要と認められる内容を説明し、了解を得なければならぬ旨が定められていること。</p> <p>五 営業保証金若しくは前受業務保証金を供託している供託所又は供託委託契約の受託者の名称及び所在地が表示されていること。</p> <p>六 購入者等は、その契約によつて生じた債権に關し、営業保証金又は前受業務保証金から弁済を受けることができる旨が表示されていること。</p>
-----------------------	--	----------------------------	--

<p>九 契約の問合わせ等に関すること。</p>	<p>当該契約について購入者等が問合わせ、相談等を行うことができる機関の名称、住所及び電話番号が表示されていること。</p>	<p>八 契約の解除に伴う損害賠償等の額に関すること。</p>	<p>義務の不履行があつた場合であつて、前払式特定取引業者が二十日以上相当な期間を定めてその支払を書面で催告し、その期間内にその義務が履行されない場合に限り前払式特定取引業者の責に帰すべき事由により契約の目的を達することができなくなつた場合その他購入者等が必要と認める場合には、購入者等が当該契約を解除することができ旨及びその申出の申出の旨が定められていること。</p> <p>八 契約の解除に伴う損害賠償等の額に関すること。</p> <p>購入者等の責に帰すべき事由により契約を解除する場合には当該契約解除の日から、購入者等の申出により契約を解除する場合には七の項の申出があつた日から、それぞれ四十五日以内の一定の期間内に購入者等がすでに支払つた金額から契約の締結及び履行のために通常要する費用の額を控除した額の金銭を払い戻す旨が定められており、かつ、その額が購入者等が容易に計算することができ旨が表示されていること。ただし、前払式特定取引業者の責に帰すべき事由により契約を解除する場合には、遅滞なく、支払済金額及び支払済金額に法定利率を乗じた額以上の一定額の合計額の金銭を払い戻す旨が定められていること。</p>
--------------------------	--	---------------------------------	--

<p>ハ 購入者等の申出により契約を解除する場合(前払式特定取引業者の責に帰すべき事由により契約を解除する場合を除く。)に</p>	<p>四 前払式特定取引契約約款の内容を十分に読むべき旨</p> <p>ロ 法第三十五条の三の六十二において準用する法第十八条の三の規定により前払式特定取引業者が前受金の合計額の二分の一に相当する額について前受金保全措置を講じることが義務付けられている旨</p>	<p>十 前払式特定取引契約約款を交付する場合に於ては、その交付の時期及び交付の方法並びに購入者等から当該約款の再交付を求められたときは、遅滞なく、当該約款を再交付する旨が定められていること。</p>	<p>三 次の事項が記載されていないこと。</p> <p>イ 前払式特定取引契約約款の再交付をする場合において、その再交付に通常要する費用を超えて手数料を徴収すること。</p> <p>ロ 契約締結後に前払式特定取引業者が購入者等の同意を得ることなく及び民法第五百四十八条の四の規定によることなく契約内容の変更(契約金額の引上げを除く。)を行うことができること並びに購入者等の同意を得ることなく契約金額の引上げを行うことができること。</p> <p>ハ 法第三十五条の三の六十二において準用する法第二十七条第二項に規定する特約</p> <p>ニ 購入者等からの契約の解除ができない旨の特約</p> <p>ホ 当該契約に係る訴の属する裁判所の管轄につき購入者等に著しく不利となる特約</p> <p>ヘ 契約に係る商品又は指定役務の内容について、著しく事実と相違する事項若しくは実際のもよりも著しく優良であると人を誤認させるような事項又は商品又は指定役務の取引条件について、著しく有利であると人を誤認させるような事項</p> <p>ト イからヘまでに掲げるもののほか、法令に違反する特約又は購入者等に著しく不利となる特約</p> <p>四 次に掲げる事項を赤字で記載していること。</p> <p>イ 前払式特定取引契約約款の内容を十分に読むべき旨</p> <p>ロ 法第三十五条の三の六十二において準用する法第十八条の三の規定により前払式特定取引業者が前受金の合計額の二分の一に相当する額について前受金保全措置を講じることが義務付けられている旨</p>
---	---	--	---

- 四 前受業務保証金供託委託契約（以下「供託委託契約」という。）の締結の方法に関する事項
 - 五 委託手数料に関する事項
 - 六 供託委託契約の締結拒否の基準に関する事項
 - 七 委託者の業務及び財産の状況の調査方法に関する事項
 - 八 資産の運用方法に関する事項
 - 九 その他業務の運営に必要事項
- 2 法第三十五条の四第三項の事業計画書には、指定後三事業年度（事業年度が六月の法人にあつては、六事業年度）の主要な委託者別受託事業計画、収支計画及び資金計画を記載しなければならない。

- 三 委託者の通関業務に関する事項
 - 四 調査に関する事項
- 委託者の業務の運営に重大な影響を及ぼすおそれのある事実が生じた場合には、委託者は、当該事実を、遅滞なく、受託者に通知すべき旨が定められていること。
- 受託者は、受託事業を遂行する上で必要と認められる場合には、委託者の業務及び財産の状況について調査を行い、又は報告を求めることができる旨が定められていること。

- 第六章** クレジットカード番号等の適切な管理等
- 第一節** クレジットカード番号等の適切な管理
- 第三十二条** 法第三十五条の十六第一項の経済産業省令で定める基準は、次のとおりとする。
- 一 クレジットカード番号等の漏えい、滅失、毀損その他のクレジットカード番号等の管理に係る事故（以下「漏えい等の事故」という。）の発生を防止するため必要かつ適切な措置を講ずること。
 - 二 クレジットカード番号等取扱業者において漏えい等の事故が発生し、又は発生したおそれがあるときは、直ちに当該事故の状況を把握し、当該事故の拡大を防止するとともに当該事故の状況に応じて速やかに、その原因を究明するために必要な調査（当該事故に係るクレジットカード番号等の特定を含む。）を行うこと。
 - 三 クレジットカード番号等取扱業者又はクレジットカード番号等取扱受託業者において漏えい等の事故が発生し、又は発生したおそれがあるときは、当該事故に係るクレジットカード番号等を利用し、当該カード番号等購入あつせん業者は当該利用者以外の者が当該クレジットカード番号等を通知して特定の販売業者から商品若しくは権利を購入し、又は特定の役務提供事業者から役務の提供を受けることを防止するために必要な措置を講ずること。
 - 四 クレジットカード番号等取扱業者において漏えい等の事故が発生し、又は発生したおそれがあるときは、当該クレジットカード番号等取扱業者は類似の漏えい等の事故の再発防止のために必要な措置を講ずること。
 - 五 クレジットカード番号等をクレジットカード等購入あつせんに係る取引の健全な発達を阻害し、又は利用者若しくは購入者等の利益の保護に欠ける方法により取り扱わないこと。

- 2 クレジットカード番号等取扱業者は、あらかじめクレジットカード番号等取扱受託業者に、次に掲げる措置を講じさせるために必要な措置を講じなければならない。
- 一 クレジットカード番号等取扱業者において漏えい等の事故が発生し、又は発生したおそれがあるときは、直ちに当該事故の状況を把握し、その状況を当該クレジットカード番号等取扱業者に対して連絡するとともに当該事故の拡大を防止すること。
- 二 クレジットカード番号等取扱受託業者において漏えい等の事故が発生し、又は発生したおそれがあるときは、当該事故の状況に応じて速やかに、その原因を究明するために必要な調査（当該事故に係るクレジットカード番号等の特定を含む。）を行い、当該調査の結果を当該クレジットカード番号等取扱業者に通知すること。
- 三 クレジットカード番号等取扱受託業者において漏えい等の事故が発生し、又は発生したおそれがあるときは類似の漏えい等の事故の再発防止のために必要な措置
- 四 前各号に掲げるもののほか、クレジットカード番号等の適切な管理のために必要な措置

- イ 供託委託契約の受託者（以下単に「受託者」という。）の名称及び住所
 - ロ 委託者の名称及び住所
 - ハ 契約番号
 - ニ 契約年月日
 - ホ 供託委託契約に基づく受託額
 - ヘ 委託手数料の額
 - ト 契約期間
- 二 次の表の上欄の事項が記載されており、かつ、その内容がそれぞれ同表の下欄の基準に合致していること。

- 2 前項の規定による届出書には、次の書面を添付しなければならない。
- 一 変更の届出が商号、本店その他の営業所の名称若しくは所在地、資本金の額、役員の氏名若しくは住所又は定款に係るものであるときは、その変更を証する書面
- 二 変更の届出が新たに就任した役員に係るものであるときは、当該役員の履歴書及び第二百二十六条第二項第四号に掲げる書面（法第三十五条の五第七号に係るものに限る。）

- 第三十三条** 法第三十五条の七第一項の規定による届出は、様式第二十四による届出書を提出してしなければならない。
- 第三十一条** 法第三十五条の八第一項の事業計画書等（事業計画書等の提出）
- 第三十二条** 法第三十五条の十六第一項の経済産業省令で定める基準は、次のとおりとする。

- 2 クレジットカード番号等取扱業者は、あらかじめクレジットカード番号等取扱受託業者に、次に掲げる措置を講じさせるために必要な措置を講じなければならない。
- 一 クレジットカード番号等取扱業者において漏えい等の事故が発生し、又は発生したおそれがあるときは、直ちに当該事故の状況を把握し、その状況を当該クレジットカード番号等取扱業者に対して連絡するとともに当該事故の拡大を防止すること。
- 二 クレジットカード番号等取扱受託業者において漏えい等の事故が発生し、又は発生したおそれがあるときは、当該事故の状況に応じて速やかに、その原因を究明するために必要な調査（当該事故に係るクレジットカード番号等の特定を含む。）を行い、当該調査の結果を当該クレジットカード番号等取扱業者に通知すること。
- 三 クレジットカード番号等取扱受託業者において漏えい等の事故が発生し、又は発生したおそれがあるときは類似の漏えい等の事故の再発防止のために必要な措置
- 四 前各号に掲げるもののほか、クレジットカード番号等の適切な管理のために必要な措置

記載すべき事項	内容の基準
一 供託義務に関する事項	供託義務の発生事由及び内容が法第十八条の三第三項（法第三十五条の三の六十二において準用する場合を含む。）の規定に合致していること。
二 供託義務の履行に必要と認められたときは、委託者に担保を提供させることができる旨が定められていること。	受託者は、供託義務の履行により生ずる債権の保全のため必要と認められたときは、委託者に担保を提供させることができる旨が定められていること。

- 3 法第三十五条の八第三項の規定による事業報告書は、様式第二十六によるものとする。

- 第三十二条** 法第三十五条の十六第一項の経済産業省令で定める者は、特定のクレジットカード等購入あつせんで関係販売業者又はクレジットカード等購入あつせんで関係役務提供事業者のために、クレジットカード番号等

- 4 クレジットカード番号等取扱業者は、クレジットカード番号等取扱受託業者において漏えい等の事故が発生し、又は発生したおそれがあるときは、当該クレジットカード番号等取扱受託業者に対し、当該事故の状況に応じて速やかに、その原因を究明するために必要な調査（当該

該事故に係るクレジットカード番号等の特定を含む。を行い、当該調査の結果を当該クレジットカード番号等取扱業者に通知することについて指導しなければならない。

5 クレジットカード番号等取扱業者は、漏えい等の事故が発生させたクレジットカード番号等取扱業者等又はそのおそれがあるクレジットカード番号等取扱業者に対し、類似の漏えい等の事故の再発防止のために必要な措置を講ずることについて指導しなければならない。

6 クレジットカード番号等取扱業者は、クレジットカード番号等受託業者においてクレジットカード番号等の適切な管理が図られるよう、クレジットカード番号等取扱業者に対する指導その他の必要な措置を講じなければならない。

第二節 クレジットカード番号等取扱契約

（登録の申請）
第百三十三条の二 法第三十五条の十七の第三項の申請書は、様式第二十六の二によるものとする。

2 法第三十五条の十七の第三項の経済産業省令で定める書類は、次のとおりとする。

- 一 役員名簿
- 二 株主若しくは社員の名簿及び親会社の株主若しくは社員の名簿又はこれらに代わる書面
- 三 クレジットカード番号等取扱契約の締結に係る業務及び法第三十五条の十七の八第一項又は第三項の規定による調査に関する社内規則等（クレジットカード番号等取扱契約締結事業者又はその役員、使用人その他の従業者が遵守すべき規則その他これに準ずるものであつてクレジットカード番号等取扱契約締結事業者が作成するものをいう。次条において同じ。）
- 四 クレジットカード番号等取扱契約の締結に係る業務及び法第三十五条の十七の八第一項又は第三項の規定による調査に関する組織図
- 五 法第三十五条の十七の五第一項第三号から第八号までの規定に該当しないことを誓約する書面

3 第十二条第三項の規定は、法第三十五条の十七の第三項の経済産業省令で定める電磁的記録に準用する。

7（クレジットカード番号等取扱契約の締結に係る業務等の適確な実施を確保するために必要な体制）

第百三十三条の三 法第三十五条の十七の五第一項第八号に規定する経済産業省令で定める体制は、次のとおりとする。

- 一 クレジットカード番号等取扱契約の締結に係る業務又は法第三十五条の十七の八第一項若しくは第三項の規定による調査を第三者に委託する場合には、次に掲げる措置の適確な実施を確保するために必要な体制
- イ 当該業務又は当該調査を適確に遂行することが出来る能力を有する者に委託するための措置
- ロ 当該業務又は当該調査の委託を受けた者（以下この号において「受託者」という。）における当該業務又は当該調査の実施状況を、定期的に又は必要に応じて確認すること等により、受託者が当該業務又は当該調査を適確に遂行しているかを検証し、必要に応じ改善させる等、受託者に対する必要かつ適切な監督等を行うための措置
- ハ 受託者が当該業務又は当該調査を適切に行うことができない事態が生じた場合に他の適切な第三者に当該業務又は当該調査を速やかに委託する等、当該業務又は当該調査に係る利用者又は購入者等の利益の保護に支障が生じること等を防止するための措置

二 受託者が当該業務又は当該調査を適確に遂行していない場合であつて当該業務又は当該調査に係るクレジットカード番号等の適切な管理等を図るため必要がある場合には、当該業務又は当該調査の委託に係る契約の変更又は解除をする等の必要な措置を講ずるための措置

二 クレジットカード番号等取扱契約の締結に係る業務及び法第三十五条の十七の八第一項又は第三項の規定による調査の適確な実施を確保するため十分な社内規則等を定めていること。

- 三 法若しくは法の規定に基づく命令又は社内規則等を遵守するために必要な体制
- 二 前項第二号の社内規則等はクレジットカード番号等取扱契約の締結に係る業務又は法第三十五条の十七の八第一項又は第三項の規定による調査に関する責任体制を明確化する規定を含むものでなければならない。

2（変更の届出）

第百三十三条の四 法第三十五条の十七の六第一項の届出は、様式第二十六の三による届出書を提出しなければならない。

2 法第三十五条の十七の六第三項において準用する法第三十五条の十七の第三項の経済産業省令で定める書類は、次のとおりとする。

- 一 その変更に係る事項を証する書類
- 二 その変更が新たに就任した役員に係るものであるときは、当該役員の名簿及び第百三十三条の二第二号に掲げる書面（法第三十五条の十七の五第一項第五号に係るものに限る。）

3 第十二条第三項の規定は、法第三十五条の十七の六第三項において準用する法第三十五条の十七の第三項の経済産業省令で定める電磁的記録に準用する。

第百三十三条の五 法第三十五条の十七の八第一項の経済産業省令で定める事項は、次のとおりとする。

- 一 クレジットカード番号等取扱契約を締結しようとする販売業者若しくは役務提供事業者（以下「加盟申込店」という。）又はクレジットカード番号等取扱契約を締結したクレジットカード等購入あつせん関係販売業者若しくはクレジットカード等購入あつせん関係役務提供事業者（以下「加盟店」という。）に関する基本的な事項
- 二 加盟申込店がクレジットカード等購入あつせんに係る販売の方法により販売しようとする商品若しくは権利若しくは提供しようとする役務又は加盟店がクレジットカード等購入あつせんに係る販売方法により販売する商品若しくは権利若しくは提供する役務に関する事項
- 三 加盟申込店が講じようとし、又は加盟店が講じる法第三十五条の十六第一項及び第三項並びに法第三十五条の十七の十五に規定する措置に関する事項
- 四 加盟申込店又は加盟店がクレジットカード等購入あつせんに係る販売の方法により商品若しくは権利を販売する契約又は役務を提供する契約に関して行つた法第三十五条の三の七各号のいずれかに該当する行為の有無及びその内容
- 五 加盟申込店又は加盟店がクレジットカード等購入あつせんに係る販売の方法により商品若しくは権利を販売する契約又は役務を提供する契約に関し、前号に掲げる行為をすることを防止するために必要な体制の整備の状況に関する事項
- 六 加盟申込店又は加盟店によるクレジットカード等購入あつせんに係る業務に関する利用

者又は購入者等の利益の保護に欠ける行為に係る苦情の発生状況

- 七 加盟申込店又は加盟店がクレジットカード等購入あつせんに係る販売の方法により商品若しくは権利を販売する契約又は役務を提供する契約に関し、前号に掲げる行為（第四号に該当する行為を除く。）をすることを防止するために必要な体制及び当該加盟申込店又は当該加盟店によるクレジットカード等購入あつせんに係る業務に関する苦情を適切かつ迅速に処理するために必要な体制の整備の状況に関する事項
- 八 前各号に掲げる事項のほか、加盟申込店又は加盟店によるクレジットカード番号等の適切な管理等を図るために必要かつ適切な事項

第百三十三条の六 法第三十五条の十七の八第一項の規定により前条各号に定める事項の調査については、次項から第九項までに定めるところによる。ただし、前条第六号及び第七号に定める事項の調査については、次の各号に掲げる場合の区分に応じ、当該各号に定めるところによることができる。

- 一 次項及び第三項に基づく調査の結果その他の事情からみて、加盟申込店がクレジットカード等購入あつせんに係る販売の方法により商品若しくは権利を販売する契約又は役務を提供する契約に関し、利用者又は購入者等の利益の保護に欠ける行為を行う危険性の程度が低いと認められる場合
- 第七項及び第八項に基づく調査を省略し又は第七項及び第八項に定める調査手法のうち、より簡易な方法による調査によること。
- 二 先進的な技術又は手法を用いた調査により、加盟申込店がクレジットカード等購入あつせんに係る販売の方法により商品若しくは権利を販売する契約又は役務を提供する契約に関し、利用者又は購入者等の利益の保護に欠ける行為を行う危険性の程度が低いと認められる場合
- 第七項に基づく調査と同等の効果をもつて第七項に基づく調査に代えること。

2 前条第一号に定める事項は、次に掲げる事項を含むものでなければならない。

- 一 加盟申込店が行う取引の種類
- 二 加盟申込店の氏名、生年月日、住所及び電話番号（法人にあつては、名称、住所、電話

- 一 脱毛 光の照射又は針を通じて電気を流すことによる方法
- 二 にきび、しみ、そばかす、ほくろ、入れ墨その他の皮膚に付着しているものの除去又は皮膚の活性化 光若しくは音波の照射、薬剤の使用又は機器を用いた刺激による方法
- 三 皮膚のしわ又はたるみの症状の軽減 薬剤の使用又は糸の挿入による方法
- 四 脂肪の減少 光若しくは音波の照射、薬剤の使用又は機器を用いた刺激による方法
- 五 歯牙の漂白 歯牙の漂白剤の塗布による方法

附則

この省令は、法の施行の日（昭和三十六年十二月一日）から施行する。

附則（昭和四三年八月一日）

この省令は、昭和四十四年八月二十五日から施行する。

この省令は、昭和四十四年八月二十五日から施行する。

附則（昭和四七年二月一日）

この省令は、昭和四十八年三月十五日から施行する。

この省令は、昭和四十八年三月十五日から施行する。

この省令は、昭和四十八年三月十五日から施行する。

この省令は、昭和四十八年三月十五日から施行する。

この省令は、昭和四十八年三月十五日から施行する。

この省令は、昭和四十八年三月十五日から施行する。

この省令は、昭和四十八年三月十五日から施行する。

この省令は、昭和四十八年三月十五日から施行する。

この省令は、昭和四十八年三月十五日から施行する。

この省令は、昭和四十八年三月十五日から施行する。

この省令は、昭和四十八年三月十五日から施行する。

この省令は、昭和四十八年三月十五日から施行する。

この省令は、昭和四十八年三月十五日から施行する。

（施行期日）

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、昭和四十九年三月十五日から施行する。

この省令は、昭和四十九年三月十五日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

この省令は、公布の日から施行する。

第三十五条の三の五十六第二項の規定にかかわらず、加入指定信用情報機関に対し、新省令百十八条第一項第五号から第七号までに掲げる事項の提供を行わないことができる。ただし、この場合において、加入包括信用購入あっせん業者は当該事項を得るよう努め、当該事項を得たときは、遅滞なく、加入指定信用情報機関に当該事項を提供しなければならない。

第九号 新省令百十八条第二項第一号イ及び第二号イの規定は、購入者等が一年間に支払うことが見込まれる額を加入指定信用情報機関に提供しない加入包括信用購入あっせん業者及び加入個別信用購入あっせん業者については、改正法附則第一条第三号に掲げる規定の施行の日までの間は、適用しない。

第十条 新法第三十五条の三の五十七第二項の規定は、加入包括信用購入あっせん業者が新省令百十九条第二項の規定により新法第三十五条の三の五十七第二項各号に掲げる同意を購入者等から書面又は電磁的方法により包括的に得ようとする場合であつて、当該加入包括信用購入あっせん業者が当該購入者等から同意を得ようとする包括信用購入あっせん関係受領契約が次に掲げる時分に当該加入包括信用購入あっせん業者がカード等を交付し又は付与している当該購入者等を相手方とするものである場合は、適用しない。

一 包括信用購入あっせん業者と特定信用情報提供契約を締結している特定信用情報提供等業務を行う者が、新法第三十五条の三の三十六第一項の指定を受けた時

二 包括信用購入あっせん業者が指定信用情報機関と特定信用情報提供契約を締結した時

第十一条 この省令の施行の前に新省令百三十三条第一項の規定の例により講じた措置は、同項の規定により講じた措置とみなす。

附則（平成二十二年八月三十一日経済産業省令第五一号）

この省令は、公布の日から施行する。

附則（平成二十四年三月三〇日経済産業省令第二七号）

この省令は、民法等の一部を改正する法律の施行の日（平成二十四年四月一日）から施行する。

附則（平成二十四年七月六日経済産業省令第五〇号）

第一条 この省令は、出入国管理及び難民認定法及び日本国との平和条約に基づき日本の国籍を

（施行期日）

離脱した者等の出入国管理に関する特例法の一部を改正する等の法律（以下「改正法」という。）の施行の日（平成二十四年七月九日）から施行する。ただし、本則中百十八条第一項の改正規定（同項第六号の改正規定中「運転免許証の番号」を「運転免許証等（運転免許証又は運転経歴証明書を用いる。以下この号において同じ。）の番号」に、「運転免許証」を「運転免許証等」に、「当該運転免許証」を「当該運転免許証等」に）に改める部分及び同項第七号の改正規定中「又は外国人登録証明書」を「在留カード又は特別永住者証明書」に改める部分を除く。）は、平成二十五年四月一日から施行する。

（運転経歴証明書に関する経過措置）

第二条 平成二十四年四月一日前に交付された運転経歴証明書に対するこの省令による改正後の割賦販売法施行規則（以下「新規則」という。）百十八条第一項第六号の規定の適用については、なお従前の例による。

（外国人登録証明書等に関する経過措置）

第三条 新規則百十八条第一項第七号の適用については、中长期在留者が所持する外国人登録証明書は在留カードとみなし、特別永住者が所持する外国人登録証明書は特別永住者証明書とみなす。

2 前項の規定により外国人登録証明書が在留カードとみなされる期間は改正法附則第十五条第二項各号に定める期間とし、特別永住者証明書とみなされる期間は改正法附則第二十八条第二項各号に定める期間とする。

附則（平成二十八年八月二日経済産業省令第八八号）

この省令は、犯罪による収益の移転防止に関する法律施行規則の一部を改正する命令の施行の日（平成二十八年十月一日）から施行する。

附則（平成二十九年一月二日内閣府・経済産業省令第二号）

（施行期日）

第一条 この命令は、割賦販売法の一部を改正する法律（平成二十八年法律第九十九号）の施行の日から施行する。ただし、第四百十二条の改正規定については、特定商取引に関する法律の一部を改正する法律（平成二十八年法律第六十号）の施行の日（平成二十九年十二月一日）から施行する。

（経過措置）

第二条 この命令による改正後の割賦販売法施行規則第三百六十六条表第一項及び様式第二十八の

規定は、この命令の施行の日以後に終了する事業年度に係る提出書類から適用し、同日前に終了する事業年度に係る提出書類については、なお従前の例による。

附則（平成三十一年一月三〇日経済産業省令第六八号）

この省令は、公布の日から施行する。ただし、第二表の規定は、平成三十二年四月一日から施行する。

附則（令和元年七月一日経済産業省令第七号）

この省令は、不正競争防止法等の一部を改正する法律の施行の日（令和元年七月一日）から施行する。

附則（令和元年九月一日経済産業省令第三六号）

この省令は、成年被後見人等の権利の制限に係る措置の適正化等を図るための関係法律の整備に関する法律の施行の日（令和元年九月十四日）から施行する。

附則（令和元年十二月二日経済産業省令第四九号）

この省令は、情報通信技術の活用による行政手続等に係る関係者の利便性の向上並びに行政運営の簡素化及び効率化を図るための行政手続等における情報通信の技術の利用に関する法律等の一部を改正する法律の施行の日から施行する。

附則（令和二年三月三十一日内閣府・経済産業省令第二号）

この命令は、民法の一部を改正する法律の施行の日（令和二年四月一日）から施行する。

附則（令和二年一月二日経済産業省令第八一号）

この省令は、令和二年十月一日から施行する。

附則（令和二年二月二六日内閣府・経済産業省令第六号）

この命令は、割賦販売法の一部を改正する法律の施行の日から施行する。

附則（令和二年二月二八日経済産業省令第九二号）

（施行期日）

第一条 この省令は、公布の日から施行する。

（経過措置）

第二条 この省令の施行の際現にあるこの省令による改正前の様式（次項において「旧様式」という。）により使用されている書類（第九十二条による改正前の電気事業法等の一部を改正する等の法律の施行に伴う経過措置に関する省令様式第十三を除く。）は、この省令による改正後の様式によるものとみなす。

2 この省令の施行の際現にある旧様式による用紙（第九十二条による改正前の電気事業法等の一部を改正する等の法律の施行に伴う経過措置に関する省令様式第十三を除く。）については、当分の間、これを取り替えて使用することができる。

附則（令和三年三月一日経済産業省令第一〇号）抄

（施行期日）

第一条 この省令は、会社法の一部を改正する法律の施行の日（令和三年三月一日。次条において「施行日」という。）から施行する。

附則（令和三年七月一日経済産業省令第六一号）

この省令は、令和三年七月十九日から施行する。

附則（令和四年三月三十一日経済産業省令第三六号）

この省令は、令和四年四月一日から施行する。

附則（令和五年二月二〇日内閣府・経済産業省令第六号）

（施行期日）

1 この命令は、令和五年十二月二十五日から施行する。

（経過措置）

2 この命令の施行前に、この命令による改正前の割賦販売法施行規則第三百七条の規定により交付された様式第三十二の立入検査証の効力については、なお従前の例による。

附則（令和六年三月二九日経済産業省令第二三三号）

この省令は、令和六年四月一日から施行する。

別表第一

一次の算式により算定すること。

（経過措置）

第一条 この命令による改正後の割賦販売法施行規則第三百六十六条表第一項及び様式第二十八の

規定は、この命令の施行の日以後に終了する事業年度に係る提出書類から適用し、同日前に終了する事業年度に係る提出書類については、なお従前の例による。

附則（平成三十一年一月三〇日経済産業省令第六八号）

この省令は、公布の日から施行する。ただし、第二表の規定は、平成三十二年四月一日から施行する。

附則（令和元年七月一日経済産業省令第七号）

この省令は、不正競争防止法等の一部を改正する法律の施行の日（令和元年七月一日）から施行する。

附則（令和元年九月一日経済産業省令第三六号）

この省令は、成年被後見人等の権利の制限に係る措置の適正化等を図るための関係法律の整備に関する法律の施行の日（令和元年九月十四日）から施行する。

附則（令和元年十二月二日経済産業省令第四九号）

この省令は、情報通信技術の活用による行政手続等に係る関係者の利便性の向上並びに行政運営の簡素化及び効率化を図るための行政手続等における情報通信の技術の利用に関する法律等の一部を改正する法律の施行の日から施行する。

附則（令和二年三月三十一日内閣府・経済産業省令第二号）

この命令は、民法の一部を改正する法律の施行の日（令和二年四月一日）から施行する。

附則（令和二年一月二日経済産業省令第八一号）

この省令は、令和二年十月一日から施行する。

附則（令和二年二月二六日内閣府・経済産業省令第六号）

この命令は、割賦販売法の一部を改正する法律の施行の日から施行する。

附則（令和二年二月二八日経済産業省令第九二号）

（施行期日）

第一条 この省令は、公布の日から施行する。

（経過措置）

第二条 この省令の施行の際現にあるこの省令による改正前の様式（次項において「旧様式」という。）により使用されている書類（第九十二条による改正前の電気事業法等の一部を改正する等の法律の施行に伴う経過措置に関する省令様式第十三を除く。）は、この省令による改正後の様式によるものとみなす。

2 この省令の施行の際現にある旧様式による用紙（第九十二条による改正前の電気事業法等の一部を改正する等の法律の施行に伴う経過措置に関する省令様式第十三を除く。）については、当分の間、これを取り替えて使用することができる。

附則（令和三年三月一日経済産業省令第一〇号）抄

（施行期日）

第一条 この省令は、会社法の一部を改正する法律の施行の日（令和三年三月一日。次条において「施行日」という。）から施行する。

附則（令和三年七月一日経済産業省令第六一号）

この省令は、令和三年七月十九日から施行する。

附則（令和四年三月三十一日経済産業省令第三六号）

この省令は、令和四年四月一日から施行する。

附則（令和五年二月二〇日内閣府・経済産業省令第六号）

（施行期日）

1 この命令は、令和五年十二月二十五日から施行する。

（経過措置）

2 この命令の施行前に、この命令による改正前の割賦販売法施行規則第三百七条の規定により交付された様式第三十二の立入検査証の効力については、なお従前の例による。

附則（令和六年三月二九日経済産業省令第二三三号）

この省令は、令和六年四月一日から施行する。

別表第一

一次の算式により算定すること。

（経過措置）

第一条 この命令による改正後の割賦販売法施行規則第三百六十六条表第一項及び様式第二十八の

規定は、この命令の施行の日以後に終了する事業年度に係る提出書類から適用し、同日前に終了する事業年度に係る提出書類については、なお従前の例による。

附則（平成三十一年一月三〇日経済産業省令第六八号）

この省令は、公布の日から施行する。ただし、第二表の規定は、平成三十二年四月一日から施行する。

附則（令和元年七月一日経済産業省令第七号）

この省令は、不正競争防止法等の一部を改正する法律の施行の日（令和元年七月一日）から施行する。

附則（令和元年九月一日経済産業省令第三六号）

この省令は、成年被後見人等の権利の制限に係る措置の適正化等を図るための関係法律の整備に関する法律の施行の日（令和元年九月十四日）から施行する。

附則（令和元年十二月二日経済産業省令第四九号）

この省令は、情報通信技術の活用による行政手続等に係る関係者の利便性の向上並びに行政運営の簡素化及び効率化を図るための行政手続等における情報通信の技術の利用に関する法律等の一部を改正する法律の施行の日から施行する。

附則（令和二年三月三十一日内閣府・経済産業省令第二号）

この命令は、民法の一部を改正する法律の施行の日（令和二年四月一日）から施行する。

附則（令和二年一月二日経済産業省令第八一号）

この省令は、令和二年十月一日から施行する。

附則（令和二年二月二六日内閣府・経済産業省令第六号）

この命令は、割賦販売法の一部を改正する法律の施行の日から施行する。

附則（令和二年二月二八日経済産業省令第九二号）

（施行期日）

第一条 この省令は、公布の日から施行する。

（経過措置）

第二条 この省令の施行の際現にあるこの省令による改正前の様式（次項において「旧様式」という。）により使用されている書類（第九十二条による改正前の電気事業法等の一部を改正する等の法律の施行に伴う経過措置に関する省令様式第十三を除く。）は、この省令による改正後の様式によるものとみなす。

2 この省令の施行の際現にある旧様式による用紙（第九十二条による改正前の電気事業法等の一部を改正する等の法律の施行に伴う経過措置に関する省令様式第十三を除く。）については、当分の間、これを取り替えて使用することができる。

附則（令和三年三月一日経済産業省令第一〇号）抄

（施行期日）

第一条 この省令は、会社法の一部を改正する法律の施行の日（令和三年三月一日。次条において「施行日」という。）から施行する。

附則（令和三年七月一日経済産業省令第六一号）

この省令は、令和三年七月十九日から施行する。

附則（令和四年三月三十一日経済産業省令第三六号）

この省令は、令和四年四月一日から施行する。

附則（令和五年二月二〇日内閣府・経済産業省令第六号）

（施行期日）

1 この命令は、令和五年十二月二十五日から施行する。

（経過措置）

2 この命令の施行前に、この命令による改正前の割賦販売法施行規則第三百七条の規定により交付された様式第三十二の立入検査証の効力については、なお従前の例による。

附則（令和六年三月二九日経済産業省令第二三三号）

この省令は、令和六年四月一日から施行する。

別表第一

一次の算式により算定すること。

（経過措置）

第一条 この命令による改正後の割賦販売法施行規則第三百六十六条表第一項及び様式第二十八の

規定は、この命令の施行の日以後に終了する事業年度に係る提出書類から適用し、同日前に終了する事業年度に係る提出書類については、なお従前の例による。

附則（平成三十一年一月三〇日経済産業省令第六八号）

この省令は、公布の日から施行する。ただし、第二表の規定は、平成三十二年四月一日から施行する。

附則（令和元年七月一日経済産業省令第七号）

この省令は、不正競争防止法等の一部を改正する法律の施行の日（令和元年七月一日）から施行する。

附則（令和元年九月一日経済産業省令第三六号）

この省令は、成年被後見人等の権利の制限に係る措置の適正化等を図るための関係法律の整備に関する法律の施行の日（令和元年九月十四日）から施行する。

附則（令和元年十二月二日経済産業省令第四九号）

この省令は、情報通信技術の活用による行政手続等に係る関係者の利便性の向上並びに行政運営の簡素化及び効率化を図るための行政手続等における情報通信の技術の利用に関する法律等の一部を改正する法律の施行の日から施行する。

附則（令和二年三月三十一日内閣府・経済産業省令第二号）

この命令は、民法の一部を改正する法律の施行の日（令和二年四月一日）から施行する。

附則（令和二年一月二日経済産業省令第八一号）

この省令は、令和二年十月一日から施行する。

附則（令和二年二月二六日内閣府・経済産業省令第六号）

この命令は、割賦販売法の一部を改正する法律の施行の日から施行する。

附則（令和二年二月二八日経済産業省令第九二号）

（施行期日）

第一条 この省令は、公布の日から施行する。

（経過措置）

第二条 この省令の施行の際現にあるこの省令による改正前の様式（次項において「旧様式」という。）により使用されている書類（第九十二条による改正前の電気事業法等の一部を改正する等の法律の施行に伴う経過措置に関する省令様式第十三を除く。）は、この省令による改正後の様式によるものとみなす。

2 この省令の施行の際現にある旧様式による用紙（第九十二条による改正前の電気事業法等の一部を改正する等の法律の施行に伴う経過措置に関する省令様式第十三を除く。）については、当分の間、これを取り替えて使用することができる。

附則（令和三年三月一日経済産業省令第一〇号）抄

（施行期日）

第一条 この省令は、会社法の一部を改正する法律の施行の日（令和三年三月一日。次条において「施行日」という。）から施行する。

附則（令和三年七月一日経済産業省令第六一号）

この省令は、令和三年七月十九日から施行する。

附則（令和四年三月三十一日経済産業省令第三六号）

この省令は、令和四年四月一日から施行する。

附則（令和五年二月二〇日内閣府・経済産業省令第六号）

（施行期日）

1 この命令は、令和五年十二月二十五日から施行する。

（経過措置）

2 この命令の施行前に、この命令による改正前の割賦販売法施行規則第三百七条の規定により交付された様式第三十二の立入検査証の効力については、なお従前の例による。

附則（令和六年三月二九日経済産業省令第二三三号）

この省令は、令和六年四月一日から施行する。

別表第一

一次の算式により算定すること。

$$R = \frac{F}{\sum_{i=1}^n U_i \cdot T_i}$$

イ この式において、R、F、n及びTiは、それぞれ次の値を表すものとする。

R 割賦手数料(ローン提携販売にあつては、融資手数料、包括信用購入あつせん又は個別信用購入あつせんにあつては、包括信用購入あつせん又は個別信用購入あつせんの手数料。以下同じ。)の料率
F 割賦手数料の総額
n 支払回数(ローン提携販売にあつては、返済回数)
Ti 前回の賦払金(ローン提携販売にあつては、分割返済金、包括信用購入あつせん又は個別信用購入あつせんにあつては、支払分。以下同じ。)の支払日から当該賦払金の支払日の前日までの期間又は契約の締結された日から第一回の賦払金の支払日の前日までの期間(年を単位として表すものとする)。ただし、契約の締結された日から第一回の賦払金の支払日の前日までの期間については、当該期間が二月未満の場合は、十二分の一年とすることができる。

ロ Uiは、次の値とし、当該値を算式に代入してRを計算するものとする。

(1) iが一のときは、商品若しくは権利の現金販売価格又は役務の現金提供価格(割賦販売業者(ローン提携販売にあつては、ローン提携販売業者、包括信用購入あつせん又は個別信用購入あつせんにあつては、包括信用購入あつせん関係販売業者若しくは包括信用購入あつせん関係提供事業者又は個別信用購入あつせん関係販売業者若しくは個別信用購入あつせん関係提供事業者。以下同じ。)が購入者等から頭金若しくは初回金又は申込金の支払を受けている場合にあつては、これらの金額を控除した額)
(2) iが二以上のときは、次に掲げる値

Piは、各回の賦払金の額とする。

(3) 賦払金の額が、第一条第二項第二号ロ、第二十七条第一項第三号又は第三十

$$U_i = U_{i-1} + [P_{i-1} - (R \cdot U_{i-1} - T_{i-1})]$$

六条第五項第二号ロに掲げる場合に該当する場合にあつては、賦払金の額が全て等しいものとして計算することができるものとし、第一条第二項第二号ハ、第二十七条第二項第二号ハ又は第三十六条第五項第二号ハに掲げる場合に該当する場合にあつては、特定月の賦払金又は特定月の賦払金を除く賦払金の額が全て等しいものとして計算することができる。

二 前号の算式により、Uiの値を同号ロに掲げる値に代えて、次に掲げる値として算定すること。

(1) iが一のときは、商品若しくは権利の現金販売価格又は役務の現金提供価格(割賦販売業者が購入者等から頭金若しくは初回金又は申込金の支払を受けている場合にあつては、これらの金額を控除した額)
(2) iが二以上のときは、賦払金の支払日の前日における元本の額

三 次の算式により算出すること。
 $R = r / T$

この式において、R、r及びTは、それぞれ次の値を表すものとする。

R 割賦手数料の料率
r 一の時期に支払うべき割賦手数料の額を、当該手数料を算出するための基準日における元本の額で除した値
T 弁済金を支払うべき時期と時期との間隔(年を単位として表すものとする。)

別表第二

欄上	欄下
人二 利用する又は購入者等又はその配偶者が自居の居住の用に供する建物(当該建物が十二以上ある場合には、これらの建物のうち、当該利用する又は購入者等が主として居住の用に供する一の建物に限る。以下この表において「住宅」という。)を所有し、かつ、当該住宅の建設又は購入に必要な資金(住宅の用に供する土地又は借地権の取得に必要な資金を含む。以下この表において同じ。)の貸付けに係る契約を締結していない場合	人三 利用する又は購入者等又はその配偶者が自居の居住の用に供する建物(当該建物が十二以上ある場合には、これらの建物のうち、当該利用する又は購入者等が主として居住の用に供する一の建物に限る。以下この表において「住宅」という。)を所有し、かつ、当該住宅の建設又は購入に必要な資金(住宅の用に供する土地又は借地権の取得に必要な資金を含む。以下この表において同じ。)の貸付けに係る契約を締結していない場合

利用する又は購入者等又はその配偶者が住宅を所有せず、かつ、当該住宅の借賃を支払わない場合	利用する又は購入者等又はその配偶者が住宅を所有せず、かつ、当該住宅の借賃を支払う場合
利用する又は購入者等又はその配偶者が住宅を所有し、かつ、当該住宅の建設又は購入に必要な資金の貸付けに係る契約を締結している場合	利用する又は購入者等又はその配偶者が住宅を所有し、かつ、当該住宅の建設又は購入に必要な資金の貸付けに係る契約を締結していない場合
利用する又は購入者等又はその配偶者が住宅を所有せず、かつ、当該住宅の借賃を支払う場合	利用する又は購入者等又はその配偶者が住宅を所有せず、かつ、当該住宅の借賃を支払う場合

利用する又は購入者等又はその配偶者が住宅を所有し、かつ、当該住宅の建設又は購入に必要な資金の貸付けに係る契約を締結している場合	利用する又は購入者等又はその配偶者が住宅を所有し、かつ、当該住宅の建設又は購入に必要な資金の貸付けに係る契約を締結していない場合
利用する又は購入者等又はその配偶者が住宅を所有せず、かつ、当該住宅の借賃を支払う場合	利用する又は購入者等又はその配偶者が住宅を所有せず、かつ、当該住宅の借賃を支払う場合

利用する又は購入者等又はその配偶者が住宅を所有し、かつ、当該住宅の建設又は購入に必要な資金の貸付けに係る契約を締結している場合	利用する又は購入者等又はその配偶者が住宅を所有し、かつ、当該住宅の建設又は購入に必要な資金の貸付けに係る契約を締結していない場合
利用する又は購入者等又はその配偶者が住宅を所有せず、かつ、当該住宅の借賃を支払う場合	利用する又は購入者等又はその配偶者が住宅を所有せず、かつ、当該住宅の借賃を支払う場合

利用する又は購入者等又はその配偶者が住宅を所有し、かつ、当該住宅の建設又は購入に必要な資金の貸付けに係る契約を締結している場合	利用する又は購入者等又はその配偶者が住宅を所有し、かつ、当該住宅の建設又は購入に必要な資金の貸付けに係る契約を締結していない場合
利用する又は購入者等又はその配偶者が住宅を所有せず、かつ、当該住宅の借賃を支払う場合	利用する又は購入者等又はその配偶者が住宅を所有せず、かつ、当該住宅の借賃を支払う場合

利用する又は購入者等又はその配偶者が住宅を所有せず、かつ、当該住宅の借賃を支払う場合	利用する又は購入者等又はその配偶者が住宅を所有し、かつ、当該住宅の建設又は購入に必要な資金の貸付けに係る契約を締結している場合
利用する又は購入者等又はその配偶者が住宅を所有し、かつ、当該住宅の建設又は購入に必要な資金の貸付けに係る契約を締結している場合	利用する又は購入者等又はその配偶者が住宅を所有し、かつ、当該住宅の建設又は購入に必要な資金の貸付けに係る契約を締結していない場合
利用する又は購入者等又はその配偶者が住宅を所有せず、かつ、当該住宅の借賃を支払う場合	利用する又は購入者等又はその配偶者が住宅を所有せず、かつ、当該住宅の借賃を支払う場合

利用する又は購入者等又はその配偶者が住宅を所有し、かつ、当該住宅の建設又は購入に必要な資金の貸付けに係る契約を締結している場合	利用する又は購入者等又はその配偶者が住宅を所有し、かつ、当該住宅の建設又は購入に必要な資金の貸付けに係る契約を締結していない場合
利用する又は購入者等又はその配偶者が住宅を所有せず、かつ、当該住宅の借賃を支払う場合	利用する又は購入者等又はその配偶者が住宅を所有せず、かつ、当該住宅の借賃を支払う場合

利用する又は購入者等又はその配偶者が住宅を所有し、かつ、当該住宅の建設又は購入に必要な資金の貸付けに係る契約を締結している場合	利用する又は購入者等又はその配偶者が住宅を所有し、かつ、当該住宅の建設又は購入に必要な資金の貸付けに係る契約を締結していない場合
利用する又は購入者等又はその配偶者が住宅を所有せず、かつ、当該住宅の借賃を支払う場合	利用する又は購入者等又はその配偶者が住宅を所有せず、かつ、当該住宅の借賃を支払う場合

利用する又は購入者等又はその配偶者が住宅を所有し、かつ、当該住宅の建設又は購入に必要な資金の貸付けに係る契約を締結している場合	利用する又は購入者等又はその配偶者が住宅を所有し、かつ、当該住宅の建設又は購入に必要な資金の貸付けに係る契約を締結していない場合
利用する又は購入者等又はその配偶者が住宅を所有せず、かつ、当該住宅の借賃を支払う場合	利用する又は購入者等又はその配偶者が住宅を所有せず、かつ、当該住宅の借賃を支払う場合

別表第三
第一号 北海道のうち北見市、網走市、留萌市、稚内市、美瑛市、芦別市、赤平市、紋別市、士別市、名寄市、三笠市、根室市、滝川市、砂川市、歌志内市、深川市、富良野市、伊達市、石狩市、北斗市、亀田郡七飯町、山越郡長万部町、檜山郡江差町、虻田郡京極町、同郡倶知安町、岩内郡岩内町、余市郡余市町、空知郡奈井江町、同郡上砂川町、同郡南富良野町、上川郡鷹栖町、同郡東神楽町、同郡上川町、同郡東川町、同郡新得町、勇払郡占冠町、同郡安平町、中川郡音威子府村、同郡中川町、同郡幕別町、天塩郡天塩町、同郡枝幸町、宗谷郡猿払村、枝幸郡浜頓別町、同郡枝幸町、網走郡美幌町、斜里郡斜里町、同郡清里町、紋別郡遠軽町、同郡滝上町、同郡興部町、同郡西興部村、同郡雄武町、沙流郡日高町、浦河郡浦河町、河東郡音更町、河西郡芽室町、同郡中札内村、足寄郡陸別町、釧路郡釧路町、川上郡弟子屈町、標津郡中標津町、同郡標津町、目梨郡羅臼町及び日高郡新ひだか町、青森県のうち弘前市、八戸市、黒石市、五所川原市、十和田市、三沢市及びむつ市、岩手県のうち宮古市、大船渡市、花巻市、北上市、久慈市、遠野市、一関市、陸前高田市、釜石市、二戸市、奥州市及び岩手郡滝沢村、宮城県のうち石巻市、気仙沼市、白石市、角田市、岩沼市、大崎市、柴田郡大河原町、同郡柴田

町、宮城郡七ヶ浜町、同郡利府町及び黒川郡
 富谷町、秋田県のうち能代市、横手市、大館
 市、男鹿市、湯沢市、鹿角市、由利本荘市及
 び大仙市、山形県のうち米沢市、鶴岡市、酒
 田市、新庄市、寒河江市、上山市、村山市、
 長井市、天童市、東根市、尾花沢市及び南陽
 市、福島県のうち会津若松市、郡山市、いわ
 き市、白河市、須賀川市、喜多方市、相馬市、
 二本松市及び南相馬市、茨城県のうち石岡市、
 龍ヶ崎市のうち常陸太田市、高萩市、牛久市、つ
 くば市、ひたちなか市、鹿嶋市、守谷市、筑
 西市、那珂郡東海村、稲敷郡美浦村及び北相
 馬郡利根町、栃木県のうち栃木市、佐野市、
 鹿沼市、日光市、小山市、真岡市、大田原市、
 矢板市、那須塩原市、下野市、河内郡上三川
 町及び下都賀郡壬生町、群馬県のうち伊勢崎
 市、太田市、沼田市、館林市、渋川市、藤岡
 市、富岡市、安中市、吾妻郡草津町、利根郡
 みなかみ町及び邑楽郡大泉町、埼玉県のうち
 行田市、秩父市、飯能市、加須市、本庄市、
 東松山市、羽生市、鴻巣市、深谷市、久喜市、
 日本市、蓮田市、坂戸市、幸手市、鶴ヶ島市、
 日高市、吉川市、北足立郡伊奈町、入間郡毛
 呂山町、同郡越生町、比企郡嵐山町、同郡白
 川町、同郡鳩山町、南埼玉郡宮代町、同郡白
 岡町、北葛飾郡栗橋町、同郡鷲宮町、同郡杉
 戸町及び同郡松伏町、千葉県のうち銚子市、
 館山市、木更津市、茂原市、成田市、東金市、
 旭市、勝浦市、鴨川市、君津市、富津市、袖
 ケ浦市、白井市、匝瑛市、香取市及び印旛郡
 酒々井町、東京都のうち西多摩郡日の出町、
 同郡檜原村、同郡奥多摩町、大島町、利島村、
 新島村、神津島村、三宅村、御蔵島村、八丈
 町、青ヶ島村及び小笠原村、神奈川県のうち
 足柄上郡中井町、同郡山北町、愛甲郡愛川町
 及び同郡清川村、新潟県のうち三条市、柏崎
 市、新発田市、小千谷市、加茂市、十日町市、
 見附市、村上市、燕市、糸魚川市、五泉市、
 上越市、佐渡市、魚沼市、妙高市、南魚沼郡
 湯沢町及び刈羽郡刈羽村、富山県のうち魚津
 市、氷見市、滑川市、黒部市、砺波市、小矢
 部市、南砺市、射水市、中新川郡舟橋村、同
 郡上市町、同郡立山町、下新川郡入善町及び
 同郡朝日町、石川県のうち七尾市、輪島市、
 珠洲市、加賀市、羽咋市、かほく市、白山市、
 能美市、能美郡川北町、石川郡野々市町、河
 北郡津幡町及び同郡内灘町、福井県のうち敦

賀市、小浜市、大野市、勝山市、鯖江市、あ
 わら市、越前市、坂井市、吉田郡永平寺町、
 南条郡南越前町及び丹生郡越前町、山梨県の
 うち富士吉田市、都留市、山梨市、大月市、
 韮崎市、甲斐市、笛吹市、上野原市、甲州市、
 中央市及び中巨摩郡昭和町、長野県のうち飯
 田市、須坂市、小諸市、伊那市、駒ヶ根市、
 中野市、大町市、飯山市、茅野市、塩尻市、
 佐久市、千曲市、東御市、安曇野市、北佐久
 郡軽井沢町、諏訪郡下諏訪町、同郡富士見町、
 上伊那郡辰野町、同郡箕輪町、木曾郡木曾町、
 東筑摩郡波田町、埴科郡坂城町及び上高井郡
 小布施町、岐阜県のうち高山市、関市、中津
 川市、美濃市、羽島市、恵那市、美濃加茂市、
 可児市、瑞穂市、羽島郡岐南町、同郡笠松町
 及び本巣郡北方町、静岡県のうち富士宮市、
 島田市、磐田市、焼津市、掛川市、藤枝市、
 御殿場市、袋井市、下田市、裾野市、湖西市、
 伊豆市、伊豆の国市、田方郡函南町、駿東郡
 清水町、同郡長泉町、同郡小山町、富士郡芝
 川町及び浜名郡新居町、愛知県のうち半田市、
 津島市、碧南市、西尾市、蒲郡市、犬山市、
 常滑市、江南市、小牧市、稲沢市、新城市、
 知多市、高浜市、田原市、愛西市、弥富市、
 愛知郡東郷町、同郡長久手町、西春日井郡豊
 山町、丹羽郡大口町、同郡扶桑町、海部郡七
 宝町、同郡美和町、同郡甚目寺町、同郡大治
 町、同郡蟹江町、同郡飛島村、知多郡阿久比
 町、同郡東浦町、同郡南知多町、同郡美浜町、
 同郡武豊町、幡豆郡一色町、同郡吉良町、同
 郡幡豆町、額田郡幸田町、西加茂郡三好町、
 北設楽郡設楽町、同郡東栄町及び宝飯郡小坂
 井町、三重県のうち伊勢市、熊野市、名張市、
 尾鷲市、亀山市、鳥羽市、鈴鹿市、志摩市、
 伊賀市、桑名郡木曾岬町、員弁郡東員町、三
 重郡菰野町、同郡朝日町、同郡川越町、滋賀
 県のうち彦根市、長浜市、近江八幡市、守山
 市、栗東市、甲賀市、野洲市、湖南市及び東
 近江市、京都府のうち福知山市、舞鶴市、綾
 部市、宮津市、亀岡市、南丹市、木津川市、綾
 賀郡井手町、同郡宇治田原町及び相楽郡精
 華町、大阪府のうち阪南市、豊能郡豊能町、
 同郡能勢町、泉南郡岬町、南河内郡太子町、
 同郡河南町及び同郡千早赤阪村、兵庫県のう
 ち洲本市、相生市、豊岡市、赤穂市、西脇市、
 三木市、小野市、三田市、加西市、たつの市、
 川辺郡猪名川町、加古郡稲美町及び揖保郡太

子町、奈良県のうち大和高田市、大和郡山市、
 天理市、桜井市、五條市、御所市、香芝市、
 葛城市、宇陀市、生駒郡平群町、同郡三郷町、
 同郡斑鳩町、同郡安堵町、磯城郡川西町、同
 郡三宅町、同郡田原本町、高市郡高取町、同
 郡明日香村、北葛城郡上牧町、同郡王寺町、
 同郡広陵町、同郡河合町、吉野郡吉野町、同
 郡大淀町及び同郡下市町、和歌山県のうち海
 南市、橋本市、有田市、御坊市、田辺市、新
 宮市、岩出市、海草郡紀美野町、伊都郡高野
 町、有田郡湯浅町、日高郡美浜町、西牟婁郡
 白浜町、東牟婁郡那智勝浦町、同郡太地町及
 び同郡串本町、鳥取県のうち米子市、倉吉市、
 境港市及び西伯郡日吉津村、島根県のうち浜
 田市、出雲市、益田市、大田市、安来市、江
 津市、八束郡東出雲町及び隠岐郡隠岐の島町
 岡山県のうち津山市、笠岡市、井原市、総
 社市、高梁市、新見市、備前市、瀬戸内市、
 赤磐市、浅口市、都窪郡早島町、浅口市里庄
 町及び小田郡矢掛町、広島県のうち竹原市、
 三次市、庄原市、東広島市、安芸高田市、江
 田島市及び安芸郡熊野町、山口県のうち萩市、
 下松市、光市、長門市、柳井市、美祿市、山
 陽小野田市、玖珂郡和木町、熊毛郡田布施町
 及び同郡平生町、徳島県のうち鳴門市、小松
 島市及び阿南市、香川県のうち丸亀市、坂出
 市、善通寺市、観音寺市、香川郡直島町、綾
 歌郡宇多津町、仲多度郡琴平町及び同郡多度
 津町、愛媛県のうち今治市、新居浜市、西条
 市及び四国中央市、福岡県のうち柳川市、八
 女市、筑後市、大川市、豊前市、小郡市、朝
 倉市及び嘉麻市、佐賀県のうち唐津市及び鳥
 栖市、長崎県のうち諫早市、大村市、西彼杵
 郡長与町及び同郡時津町、大分県のうち中津
 市、宮崎県のうち都城市及び延岡市、鹿児島
 県のうち鹿屋市、枕崎市、阿久根市、出水市、
 伊佐市、指宿市、西之表市、垂水市、薩摩川
 内市、日置市、いちき串木野市、霧島市、南
 さつま市、奄美市、始良郡加治木町及び同郡
 始良町、沖縄県のうち宜野湾市、石垣市、浦
 添市、名護市、糸満市、沖縄市、うるま市及
 び宮古島市

爾志郡乙部町、久遠郡せたな町、奥尻郡奥尻
 町、瀬棚郡今金町、島牧郡島牧村、寿都郡寿
 都町、同郡黒松内町、磯谷郡蘭越町、虻田郡
 二七コ町、同郡真狩村、同郡留寿都村、同郡
 喜茂別町、同郡豊浦町、同郡洞爺湖町、岩内
 郡共和町、古宇郡泊村、同郡神恵内村、積丹
 郡積丹町、古平郡古平町、余市郡仁木町、同
 郡赤井川村、空知郡南幌町、同郡上富良野町、
 同郡中富良野町、夕張郡由仁町、同郡長沼町、
 同郡栗山町、樺戸郡月形町、同郡浦臼町、同
 郡新十津川町、雨竜郡妹背牛町、同郡秩父別
 町、同郡雨竜町、同郡北竜町、同郡沼田町、
 同郡幌加内町、上川郡当麻町、同郡比布町、
 同郡愛別町、同郡美瑛町、同郡和寒町、同郡
 剣淵町、同郡下川町、同郡清水町、同郡本別町、
 深町、同郡池田町、同郡豊頃町、同郡本別町、
 増毛郡増毛町、留萌郡小平町、苫前郡苫前町、
 同郡羽幌町、同郡初山別村、天塩郡遠別町、
 同郡豊富町、枝幸郡中頓別町、礼文郡礼文町、
 利尻郡利尻町、同郡利尻富士町、網走郡津別
 町、同郡大空町、斜里郡小清水町、常呂郡訓
 子府町、同郡置戸町、同郡佐呂間町、紋別郡
 上湧別町、同郡湧別町、有珠郡壮瞥町、白老
 郡白老町、勇払郡厚真町、同郡むかわ町、沙
 流郡平取町、新冠郡新冠町、様似郡様似町、
 幌泉郡えりも町、河東郡士幌町、同郡上土幌
 町、同郡鹿追町、河西郡更別村、広尾郡大樹
 町、同郡広尾町、足寄郡足寄町、十勝郡浦幌
 町、厚岸郡厚岸町、同郡浜中町、川上郡標茶
 町、阿寒郡鶴居村、白糠郡白糠町及び野付郡
 別海町、青森県のうちつがる市、平川市、東
 津軽郡平内町、同郡今別町、同郡蓬田村、同
 郡外ヶ浜町、西津軽郡鰺ヶ沢町、同郡深浦町、
 中津軽郡西目屋村、南津軽郡藤崎町、同郡大
 鰐町、同郡田舎館村、北津軽郡板柳町、同郡
 鶴田町、同郡中泊町、上北郡野辺地町、同郡
 七戸町、同郡六戸町、同郡横浜町、同郡東北
 町、同郡六ヶ所村、同郡おいらせ町、下北郡
 大間町、同郡東通村、同郡風間浦村、同郡佐
 井村、三戸郡三戸町、同郡五戸町、同郡田子
 町、同郡南郡町、同郡階上町及び同郡新郷村
 岩手県のうち八幡平市、岩手郡雫石町、同
 郡葛巻町、同郡岩手町、紫波郡紫波町、同郡
 矢巾町、和賀郡西和賀町、胆沢郡金ヶ崎町、
 西磐井郡平泉町、東磐井郡藤沢町、気仙郡住
 田町、上閉伊郡大槌町、下閉伊郡山田町、同
 郡岩泉町、同郡田野畑村、同郡普代村、同郡

川井村、九戸郡軽米町、同郡野田村、同郡九戸村、同郡洋野町及び二戸郡一戸町、宮城県のうち登米市、栗原市、東松島市、刈田郡蔵王町、同郡七ヶ宿町、柴田郡村田町、同郡川崎町、伊具郡丸森町、亙理郡亙理町、同郡山元町、宮城郡松島町、黒川郡大和町、同郡大郷町、同郡大衡村、加美郡加美町、同郡色麻町、遠田郡涌谷町、同郡美里町、牡鹿郡女川町及び本吉郡南三陸町、秋田県のうち潟上市、北秋田市、仙北市、にかほ市、鹿角郡小坂町、北秋田郡上小阿仁村、山本郡藤里町、同郡三種町、同郡八峰町、南秋田郡五城目町、同郡八郎潟町、同郡井川町、同郡大湯村、仙北郡美郷町、雄勝郡羽後町及び同郡東成瀬村、山形県のうち東村山郡山辺町、同郡中山町、西村山郡河北町、同郡西川町、同郡朝日町、同郡大江町、北村山郡大石田町、最上郡金山町、同郡最上町、同郡舟形町、同郡真室川町、同郡大蔵村、同郡鮭川村、同郡戸沢村、東置賜郡高島町、同郡川西町、西置賜郡小国町、同郡白鷹町、同郡飯豊町、東田川郡三川町、同郡庄内町及び飽海郡遊佐町、福島県のうち田村市、伊達市、本宮市、伊達郡桑折町、同郡国見町、同郡川俣町、安達郡大玉村、岩瀬郡鏡石町、同郡天栄村、南会津郡下郷町、同郡檜枝岐村、同郡只見町、同郡南会津町、耶麻郡北塩原村、同郡西会津町、同郡磐梯町、同郡猪苗代町、河沼郡会津坂下町、同郡湯川村、同郡柳津町、大沼郡三島町、同郡金山町、同郡昭和村、同郡津美里町、西白河郡西郷村、同郡泉崎村、同郡中島村、同郡矢吹町、東白川郡棚倉町、同郡矢祭町、同郡瑞町、同郡鮫川村、石川郡石川町、同郡玉川村、同郡平田村、同郡浅川町、同郡古殿町、田村郡三春町、同郡小野町、双葉郡広野町、同郡檜葉町、同郡富岡町、同郡川内村、同郡大熊町、同郡双葉町、同郡浪江町、同郡葛尾村、相馬郡新地町及び同郡飯館村、茨城県のうち結城市、下妻市、北茨城市、笠間市、潮来市、常陸大宮市、那珂市、坂東市、稲敷市、かすみがうら市、神栖市、行方市、桜川市、鉾田市、常総市、つくばみらい市、小美玉市、東茨城郡茨城町、同郡大洗町、同郡城里町、久慈郡大子町、稲敷郡阿見町、同郡河内町、結城郡八千代町、猿島郡五霞町及び同郡境町、栃木県のうちさくら市、那須烏山市、上都賀郡西方町、芳賀郡益子町、同郡茂木町、同郡市貝町、同

郡芳賀町、下都賀郡野木町、同郡大平町、同郡藤岡町、同郡岩舟町、同郡都賀町、塩谷郡塩谷町、同郡高根沢町、那須郡那須町及び同郡那珂川町、群馬県のうちみどり市、北群馬郡榛東村、同郡吉岡町、多野郡神流町、同郡上野村、甘楽郡下仁田町、同郡南牧村、同郡甘楽町、吾妻郡中之条町、同郡長野原町、同郡嬭恋村、同郡六合村、同郡高山村、同郡東吾妻町、利根郡片品村、同郡川場村、同郡昭和村、佐佐郡玉村町、邑楽郡板倉町、同郡明和町、同郡千代田町及び同郡邑楽町、埼玉県のうち比企郡滑川町、同郡川島町、同郡吉見町、同郡ときがわ町、秩父郡横瀬町、同郡皆野町、同郡長瀬町、同郡小鹿野町、同郡東秩父村、児玉郡美里町、同郡神川町、同郡上里町、大里郡寄居町、北埼玉郡騎西町、同郡北川辺町、同郡大利根町及び南埼玉郡菖蒲町、千葉県のうち八街市、印西市、富里市、いすみ市、南房総市、山武市、印旛郡印旛村、同郡本埜村、同郡栄町、香取郡神崎町、同郡多古町、同郡東庄町、山武郡横芝光町、同郡大網白里町、同郡九十九里町、同郡芝山町、長生郡一宮町、同郡睦沢町、同郡長生村、同郡白子町、同郡長柄町、同郡長南町、夷隅郡大多喜町、同郡御宿町及び安房郡鋸南町、新潟県のうち阿賀野市、南魚沼市、胎内市、北蒲原郡聖籠町、西蒲原郡弥彦村、南蒲原郡北上町、東蒲原郡阿賀町、三島郡出雲崎町、北魚沼郡川口町、中魚沼郡津南町、岩船郡関川村及び同郡粟島浦村、石川県のうち羽咋郡志賀町、同郡宝達志水町、鹿島郡中能登町、鳳珠郡穴水町及び同郡能登町、福井県のうち今立郡池田町、三方郡美浜町、大飯郡高浜町、同郡おおい町及び三方上中郡若狭町、山梨県のうち南アルプス市、北杜市、西八代郡市川三郷町、南巨摩郡増穂町、同郡皷沢町、同郡早川町、同郡身延町、同郡南都町、南都留郡道志村、同郡西桂町、同郡忍野村、同郡山中湖村、同郡鳴沢村、同郡富士河口湖町、北都留郡小菅村及び同郡丹波山村、長野県のうち南佐久郡小海町、同郡川上村、同郡南牧村、同郡南相木村、同郡北相木村、同郡佐久穂町、同郡南相木村、同郡北相木村、同郡佐久穂町、同郡久野御代田町、同郡立科町、小県郡青木村、同郡長和町、諏訪郡原村、上伊那郡飯島町、同郡南箕輪村、同郡中川村、同郡宮田村、下伊那郡松川町、同郡高森町、同郡阿南町、同郡阿智村、同郡平谷村、同郡根羽村、同郡

下條村、同郡売木村、同郡天龍村、同郡泰阜村、同郡喬木村、同郡豊丘村、同郡大鹿村、木曾郡上松町、同郡南木曾町、同郡木祖村、同郡王滝村、同郡大桑村、東筑摩郡麻績村、同郡生坂村、同郡山形村、同郡朝日村、同郡筑北村、北安曇郡池田町、同郡松川村、同郡白馬村、同郡小谷村、上高井郡高山村、下高井郡山ノ内町、同郡木島平村、同郡野沢温泉村、上水内郡信州新町、同郡信濃町、同郡小川村、同郡中条村、同郡飯綱町及び下水内郡栄村、岐阜県のうち山県市、飛騨市、本巢市、郡上市、下呂市、海津市、養老郡養老町、不破郡垂井町、同郡関ヶ原町、安八郡神戸町、同郡輪之内町、同郡安八町、揖斐郡揖斐川町、同郡大野町、同郡池田町、加茂郡坂祝町、同郡富加町、同郡川辺町、同郡七宗町、同郡八百津町、同郡白川町、同郡東白川村、可児郡御嵩町及び大野郡白川村、静岡県のうち御前崎市、菊川市、牧之原市、賀茂郡東伊豆町、同郡河津町、同郡南伊豆町、同郡松崎町、同郡西伊豆町、榛原郡吉田町、同郡川根本町及び周智郡森町、愛知県のうち北設楽郡豊根村、三重県のうちいなべ市、多気郡多気町、同郡明和町、同郡大台町、度会郡玉城町、同郡度会町、同郡大紀町、同郡南伊勢町、北牟婁郡紀北町、南牟婁郡御浜町及び同郡紀宝町、滋賀県のうち高島市、米原市、蒲生郡安土町、同郡日野町、同郡竜王町、愛知郡愛荘町、犬上郡豊郷町、同郡甲良町、同郡多賀町、東浅井郡虎姫町、同郡湖北町、伊香郡高月町、同郡木之本町、同郡余呉町及び同郡西浅井町、京都府のうち京丹後市、相楽郡笠置町、同郡和東町、同郡南山村、船井郡京丹波町、与謝郡伊根町及び同郡与謝野町、兵庫県のうち篠山市、養父市、丹波市、南あわじ市、朝来市、淡路市、宍粟市、加東市、多可郡多可町、神崎郡市川町、同郡福崎町、同郡神河町、赤穂郡上郡町、佐用郡佐用町、美方郡香美町及び同郡新温泉町、奈良県のうち山辺郡山添村、宇陀郡曾爾村、同郡御杖村、吉野郡黒滝村、同郡天川村、同郡野迫川村、同郡十津川村、同郡北山村、同郡上北山村、同郡川上村及び同郡東吉野村、和歌山県のうち紀の川市、伊都郡かつらぎ町、同郡九度山町、有田郡広川町、同郡有田川町、日高郡日高町、同郡由良町、同郡印南町、同郡みなべ町、同郡日高川町、西牟婁郡上富田町、同郡すさみ町、東

牟婁郡古座川町及び同郡北山村、鳥取県のうち岩美郡岩美町、八頭郡若桜町、同郡智頭町、同郡八頭町、東伯郡三朝町、同郡湯梨浜町、同郡琴浦町、同郡北栄町、西伯郡大山町、同郡南部町、同郡伯耆町、日野郡日南町、同郡日野町及び同郡江府町、島根県のうち雲南市、仁多郡奥出雲町、飯石郡飯南町、鏡川郡斐川町、邑智郡川本町、同郡美郷町、同郡邑南町、鹿足郡津和野町、同郡吉賀町、隠岐郡海士町、同郡西ノ島町及び同郡知夫村、岡山県のうち真庭市、美作市、和気郡和気町、真庭郡新庄村、苫田郡鏡野町、勝田郡勝央町、同郡奈義町、英田郡西粟倉村、久米郡久米南町、同郡美咲町及び加賀郡吉備中央町、広島県のうち山県郡安芸太田町、同郡北広島町、豊田郡大崎上島町、世羅郡世羅町及び神石郡神石高原町、山口県のうち大島郡周防大島町、熊毛郡上関町、阿武郡阿武町及び同郡阿東町、徳島県のうち吉野川市、阿波市、美馬市、三好市、勝浦郡勝浦町、同郡上勝町、名東郡佐那河内村、名西郡石井町、同郡神山町、那賀郡那賀町、海部郡牟岐町、同郡美波町、同郡海陽町、板野郡松茂町、同郡北島町、同郡藍住町、同郡板野町、同郡上板町、美馬郡つるぎ町及び三好郡東みよし町、香川県のうち東かがわ市、さぬき市、三豊市、小豆郡土庄町、同郡小豆島町、木田郡三木町、綾歌郡綾川町及び仲多度郡まんのう町、愛媛県のうち宇和島市、八幡浜市、大洲市、伊予市、西予市、東温市、越智郡上島町、上浮穴郡久万高原町、伊予郡松前町、同郡砥部町、喜多郡内子町、西宇和郡伊方町、北宇和郡松野町、同郡鬼北町及び南宇和郡愛南町、高知県のうち室戸市、安芸市、南国市、土佐市、須崎市、宿毛市、土佐清水市、四万十市、香南市、香美市、安芸郡東洋町、同郡奈半利町、同郡田野町、同郡安田町、同郡北川村、同郡馬路村、同郡芸西村、長岡郡本山町、同郡大豊町、土佐郡土佐町、同郡大川村、吾川郡いの町、同郡仁淀川町、高岡郡中土佐町、同郡佐川町、同郡越知町、同郡樽原町、同郡日高村、同郡津野町、同郡四万十町、幡多郡大月町、同郡三原村及び同郡黒潮町、福岡県のうち前原市、うきは市、宮若市、みやま市、鞍手郡小竹町、同郡鞍手町、嘉穂郡桂川町、朝倉郡筑前町、同郡東峰村、糸島郡二丈町、同郡志摩町、三井郡大刀洗町、三潞郡大木町、八女郡黒木町、同郡立

花町、同郡広川町、同郡矢部村、同郡星野村、同郡川崎町、同郡添田町、同郡糸田町、同郡川崎町、同郡大任町、同郡赤村、同郡福智町、京都郡みやこ町、築上郡吉富町、同郡上毛町及び同郡築上町 佐賀県のうち多久市、伊万里市、武雄市、鹿島市、小城市、嬉野市、神埼市、神埼郡吉野ヶ里町、三養基郡基山町、同郡上峰町、同郡みやき町、東松浦郡玄海町、西松浦郡有田町、杵島郡大町町、同郡江北町、同郡白石町及び藤津郡太良町、長崎県のうち島原市、平戸市、松浦市、対馬市、杵岐市、五島市、雲仙市、南島原市、東彼杵郡東彼杵町、同郡川棚町、同郡波佐見町、北松浦郡小値賀町、同郡江迎町、同郡鹿町町、同郡佐々町及び南松浦郡新上五島町 熊本県のうち八代市、人吉市、水俣市、玉名市、山鹿市、菊池市、宇土市、上天草市、宇城市、阿蘇市、合志市、天草市、下益城郡城南町、同郡美里町、玉名郡玉東町、同郡南関町、同郡長洲町、同郡和水町、鹿本郡植木町、菊池郡大津町、同郡菊陽町、阿蘇郡南小国町、同郡小国町、同郡産山村、同郡高森町、同郡西原村、同郡南阿蘇村、上益城郡御船町、同郡嘉島町、同郡益城町、同郡甲佐町、同郡山都町、八代郡氷川町、葦北郡芦北町、同郡津奈木町、球磨郡錦町、同郡あさぎり町、同郡多良木町、同郡湯前町、同郡水上村、同郡相良村、同郡五木村、同郡山江村、同郡球磨村及び天草郡苓北町 大分県のうち日田市、佐伯市、臼杵市、津久見市、竹田市、豊後高田市、杵築市、宇佐市、豊後大野市、由布市、国東市、東国東郡姫島村、速見郡日出町、玖珠郡九重町及び同郡玖珠町 宮崎県のうち日南市、小林市、日向市、串間市、西都市、えびの市、宮崎郡清武町、北諸県郡三股町、西諸県郡高原町、同郡野尻町、東諸県郡国富町、同郡綾町、児湯郡高鍋町、同郡新富町、同郡西米良村、同郡木城町、同郡川南町、同郡都農町、東臼杵郡門川町、同郡諸塚村、同郡椎葉村、同郡美郷町、西臼杵郡高千穂町、同郡日之影町及び同郡五ヶ瀬町 鹿児島県のうち曾於市、志布志市、南九州市、鹿児島郡三島村、同郡十島村、薩摩郡さつま町、出水郡長島町、始良郡蒲生町、同郡湧水町、曾於郡大崎町、肝属郡東串良町、同郡錦江町、同郡南大隅町、同郡肝付町、熊毛郡中種子町、同郡南種子町、同郡屋久島町、大島郡大和村、同郡宇檢村、同

郡瀬戸内町、同郡龍郷町、同郡喜界町、同郡徳之島町、同郡天城町、同郡伊仙町、同郡泊町、同郡知名町及び同郡与論町 沖縄県のうち豊見城市、南城市、国頭郡国頭村、同郡大宜味村、同郡東村、同郡今帰仁村、同郡本部町、同郡恩納村、同郡宜野座村、同郡金武町、同郡伊江村、中頭郡読谷村、同郡嘉手納町、同郡北谷町、同郡北中城村、同郡中城村、同郡西原町、島尻郡与那原町、同郡南風原町、同郡久米島町、同郡渡嘉敷村、同郡座間味村、同郡粟国村、同郡渡名喜村、同郡南大東村、同郡北大東村、同郡伊平屋村、同郡伊是名村、同郡八重瀬町、宮古郡多良間村、八重山郡竹富町及び同郡与那国町

非対象区
第一区及び第二区以外の市町村

様式第1 (第12条関係)

様式第1 (第12条関係) (1) 関係者(1)～(4) (2) 関係者(5)～(8) (3) 関係者(9)～(11) (4) 関係者(12)～(14)
 関係者(1)～(14) 関係者(15)～(17) 関係者(18)～(20) 関係者(21)～(23) 関係者(24)～(26) 関係者(27)～(29) 関係者(30)～(32) 関係者(33)～(35) 関係者(36)～(38) 関係者(39)～(41) 関係者(42)～(44) 関係者(45)～(47) 関係者(48)～(50) 関係者(51)～(53) 関係者(54)～(56) 関係者(57)～(59) 関係者(60)～(62) 関係者(63)～(65) 関係者(66)～(68) 関係者(69)～(71) 関係者(72)～(74) 関係者(75)～(77) 関係者(78)～(80) 関係者(81)～(83) 関係者(84)～(86) 関係者(87)～(89) 関係者(90)～(92) 関係者(93)～(95) 関係者(96)～(98) 関係者(99)～(101) 関係者(102)～(104) 関係者(105)～(107) 関係者(108)～(110) 関係者(111)～(113) 関係者(114)～(116) 関係者(117)～(119) 関係者(120)～(122) 関係者(123)～(125) 関係者(126)～(128) 関係者(129)～(131) 関係者(132)～(134) 関係者(135)～(137) 関係者(138)～(140) 関係者(141)～(143) 関係者(144)～(146) 関係者(147)～(149) 関係者(150)～(152) 関係者(153)～(155) 関係者(156)～(158) 関係者(159)～(161) 関係者(162)～(164) 関係者(165)～(167) 関係者(168)～(170) 関係者(171)～(173) 関係者(174)～(176) 関係者(177)～(179) 関係者(180)～(182) 関係者(183)～(185) 関係者(186)～(188) 関係者(189)～(191) 関係者(192)～(194) 関係者(195)～(197) 関係者(198)～(200) 関係者(201)～(203) 関係者(204)～(206) 関係者(207)～(209) 関係者(210)～(212) 関係者(213)～(215) 関係者(216)～(218) 関係者(219)～(221) 関係者(222)～(224) 関係者(225)～(227) 関係者(228)～(230) 関係者(231)～(233) 関係者(234)～(236) 関係者(237)～(239) 関係者(240)～(242) 関係者(243)～(245) 関係者(246)～(248) 関係者(249)～(251) 関係者(252)～(254) 関係者(255)～(257) 関係者(258)～(260) 関係者(261)～(263) 関係者(264)～(266) 関係者(267)～(269) 関係者(270)～(272) 関係者(273)～(275) 関係者(276)～(278) 関係者(279)～(281) 関係者(282)～(284) 関係者(285)～(287) 関係者(288)～(290) 関係者(291)～(293) 関係者(294)～(296) 関係者(297)～(299) 関係者(300)～(302) 関係者(303)～(305) 関係者(306)～(308) 関係者(309)～(311) 関係者(312)～(314) 関係者(315)～(317) 関係者(318)～(320) 関係者(321)～(323) 関係者(324)～(326) 関係者(327)～(329) 関係者(330)～(332) 関係者(333)～(335) 関係者(336)～(338) 関係者(339)～(341) 関係者(342)～(344) 関係者(345)～(347) 関係者(348)～(350) 関係者(351)～(353) 関係者(354)～(356) 関係者(357)～(359) 関係者(360)～(362) 関係者(363)～(365) 関係者(366)～(368) 関係者(369)～(371) 関係者(372)～(374) 関係者(375)～(377) 関係者(378)～(380) 関係者(381)～(383) 関係者(384)～(386) 関係者(387)～(389) 関係者(390)～(392) 関係者(393)～(395) 関係者(396)～(398) 関係者(399)～(401) 関係者(402)～(404) 関係者(405)～(407) 関係者(408)～(410) 関係者(411)～(413) 関係者(414)～(416) 関係者(417)～(419) 関係者(420)～(422) 関係者(423)～(425) 関係者(426)～(428) 関係者(429)～(431) 関係者(432)～(434) 関係者(435)～(437) 関係者(438)～(440) 関係者(441)～(443) 関係者(444)～(446) 関係者(447)～(449) 関係者(450)～(452) 関係者(453)～(455) 関係者(456)～(458) 関係者(459)～(461) 関係者(462)～(464) 関係者(465)～(467) 関係者(468)～(470) 関係者(471)～(473) 関係者(474)～(476) 関係者(477)～(479) 関係者(480)～(482) 関係者(483)～(485) 関係者(486)～(488) 関係者(489)～(491) 関係者(492)～(494) 関係者(495)～(497) 関係者(498)～(500)

様式第2 (第12条、第63条、第68条、第99条、第122条、第126条、第136条関係)

様式第2 (第12条、第63条、第68条、第99条、第122条、第126条、第136条関係)

財産に関する調査

財産の種類	取得年月	取得場所	取得者	取得金額	取得割合	取得割合の算出方法
1 土地						
2 建物						
3 動産						
4 債権						
5 権利						
6 債権						
7 権利						
8 債権						
9 権利						
10 債権						
11 権利						
12 債権						
13 権利						
14 債権						
15 権利						
16 債権						
17 権利						
18 債権						
19 権利						
20 債権						
21 権利						
22 債権						
23 権利						
24 債権						
25 権利						
26 債権						
27 権利						
28 債権						
29 権利						
30 債権						
31 権利						
32 債権						
33 権利						
34 債権						
35 権利						
36 債権						
37 権利						
38 債権						
39 権利						
40 債権						
41 権利						
42 債権						
43 権利						
44 債権						
45 権利						
46 債権						
47 権利						
48 債権						
49 権利						
50 債権						
51 権利						
52 債権						
53 権利						
54 債権						
55 権利						
56 債権						
57 権利						
58 債権						
59 権利						
60 債権						
61 権利						
62 債権						
63 権利						
64 債権						
65 権利						
66 債権						
67 権利						
68 債権						
69 権利						
70 債権						
71 権利						
72 債権						
73 権利						
74 債権						
75 権利						
76 債権						
77 権利						
78 債権						
79 権利						
80 債権						
81 権利						
82 債権						
83 権利						
84 債権						
85 権利						
86 債権						
87 権利						
88 債権						
89 権利						
90 債権						
91 権利						
92 債権						
93 権利						
94 債権						
95 権利						
96 債権						
97 権利						
98 債権						
99 権利						
100 債権						

別添9
銀行探査明細書 (単位: 千円)

銀行名	貸出				借入金				計	備考
	貸出	貸出	貸出	貸出	借入金	借入金	借入金	借入金		
合 計										

別添10
金融信託明細書 (単位: 千円)

金融信託名	貸出		借入金		計	備考
	貸出	貸出	借入金	借入金		
計						

別添9
貸付証券明細書

証券名	貸付証券		借入金		貸付証券計上額	備考
	貸付証券	貸付証券	借入金	借入金		
計						

- (備考)
- 「貸付」及び「借入金」の欄は、貸付証券に記載の科目の欄頭に記載すること。
 - 公債の欄は、「有価証券の貸付」の欄に記載し、貸付及び借入金

地方債の欄は、「貸付証券」又は「貸付証券」の欄に記載すること。

- 3 月別の大まさは、日本銀行提供A4とする。

別添10
貸付証券明細書

証券名	貸付証券		借入金		貸付証券計上額	備考
	貸付証券	貸付証券	借入金	借入金		
計						

- (備考)
- 「貸付」の欄は、貸付証券の欄に記載すること。
 - 月別の大まさは、日本銀行提供A4とする。

別添10
貸付証券明細書

証券名	貸付証券		借入金		貸付証券計上額	備考
	貸付証券	貸付証券	借入金	借入金		
計						

- (備考)
- 「貸付」の欄は、貸付証券の欄に記載すること。
 - 月別の大まさは、日本銀行提供A4とする。

別添10
貸付証券明細書 (単位: 円)

証券名	貸付証券		借入金		貸付証券計上額	備考
	貸付証券	貸付証券	借入金	借入金		
計						

- (備考)
- 「貸付」の欄は、貸付証券に記載の科目の欄頭に記載すること。
 - 「貸付証券」、「借入金」、「貸付証券」及び「借入金」の欄は、貸付証券に記載すること。
 - 「貸付証券」の欄は、貸付証券に記載すること。
 - 「借入金」の欄は、貸付証券に記載すること。
 - 「貸付証券」の欄は、貸付証券に記載すること。
 - 「借入金」の欄は、貸付証券に記載すること。
 - 「貸付証券」の欄は、貸付証券に記載すること。
 - 「借入金」の欄は、貸付証券に記載すること。
 - 「貸付証券」の欄は、貸付証券に記載すること。
 - 「借入金」の欄は、貸付証券に記載すること。

表 10-1 项目主要污染源及治理措施		治理措施	
污染源名称	主要污染物	治理措施	可行性
施工期	扬尘	洒水、围挡、覆盖	可行
	噪声	设置声屏障、合理安排施工时间	可行
	废水	沉淀池、化粪池	可行
	固废	分类收集、清运	可行
	生活污水	化粪池	可行
	雨水	雨水管网	可行
	施工机械尾气	定期维护、禁止怠速	可行
	施工扬尘	洒水、围挡	可行
	施工噪声	设置声屏障	可行
	施工废水	沉淀池	可行
运营期	生活污水	化粪池	可行
	雨水	雨水管网	可行
	噪声	设置声屏障	可行
	固废	分类收集、清运	可行
	扬尘	洒水、围挡	可行
	施工机械尾气	定期维护、禁止怠速	可行
	施工扬尘	洒水、围挡	可行
	施工噪声	设置声屏障	可行
	施工废水	沉淀池	可行
	施工期	扬尘	洒水、围挡

表 10-2 项目主要污染源及治理措施		治理措施	
污染源名称	主要污染物	治理措施	可行性
施工期	扬尘	洒水、围挡、覆盖	可行
	噪声	设置声屏障、合理安排施工时间	可行
	废水	沉淀池、化粪池	可行
	固废	分类收集、清运	可行
	生活污水	化粪池	可行
	雨水	雨水管网	可行
	施工机械尾气	定期维护、禁止怠速	可行
	施工扬尘	洒水、围挡	可行
	施工噪声	设置声屏障	可行
	施工废水	沉淀池	可行
运营期	生活污水	化粪池	可行
	雨水	雨水管网	可行
	噪声	设置声屏障	可行
	固废	分类收集、清运	可行
	扬尘	洒水、围挡	可行
	施工机械尾气	定期维护、禁止怠速	可行
	施工扬尘	洒水、围挡	可行
	施工噪声	设置声屏障	可行
	施工废水	沉淀池	可行
	施工期	扬尘	洒水、围挡

表 10-3 项目主要污染源及治理措施		治理措施	
污染源名称	主要污染物	治理措施	可行性
施工期	扬尘	洒水、围挡、覆盖	可行
	噪声	设置声屏障、合理安排施工时间	可行
	废水	沉淀池、化粪池	可行
	固废	分类收集、清运	可行
	生活污水	化粪池	可行
	雨水	雨水管网	可行
	施工机械尾气	定期维护、禁止怠速	可行
	施工扬尘	洒水、围挡	可行
	施工噪声	设置声屏障	可行
	施工废水	沉淀池	可行
运营期	生活污水	化粪池	可行
	雨水	雨水管网	可行
	噪声	设置声屏障	可行
	固废	分类收集、清运	可行
	扬尘	洒水、围挡	可行
	施工机械尾气	定期维护、禁止怠速	可行
	施工扬尘	洒水、围挡	可行
	施工噪声	设置声屏障	可行
	施工废水	沉淀池	可行
	施工期	扬尘	洒水、围挡

表 10-4 项目主要污染源及治理措施		治理措施	
污染源名称	主要污染物	治理措施	可行性
施工期	扬尘	洒水、围挡、覆盖	可行
	噪声	设置声屏障、合理安排施工时间	可行
	废水	沉淀池、化粪池	可行
	固废	分类收集、清运	可行
	生活污水	化粪池	可行
	雨水	雨水管网	可行
	施工机械尾气	定期维护、禁止怠速	可行
	施工扬尘	洒水、围挡	可行
	施工噪声	设置声屏障	可行
	施工废水	沉淀池	可行
运营期	生活污水	化粪池	可行
	雨水	雨水管网	可行
	噪声	设置声屏障	可行
	固废	分类收集、清运	可行
	扬尘	洒水、围挡	可行
	施工机械尾气	定期维护、禁止怠速	可行
	施工扬尘	洒水、围挡	可行
	施工噪声	设置声屏障	可行
	施工废水	沉淀池	可行
	施工期	扬尘	洒水、围挡

注：1. 本项目位于... 2. 本项目位于... 3. 本项目位于...

